

サバンナに
沈む夕陽に
涙して

早川 廣行



前書きに代えて

1971年十月十九日から1973年三月五日まで、思い立って海外放浪の旅に出たのだが、その間、日記代わりにと小まめに家族宛、書き送っていた手紙が残されていた。この世を旅立つ前に青春の思い出として五十年ぶりに整理し、このサイトに残すこととした。少しでも読んだ方の参考になれば幸いだ。

アフリカに行こう

一九七一年八月、満二十六歳の誕生日を目前に控えたある日、冒険家の入江さんから聞いた話が私の心に火をつけた。

「男だったら早川さん、一度はこの目で見なくちゃウソですよ！黙って見てるだけで自然に涙が流れてくるんですよ。言

葉で言えばキレイな夕焼け、ただそれだけなんですけど、サバンの夕陽には、男の心を魅了する何かがあるんだな！」

東アフリカの大草原に沈む夕陽に涙を流す。なんてロマンチック、それこそ男のロマン！

ともかく若いうちに……感動できる心を持っているうちに、アフリカに行こうと独り密かに心に決めた。

とりあえずヨーロッパへ

手当たり次第アフリカ旅行の資料を掻き集めて見たけれど、夕陽を見にアフリカへ行く為の都合の良い解説などが皆

無、ジャルパック「夕陽のアフリカ」版なども当時は無く、その上、予備知識として私の頭の中にあるアフリカは、暑くて湿っぽくて、草木が密集して、眠り病になってほとんど死に至るといふ恐ろしい病原菌を媒介するツエツエバエや、マラリア、象皮病、天然痘、得体の知れない性病の巣、といったイメージ。とても独りではたちうちできる気がしなくて、じゃあ、取り敢えずヨーロッパへ行ってみよう、ヨーロッパはアフリカに近いし、古くから植民地として支配した歴史から、アフリカの事情も日本よりはるかに詳しく分かる筈だと、ともかく日本を出たのが二ヶ月後十月十九日のこと。

ヨーロッパでの収穫

ソ連のナホト力港を振り出しに、北回りで冬の北欧・西欧の旅は何かとひとり旅のテクニクの一通りを習得させてくれ、アフリカ旅行の情報も色々と入手、必要な装備購入、必要な物をトーマス・クック社の預かり所に預け、黄熱病、チフスなどの予防接種も済ませ、ロンドンを出発したのが七ヶ月後の五月十六日の事でした。

丸七ヶ月のヨーロッパ旅行が私にもたらした収穫は表面的な知識欲の満足（頭に描いていた知識の追体験）人間不信（良い人と悪い人の差が、あまりにもはっきりしている事）

異国における貧乏独り旅のテクニクといったところだったのです。正味四ヶ月足らずのアフリカ旅行で得た収穫との差を考えると、無駄であったとは思いませんが、旅としては充実に欠ける物足りないものでした。

内面への旅

サバンナに佇み、大草原に沈む夕陽に涙するという行為に、男のロマンチズム以上の、私自身の内面への旅立ちを象徴させながら、私のアフリカ貧乏旅行は始まったのでした。

私のサファリは、動物を狩ったり景色を見たり、風物、行事を賞でるものではなく、自分自身の心の中へ、本当の自分を探しに行く為の探検旅行だったのです。

横浜港を出港して北回りです連、フィンランド、スエーデン、デンマーク、ベルギー、ドイツ、フランス、スペイン、ポルトガル、イタリア、ギリシャ、トルコ、ルーマニア、イギリスと巡ったヨーロッパは前座で、本当の旅は北アフリカの西端、モロッコから始まったのです。地中海岸を東へ東へ、アルジェリア、チュニジア、リビア、エジプトと横断、カイロから母なるナイル川沿いに南下、アスワンハイダムからの二泊三日の船旅も含めて、熱砂の国スーダンから、緑の

高原エチオピア、東アフリカはケニヤ、タンザニア、ザンビアまでの主に陸路をたどった旅が本番でした。

それぞれの首都を飛行機で飛ばせば、何週間かのジャルパツク「アフリカ」で済ませられるのですが、それで一冊本を書かれた竹村健一先生のような、中身の薄い旅になってしまいます。

陸路をたどるアフリカの旅は、それは、それは、ノンビリと広さを感じさせてくれます。

スワヒリ語で「ゆっくり」というのを「ポレポレ」と言いますが、その語感のごとくポレポレイズムに浸りきったアフリカの旅は、他の旅とは違った何かを我々にもたらしてくれるようです。

数多く出した中で無事実家に届いて保存されていた手紙を元に五十年後に編集しておりますので、前後の脈絡など矛盾も御座いますがご愛嬌としてお見過ごしてください。

我家は先祖代々浄土真宗の熱心な信者であり、戦後まもなくから父母が健全であった頃は月一度、お寺さんを家に招いて、家族縁者でお説教を拝聴する会を開催していた、そんな環境で私、早川は育ったという予備知識を踏まえてお読み頂くと、多少は内容に共感頂けるかと思えます。

サバナに沈む夕陽に涙して 目次

1971年十月十九日横浜から出港	6	三月二十八日ブカレストにて絵葉書	42
十一月二日ヘルシンキにて	7	四月十一日イスタンブールにて絵葉書	43
十一月四日ツルクにて	9	四月十六日ミコノス島にて絵葉書	44
十一月十一日ストックホルムにて	10	四月二十一日ローマにて絵葉書	45
十一月二十三日ストックからの絵葉書	12	四月二十八日再びローマにて絵葉書	45
十二月十九日パリにて1	13	五月四日パリにて2	45
一月八日リスボン発の列車内にて	16	五月二十五日テトワンにて	47
1972年一月二十日コルドバにて	18	六月五日モロッコタザにて	48
一月下旬マラケシュにて 絵葉書	23	六月十五日チュニスにて絵葉書	49
二月初旬バルセロナにて	24	六月二十日トリポリにて	50
二月十三日ローマにて	25	六月二十八日カイロにて1	51
二月二十二日インターラーケンにて	26	七月一日カイロにて2	52
二月二十八日バーゼルにて絵葉書	29	七月三日カイロから嫁取り依頼	54
三月三日ベルリンにて	30	七月十日カイロにて4	55
三月八日ウイーンにて	30	七月十七日アスワンにて	58
三月十三日サンアントンにて1	32	七月十八日から二十二日まで船旅1	58
三月十七日サンアントンにて2	33	七月十九日(水) 船旅2	62
三月十八日サンアントンにて3	36	七月二十日(木) 船旅3	63
三月二十一日サンアントンにて4	38	七月二十一日(金) ワデイハルファにて	64
三月二十三日再びウイーンにて	39	七月二十二日(土) カルツームにて1	65

七月二十三日カルツームにて 2	66	十月十八日リヴィングストーン (ザンビア) にて	103
七月三十日アデイスアベバにて 1	68	十月十九日ヴィクトリアフォールスにて	104
七月三十一日アデイスアベバにて 2	69	十月二十五日ルサカにて	106
八月四日アデイスアベバにて 3	70	十月三十日ムベヤ (タンザニア) にて	110
八月十日アデイスアベバにて 4	73	早川廣行の一人百首	110
八月十二日アデイスアベバにて 5	74	十一月二日コペンハーゲン (デンマーク) にて 絵葉書	118
八月十五日アデイスアベバにて 6	75	十一月六日デンマークにて	118
八月十八日バルダールにて	76	十一月十日パリにて 3	120
八月二十二日アデイスアベバにて 7	82	十一月十二日パリにて 4	123
八月二十六日アデイスアベバにて 8	85	十一月十六日ロンドンにて 1	129
八月二十九日ナイロビにて 1	87	十一月二十五日ロンドンにて 2	133
九月十三日ナイロビにて 2 絵葉書	88	十一月二十八日ロンドンにて 3	134
九月二十日ナイロビにて 3	89	十二月二十七日メシエッド (イラン) にて	137
九月二十一日ナクルーにて	91	一九七三年一月八日ラウルピンティ (パキスタン) にて	138
九月二十八日ムソマ (タンザニア) にて	96	一月十四日ニューデリー (インド) にて	138
十月八日モシにて	98	一月三十日パトナ (インド) にて	140
山登りしながら詠みし歌	98	二月十六日カトマンズ (ネパール) にて	142
十月十日ダルエスサラムにて	100	二月二十一日カルカッタ (インド) にて	143
十月十四日ムベヤにて	102	三月二日香港九竜の国際酒店にて	145
近作の歌です	102		

1971年十月十九日 横浜から出港

横浜港を出てから六日目、今モスクワの二日目を過ぎています。夜十一時頃の列車でヘルシンキへ出発の予定。共産国ソ連観光の予定は無し。通過国です。

船は第一日目、太平洋に出てから海岸線を左手に見ながら、津軽海峡へと進む間、かなり揺れて昼食後気分が悪くなる者続出、私の部屋は船首近くの船底、一番安い四人部屋で、他にも増して揺れがひどく、同室の若人二人は完全にダウン、次の日の昼食まで食事もとらず寝ていましたが、不思議と私は酔いもせず、四分の一ほどの人数しか出てこない食卓で、同室のヒッピー風のドイツ人と一緒に毎回きちんと食事を平らげていました。聞いていたよりも食事は美味しくて、全部平らげてそれでも食事時間前になると腹が空くといった、東京よりはるかに動かずのんびりしているのに不思議な感じではありません。そのドイツ人は1963年に国を出てから、アフリカ、アジアと周り、日本に四ヶ月いて日本の運転免許書をとったとかで、国に帰るのが八年ぶりという典型的な放浪者。物静かな哲人風の男でした。

二十一日に私の乗ったハバロフスク号はナホトカ入港。やはりカメラ機材をたくさん持った私は、他の人

に比べるとはるかに嚴重に調べられました。賄賂を渡すこともなく、なんとか無事通関完了。

列車は四人部屋のコンパートメント、日本の列車よりははるかに綺麗、食堂車も上等、ここまではソ連もなかなかのものだと思つたのですが、ハバロフスク空港でモスクワに雪が降つたということで、何の案内もなく寒々しいロビーで出発を待たされること四時間、その後九時間の空の旅でモスクワに着いたのがナホトカ時間で午前二時、モスクワ時間では夜の九時半。ちょうど空港のテレビでアイスホッケーの試合を放送しておりました。

ここでも手続きがもたもたして、バスでモスクワ市内のホテルに入室できたのは夜の十一時頃、身体の慣れているナホトカ時間では午前四時、日本時間では午前五時。すでにインツォーリスト（旅行代理店）は閉店、手続きは翌朝に言うことで、夜食はホテルでは摂れず同宿の連中と食べ物を探しに街へ出たところ、商社関係で一年近く滞在していると言う人物に招待されて、レストランへ、料理はあまり無かつたのですが酒をご馳走になって助かりました。何しろサービス業務の鈍く不能な事はなはだしく、心臓に毛が生えているレベルか、ロシア語に堪能かでない、お金は

持っていても飢え死にしそうな街です。どこへ行っても信じられないくらい行列、行列で、それでも辛抱強く大人しく待っているロシア人が悲しくも哀れに思えてきます。

昨夜、クレムリンパレスシアターでボリシヨイバレエ団の「白鳥の湖」を観劇、三ルーブル四十力ペイカはちよつと痛かったのですが、日本よりははるかに安く楽しい時間を過ごすことができました。

アイスホッケーはまだシーズンではなく、実際の試合を見られなかったのがちよつと残念。身体はいたって健康、緊急用に用意した薬もまだ一度も使用せず。酒も食事も美味しく大いに楽しんでおります。

次はフィンランドでしばらく滞在する予定。サウナの本場で痩せられたらと思っております。母上、姉上、兄上、チビ君たちにもよろしくお伝えください。俊和兄、寛子姉には最後までお見送り頂き、お世話になりました、有難う御座います。賀恵子姉にもよろしく。面倒な訳でもないのに、意外と手紙を書く暇が見付かりません。そう頻繁には出せないと思いますがご心配無く。現地で購入した切手同封しました。家正が喜ぶと思えます。ご両親様、ご一同様には御健康に留意してお元気で！。

敬具

追伸

今宿泊しているナシヨナルホテルは、赤の広場に面したものすごく豪華な部屋。大きなシャンデリアの下がった二十畳十畳くらいの続き部屋で、日本で言えば帝国ホテルクラスの格式のあるホテルです。

クレムリン宮殿を前に広場で行われている、革命記念日の予行演習を二階のテラス窓から眺めながら、手紙を書いています。とてもツーリストクラスで泊まれる部屋とは思えません、まだまだ発展途上の社会主義国の抱える矛盾・アンバランスさが窺える気がします。

注：写真は次頁に
1971年十月二十四日十二時記

十一月二日 ヘルシンキにて

十一月二日、ヘルシンキに来て一週間経ちます。最早見るものもないので、明日の朝、汽車でツルクへ行こうと思っております。ツルクが面白かったら二、三日滞在后、ストックホルムへフェリーで渡る予定です。ストックではやはり二週間から十日くらいは滞在したいと思っておりますので、私宛の手紙はストックホルムの中央郵便局留で、十一月の十日か十二日くらいまで



前ページで述べたモスクワのナショナルホテル、続き部屋の寝室も含む

にエアメールで出して頂ければ入手可能です。もしすれ違いになったら、二カ月、局で保存して日本へ送り返すそうですから、次の滞在予定地パリの局留にしても良さそうです。十一月十五日以降に出す手紙は、パリの局留の方が良いでしょう。宛先は最後に書いておきます。

モスクワからヘルシンキへの列車の中で引いた風邪も、のんびりしていたらすっかり治りました。今は元気一杯です。東京にいたらとても考えられないような健康的な生活をおくっています。

経済的には現在ユースホテルに泊まっていますので、宿泊費が一泊5・5マルカ（1マルカは八十五円）朝食が3マルカ、昼食が6マルカ、夜食が半分自炊で5から8マルカ、計20マルカ（千七百円）、雑費を入れても二千円くらいで優雅に暮らしています。スウェーデンはフィンランドよりも少し物価が高いようですのでやはり一日10ドルくらいかかるでしょう。言葉の方は私の拙い英語でも結構通じますので、男は度胸、図々しくやっております。パリに行くのは多分十二月一日前後になると思います。

スウェーデンのストックホルムで正確な日程が出ると思いますので、和典兄にはストックから手紙を出す

つもりです。列車はパリ北駅に着く予定です。またストックから手紙を出します。皆様におかれましては健康であられますように！

敬具
廣行拝

ストックホルムの局留住所

For Poste Restante Main Post Office

Vasagatan 28-34 Stockholm Sweden

パリの局留住所

For Poste Restante Main Post Office

Paris France

十一月四日 ツルクにて

昨日ヘルシンキを立ってフィンランド第三の都にして、かつての首都、古い都、いわば京都に当たるような街ツルクに來ています。ここから対岸のスウェーデンのストックホルムにフェリーボートが運行されているので、明日夕方、それでストックホルムに行くつもりです。

京都のようとはいうものの度重なる戦火に残る古い建物は少なく、あまり見るものは無いようです。ヘルシンキに比べると、遥かに静かで落ち着いた街です。

ヘルシンキでは至る所にいた日本の若者も、此処ではこの二日間で一人にも出逢っていません。ツルクにはユースホステルが無い所為もあるのでしょうか、この街の静かさが彼らには向いていないのでしょうか。ヘルシンキからストックホルムに行く為には直通便もあるのですが、ほとんどの旅行者はツルク経由で行くの、宿泊して市内見物する人は少数派です。

明後日の朝には水の都、北欧第一の大都会ストックホルムへ着いている筈です。この都はヨーロッパの中で一番日本の若者が集まっているところで、一口に三千人とも一万人とも言われています。今は冬なので最も少なくなっているようですし、日本人の就労を厳しく制限し始めているので、ストックを離れるヨーロッパ渡り鳥達が多いようですが。北欧で一番物価が高いそうですから、あまり滞在を長くすると足を出しそうです。今所持しているお金がドイツマルク、USDドル、日本円と色々なので、いくら財産があるのかピンと来ません。ともかくなるべく出費を抑えるようにしています。宿泊費は言葉と足を使えば何とか安いところを探せるのですが、ユースホステルのないところでは、私の語学力では残念ながら、相場のエコノミーホテルしか見つかりませんでした。一泊25マル

力(二千二百二十五円) 支払っております。食費は一日一回は温かいものが食べたいので、街のグリルで5マルカ(四百二十五円) から8マルカ(六百八十円) で一品料理を(一皿で肉とじゃが芋がたっぷりあるので充分)、あと二回はスーパーマーケットで仕入れたパンとミルク、ハムや人参、キャベツなどで済ませていきます。人参の丸ごと生齧り等はこちらへ来て初めて試みましたが結構いけます。5〜6本で80ペニ(六十八円)、キャベツはでかいのが一箇一マルカ(八十五円) くらい。ユースへ行くと欧米人でも皆丸齧りしています。ミルクは二分の一リットル45ペニ(四十円くらい) で、栄養的には結構なものだと思います。

切手を同封しておきます。絵画切手はMAGYAR(マジャール)とありますが、これはハンガリーのものです。ハンガリーの主要民族がマジャール人なのです。40f、60f、1FtとありますがFont(フォント)が通貨の単位で、日本円で三十円くらい。100fで1フォントなので、40fは十二円、60fは十八円くらいになります。もうひと組はフィンランドの通常切手の組み合わせで、5ペニ(四円二十五銭)、10ペニ、25ペニ、35ペニ、40ペ

ニ、50ペニが一組、50ペニ、1マルカ、1.5マルカ、2マルカで二組、他に特殊切手40ペニと50ペニが付いています。

このエアレターは原則物を入れてはいけませんが、同じ紙類ですし、あえて入れます。超過料金を請求されたらすみませんが払ってください。ストックに故郷からの**初手紙**がついているのを期待して。十一月十二日以降に出すエアメールはやはりパリの局留にしてください。

敬具
廣行拝

十一月十一日 ストックホルムにて

ご両親様

元氣にお過ごしのことと思います。私は今日でストックホルム(スエーデンの首都)について六日目になります。昨日までフェリーの中で旅行者から紹介された、この物価の高い国では最も宿賃の安いと言われる、グラスブラケットホテルに泊まっていました。公共の福祉施設だと思えますが、一泊4・75クローナ(三百円くらい)です。ユースホステルでも9クローナするこの国でこの安さ。日本人、アラビアン、イタリア人、フィンランド人など長期滞在している文無し連中の溜まり場の存在として有名で、部屋や設備は

ちょうど日本の古い大病院にそっくりな感じ。8人の大部屋に昼間から酔っ払ったような中年、老年の外人がウロウロしていて非常に興味深いのですが、その陰気さは本当に病院、それもアル中患者収容所を思わせ長くいると気分がどんどん滅入ってくるのです。早く他へ移ろうと思って情報を集めていたのですが、ホテルは一泊50クローナ前後、とても泊まらないので、駅前のオールルームという下宿紹介所へ行って月極めの手頃な部屋を紹介してもらいました。

ストックホルムの中心、Tセントラル地下鉄駅から電車で二十分くらいの郊外の団地の一室、静かで非常に環境の良いところです。ミセス・オーテッセンという35歳くらいの愛想の良い一人暮らしの小母さんの家で、彼女は日本人がお気に入り日本人だけを泊めているそうです。部屋のインテリアも綺麗で他にもう一部屋日本人に貸しているらしいんですが、まだその日本人には会っていません。頭金、敷金など面倒なもの無し、僅かな紹介料と部屋代のみで一ヶ月間250クローナ（一万七千五百円）で借りる事が出来ました。ホテル五泊分で三十日泊まれる事になります。

この後の手紙は差出人欄に書いたこの住所に出していただけと受け取れます。ストックは北欧第一の

都会と言われるだけあって、興味深いところです。しばらく滞在して、写真もテーマを決めて撮影してみようかと。もしかしたら二ヶ月くらいいるかもしれない。またスケートも公園の中に夕日で滑れる所を見つけてきました。靴を70クローナで買いましたので、毎日滑って健康維持に努めようかと思っています。プールもサウナのついた所で一回4クローナで泳げます。ホッケーの試合もTセントラルと下宿の中間点あたりに、大きな試合場があって一日置きくらいにゲームをやっています。3クローナで観戦できます。勉強にはTセントラルのすぐそばに設備の整った綺麗な図書館があって、すべて無料で利用できます。地下鉄は一ヶ月有効どの路線を乗っても良い。パスが50クローナ（三千五百円）です。ちょっと高く感じますが一回で1・25クローナから2クローナ（1時間有効）の切符に比べると、一日に何回も利用する事を考えても便利で割安です。

食事は確かに高くセルフサービスのカフェテリアでも、最低8〜10クローナ（五百六十円〜七百円）かかります。なるべく自炊した方が良さそうです。ここで生活している連中の話を聞くと、食費は最低でも一ヶ月100〜150ドルかかると言います。スペイ

ン辺りでは30ドルで充分喰えると言いますから、大きな差です。海外放浪生活の若者の多くが、暮らし易い夏は賃金の高い北欧で働き、寒さの厳しい冬は物価が安く暖かい南欧に向かう理由が実感できました。

パリにはこの前の予定では十一月の終わりか十二月初めと言いましたが、今のところどうなるかわかりません。いずれにしろ十二月中に一度パリまで降りてみようとは思ってはいますが。留学中の和典兄はいつまでパリにいるのか、近日中に手紙を出してみようと思っっています。こちらに来てつくづく感じているのですが、言葉と言つものは大切です。単なる旅行者として過ぎていくのであれば、現在の私程度の英語力(ということとは中学できちんと英語を勉強していた人は全て私以上のはず)があれば、最初のうちはヒアリングが慣れないのでまごつきはしますが、慣れていくに従って通用するようになります。しかし一歩突っ込んだ会話になると付いていけなくなるので、気持ちの上で通じ合うものがあれば良いのですが、そうでないと白けてしまいます。

今度の旅では最低限、英語だけはマスターしようと思っっています。欲を言えばドイツ語、仏語、スペイン語も日常会話程度は出来るようになってやろうと思っ

ています。それだけでもこっちに来た甲斐があるというものです。世界が倍に三倍に拡がる事になるのですから。

身体の方はいたって健康です。その筈で、環境的にも生活習慣的にも、東京にいたのでは出来ようも無い程健康的な、人間らしい生活を送っているのですから。どうぞご心配なく。母上様におかれましては持病の腰骨などさらに痛めぬよう、ご自愛ください。敬具

十一月二十三日 ストックからの絵葉書

廣行拝

日本からの手紙受け取りました。父上、母上、兄上、姉上、皆お元氣そうで何よりです。十一月十七日付けでパリの和典さんには手紙を出しておきました。十二月十五日にはパリに行く予定です。もしかしたら彼の手元に届いていない可能性がありますので、新しい住所入手次第もう一度出す事になっています。

私は現在のところいたって健康で、持ってきた薬も全く使用しておりません。こちらで写真学校の後輩に、すでに二人会いました。二人とも報道写真が専門で、一人はイスラエルに九ヶ月いて写真を撮っていたという二十四歳の青年(彼には雑誌社への紹介状を書いてあげました)。もう一人はヨーロッパに出て7年



市庁舎内 ノーベル賞授賞式晩餐会会場 青の間 絵葉書の表面

になるという夫婦で、ストックのアパートのフラットを持っていて、こちらに腰を据えて仕事をしようという30歳くらいの人（年上ですが学校の後輩です）文藝春秋に売れたアルバニアの写真のことで、先日一度日本に帰りましたが、すぐ戻ってくるそうです。又、二、三年中に南米へ行ってゲリラに入りたいという人とも知り合いになりました、色々興味深いことが多い、大いに外国生活を楽しんでます。

我が兄弟始め皆様によりしくお伝えください。そう度々は手紙を出せないと思いますが、便りのないのは無事の知らせと申します。そのようにお受け取り下さいます様お願いします。

廣行拝

十二月十九日 パリにて 1

皆様におかれましてはお変わりなくお元氣にお過ごしのことと存じます。姉上はきつと丈夫な女の子を御産みになったのではと想像しております。

私、昨日パリに到着いたしました。幸いにもご丁寧なる和典兄の出迎えをパリ北駅駅頭で受け感激いたしました。（早朝の時間であったにも関わらず！）

自分の感情を素直に表現する事の下手な私のこと故
(父上に似たのか母上譲りか?) 色々ご迷惑をおかけ
し、お世話頂きたただただ感謝、感激なのではありません
が、うまくその意を伝えきれない恐れもあります
ので、もしお手紙などする機会がある様でしたら、そ
の旨御書き添えただければ幸いです。

和典兄は二十一日に仏語学校が休みに入りますと、
その晩からしばらくスキー旅行に行くとのこと、私
とは三、四日しかご一緒できないのですが、この二日
間だけでも随分とご案内頂いたりして、ご迷惑をおか
けています。申し訳ないとは思いますが、ご一緒
できる時間も残り少ないので甘えてしまっておりま
す。明日昼過ぎにお会いして私の多すぎる旅荷物の一
部を、大使館の山本様(清源時の檀家さん)の御宅で
お預かりいたたく事になっております。寛子姉及び清
源寺の父上にもよろしく私の謝意をお伝えください。

私は十二月二十六日までパリ見物をし、その後スベ
インのマドリッド、モロッコ、イタリアのヴェニス、
ローマ、ナポリ、ギリシアのアテネ、オーストリ
ア、スイス、ドイツ、トルコのイスタンブール、エジ
プト、エチオピア、ケニア、タンザニア、ルーマニア、

ユーゴスラビア等を周って、多分来年の四月か五月ご
ろロンドンにしばらく滞在する予定でいます。

その後のことはまだ考えていないのですが、これか
ら六ヶ月近くの旅が、多分「答え」を出してくれると
思います。

和典兄は二月の中旬からヨーロッパ旅行をなさつ
て、その後、元の留学先の台湾へ御帰りになるそうで
す。二月中旬までの和典兄の住所はC/O PRINSON DE
FAMILLE 34 RUE DALESIA PARIS 14e, FRANCEです。
パリの局留便は、本局、分極の区別のないパリの郵便
事情のせいで、何処の局に着いているのか分からず、
明日から調べて廻るつもりですが、もしかしたら入手
できない可能性もありそうです。残念ながら… 次に
私宛の郵便物を受け取る事のできる確実なルートは、
この手紙を受領後一月二十日頃までに日本を出すかぎ
り、私が入手するのは一月中旬過ぎから二月の初めに
なりますが、ローマの日本航空支店留が良さそうで
す。住所は以下の通りです。

Mr. HIROYUKI HAYAKAWA

% JAPAN AIR LINES (RESTANTE)

VIA BARBERINI 45 ROME ITALY

順序が後先になりましたが、私は住み慣れたストックホルムを後にしたのが十二月十一日、何かまた初めて外国へ旅立つ様な気持ちで列車に乗りました。途中コペンハーゲンで二泊、ハンブルグで三泊して市内観光をし、パリへ着いたのが十二月十八日午前八時三十分。流石に今までの都市に比べると、パリは歴史が古いだけに込み入っていて、下手をすると迷子になりそうです。それだけに見るべきところも多く興味深いところです。和典兄のお陰でホテルも良いところを予約して頂き、食事も外食ですが色々教えていただいでいて、気楽に過ごさせて頂いております。今日は日曜日ですので、兄にご案内頂きルーブル美術館を見てまいり感激しております。残念ながら広すぎて半日近くいて、駆け足でしたが見れたのは1/3くらい、後はまた独りで見に行くつもりです。丁寧に見たら一ヶ月はかかるという話ですから大変なものです。八日間のパリ滞在では、見たいものの十分の一も見れないのではという感じです。やはり音に聞こえたパリはパリだけのことは有ります。

身体の方はいたって健康で、引き続き日本にいた時よりもはるかに丈夫、風邪一つ引きません。ただやはり年のせいか昔の現役時代に比べて、運動したりする

と体力の衰えを痛感して、コンスタントに筋力運動やランニングする事の必要性を感じております。

次はスペインから便りします。姉上、兄上始め皆様
よろしく。お元気で！

敬具
廣行拜

追伸

和典兄のアパートの住所が一月始めにまた変わりそうです。移転先はまだ決まっていないのでわかりません。パリ局留の手紙は矢張り受け取れませんでした。大使館で聞いたところ、大体外国からの局留め便が集まるところは決まっているとのこと、ルーブル近くのその大きな郵便局に行ってみたのですが、有りませんでした。もしかしたら返送された後だったのかもかもしれませんね。

次はスペインがローマから便りを出します。ちょうどこの便が着くのは正月頃のような気がします。ヨーロッパからは金銭的にも労力からも年賀状を出すのが大変なので、この手紙を年賀状代わりにさせていただきます（みなさまに出したいのは山々なのですが）。

父上、母上、兄上、姉上、家正、浩司、晃央、裕子、喜子、まだ見ぬ末っ子君（なんて名前？やっぱり丈夫な女の子だったでしょう！）、

新年 おめでとう御座います。今年も、そしてまた来年も再来年も、よろしくお願いいたします。

そして和好兄、俊和兄、賀恵子姉、英子姉、洋子姉、寛子姉、義雄兄、秀雄兄、その子供達、我が甥。姪達にもよろしくお伝えください。

この手紙を読んでいらつしやる頃、私はスペインのマドリッドで正月を迎えているはずです。

母上はそろそろ持病の腰痛が始める頃ではないでしょうか。くれぐれも日頃の所作に気をつけて、大事にしてください。草取りなどに熱中し過ぎないよう。

1971年十二月十九日

一月八日 リスボン発の列車内にて

只午後九時三十五分、ポルトガルのリスボンからスペインのマドリッドへ向かう列車の中で、この手紙をしたためております。

ちょっと贅沢を試みておりまして、特急の一等個室寝台、動くホテルの如きものに乗っています。ちょうど

三畳位の個室（二人用）でベッドも並のシングルベッドよりやや狭い程度、洗面所を兼ねたデスク、戸棚、トイレ（小の方のみ）、鏡など全部揃っています。この車両はヨーロッパほぼ全土共通のワゴンリーという、ベルギーに本社のある国際寝台車・食堂車経営専門会社の物です。約十時間の旅で六千円は安くは有りませんが、話の種に一度乗ってみたかったです。

幸いしているため同乗者はおらず、文字通り個室です。考えてみたら限られたスペースの列車の中で完全にプライバシーの保障された、これだけの空間を独占しているのですから、大変な贅沢であると同時に六千円も安いものです（日本の一等個室は確か寝台料金が一万二千円でこれよりはるかに狭いです）

リスボンも大変楽しい街でした。七つの丘と七つの谷の街と言われ、ヴァスコ・ダ・ガマ、マゼランを始め多くのポルトガル人が七つの海を越えて、全世界に旅立っていった基地として栄えた街です（日本に最初に鉄砲を持ち込んだのもポルトガル人です）。当時の面影は薄れヨーロッパの片隅に、ひっそりと存在しているに過ぎないとは言え、興味深く、楽しい国であることには変わり有りません。

日本にいと、ヨーロッパはどこでもそれほど違いがあるとは思えないのですが、実際には国境を越えるごとに言葉も、習慣も、食物も、人々も違うのには驚きです！

さすがパリは食通の街、食べ物は種類も豊富で美味しかったです。北欧は料理の種類は少なく、いわゆるオープンサンドが美味しかったです。他はアメリカ的な食べ物幅を利かしているようでした（まだ行っていないので定かでは有りませんが、もしかしたらイギリス的なのかも）。

スペイン、ポルトガルは、また全く違って二国間でもやはりかなり相違があります。ただテーブルの上に置いてある調味料、ソースの類が、塩と酢、オリーブ油だけであることは共通しています。料理にオリーブ油をたっぷり使うことも共通点です。地中海風料理というのでしょうか。しかし味に関しては、スペインの方が上で、少なくとも私にはスペイン料理の方が口に合います。両国とも果物と海産物が豊富で安いのは有り難いです（特にポルトガルは）。例えばリスボンでは、ロブスターのかいの（日本の伊勢海老の十倍近いのではないかな）が一匹千五百円でした。パリでは一万円くらいする感じでしたが。イワシの塩焼

きにポテトを添えたものが、名物の一つなのですが、六匹ついて二百五十円くらい。

またスペインではバレンシア名物のパエリアという。焼き飯と釜飯の中間のようなメニューがあります。レストランによって百五十円くらいから、六百七十円くらいまでありますが、マドリッドの銀座通り「ホセアントニオ大通り」にある「レストランバレンシア」の看板料理、パエリアエスペッシェルは、各種のパエリア料理の王様のように、日本のすき焼き鍋のような鉄鍋でオリーブで炒めたライスの中に、二匹の大きな海老、蟹、ムール貝、ハマグリ、ぶつ切りの鰻マッシュルームなどが、丸ごと殻付きのままでごそつと入っています。ちよつと迫力に圧倒されますが、味は必ずしも日本人好みではなく、迫力だけです。一人では食べきれないくらいの量があつて六百円でした。私の腹も流石にびっくりしたようで、昼食に食べた夕方には下痢で、公園のベンチで日向ぼっこ中に、猛烈な便意を催してきて焦つて便所を探しましたが、マドリッドには公衆便所がほとんど無く、外で利用するにはカフェやレストランですることが多いのですが、小さな公園なのでそれも見当たらずさらに焦りました。そこから十分くらい歩いたところに駅があり、そ

こには勿論W・Cがありますので、そこまで夢中で歩いておきますと、周期的に猛烈な便意が押し寄せます。ご存知の通り病的な急性の下痢というものは堪えようが無いくらい大変なものです。もうこりゃ本当に漏らしてしまうのでは無いかと思う内に、またつまらない事を思い出しました。というのはスペインのトイレは、日本の田舎の公衆便所みたいで、汚い上に落とし紙が置いてないと場所が多いのです。もし幸いトイレに行き付けたとしても、紙がなかったらどうしようかと、もう一つ心配が増えてしまいました



下剤に最適 パエリア
バレンシアーナ

た。その時利用できそうな紙は全然持っていなかったのです。まさかパスポートや紙幣を千切って使うわけにもいかないし…。運良くトイレに紙が有ったとしてもゴワゴワの吸水性の悪い紙でお尻に可哀想な代物ばかり。

結局は駅まで行く途中の大きな交差点のある広場の地下に有料便所があつて助かったのですが、最初地下

鉄の入り口かと思って入るのよそうか迷ったのですが、差し迫った便意に押されて飛び込んだら、トイレで大助かり。おかげでラビントーレというのがスペイン語で便所の事と憶えました。使用料は5円と緊急事態脱出料としては安いものです。ホテルに帰って正露丸を三粒飲んで寝たら、次の朝にはケロリと治っていました。原因はオリーブ油たっぷりのパエリアの食べ過ぎで日本で下剤として使うひまし油を飲んだのと、同様の効果があつたようです。

皆様も食べ過ぎて下痢などせぬようお元気で。

私は現在いたつて健康であります。

さようなら。

1972年一月八日

リスボンからマドリッドへの列車内にて

廣行拝

1972年二月二十日 コルドバにて

今、モロッコへ向かう途中で、スペイン南部アンダルシア地方を旅行中です。十五日までマドリッドに居たのですが、その間、駅のホテル紹介所で知り合つた、日本人二人とほとんど行動を共にしていました。一人は一年半ほどパリの彫金のアトリエで勉強してい

たという女の人。彼女は日本に帰る前にヨーロッパ旅行中で、日本では広告のデザイナーだったそうです。同じ業界なので話が合いました。一人は青年海外協力隊員で、モロッコのオリンピック選手のコーチとして一年半ほど前から指導をしている人。二週間ほど取ることのできる休暇を利用して旅に出たのですが、条約によりモロッコの隣国しか行けないので、スペインとアルジェリアを回るといふ事。

面白い事に尺八を吹くのが趣味で、ホテルでは同じ部屋でしたので、聞かせてもらいました。まさかスペインで尺八を聞くとは思いませんでした。また、彼はモロッコでの情報と、宿や友人の紹介をして貰いました。その上、マドリッド郊外の屋内市民プールで、クロールのコーチをして貰いました。ストックホルムで四回ぐらい通って、日赤の救助員をしていたという日本人に教えて貰っても上手くならなかったクロールが。さすが水泳のコーチをしに外国へ来ているだけあって教え方が上手いので、十分ほど順序を追って指導して貰ったら、泳げるようになりました。バタフライは、私はどうしても上手くいきかないのですが、三分あれば憶えさせてくれると行っておりまして。

彼に言わせると、泳げない人でも水を恐れさせなければ、三十分で泳げるようになれるとのこと、餅は餅屋とつくづく思いました。こちらのプールは北欧と違ってサウナこそありませんが、なかなか立派な施設です。

リスボンへ行く前と後を合わせて、約二週間近くいたマドリッドを離れるのは、少し淋しくもあったのですが、ユーレイルパス（ヨーロッパ全般で三ヶ月通用の特急定期券）の期限の問題もあるので、彼がスペイン北部へ行くというのを潮に、私は一人南下してきた訳です。

セビリア（歌劇セビリアの理髪師の舞台として有名。なぜか此処を訪れる日本人は皆、床屋へ行くそうです）のサンタクルスと言う城壁に囲まれた一角は家並みが美しく素晴らしく綺麗。街中は至る処にオレングジの木が、並木の如く立ち並び、それぞれ実を一杯にぶら下げていて、その後ろには丈の高い檳榔樹が南国風の佇まいを見せている、とっても良い街です。

グラナダのアルハンブラ宮殿は、街はずれの丘の上にあつて、外見は古びて要塞のような感じですが、内部の装飾などは美しく、壁面から天井までびっしりと模様が出来ていて、噴水のある中庭がそれぞれこちら

に有つて、屋上からのグラナダの市街の展望はそれは素晴らしいです。各々一泊ついで、今日セビリアからコルドバに着いたところです。

コルドバは八世紀の回教の大寺院が有名ですが、それほど大きな街ではないし、グラナダやセビリアに比べると、街自体も楽しくなさそうなので、明日の夕方スペインのリビエラと言われる地中海に面した良港、マラガへ行くつもりです。マラガはあのピカソが生まれた街でもあるそうです。マラガから二、三日中にモロッコへ行きます。

モロッコは距離的にも感覚的にも、最もヨーロッパに近いアフリカ大陸ですが、昔のフランス映画「ペペルモコ」(望郷)の舞台がカサブランカのカスバ(現住民街。モロッコではメジナと言う)で、危険な街のイメージ、日本人旅行者が金やカメラを取られたり、ナイフで切られたりと言つ話は少なくありません。

しかし、尺八と水泳の酒井さんに言わせると、何も怖いところでは無いらしい。ただ、北と違つて旅行者を見ると吹っ掛けて値段をつけるので、言い値の半分以上で買うのがコツとの事。スペインも泥棒天国という話を聞いてきましたが、そんなことは無いようです。言葉が通じないだけに、隙を見せるとぼるホテル

や業者が多いことは確かですが。それとたかりも多いです。でも全てある程度スペイン語が出来て、金はなるべく見せない、出さないようにすれば解決できます。いずれにしろぼられてもまだ日本より安いのですから腹も立ちません。逆に日本人に比べてずっと親切ですし(下心があるから?) 陽気ですし、楽しい国です。モロッコはスペイン語とフランス語が通じるとの事で今の所心配する事は何もなさそうです。

早いもので日本を出てからもう三ヶ月たつてしまいました。六ヶ月を旅行に当てる予定ですから、既に半分過ぎたわけです。予定よりずっと遅れていて、本来なら今頃オーストリアに居るはずなのですが、予約していない気楽さ、のんびりやっています。色々な方のお陰様でどうやら外国旅行生活にも慣れて、余裕を持って旅をする事ができるようになりました。言葉の方も必要な事はある程度まで、現地語で済ませられますし。といつても大した事はなくて、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語で、夫々に二、三十語くらい覚えていただけ、でもパリから南は英語の通じないところばかりで過ぎて、ほとんど不自由はしていません。現地語語彙の足りないところは日本語で補ってなんとかなつております。

やはり旅の最初の頃は心細くもあり、言葉もわからないし、正直言って毎日の生活が大変でした。列車の予約、ホテルの予約（しかも安く良いところ）、レストランでの食事、買い物、見物、全て自分だけでやらねばならないのですから。その上、ヨーロッパでの習慣にも慣れていないし、私の英語力は日本人平均と比べてもレベルは低いし、その英語さえも通じないところが多いし。メニューを見ても英語なら内容の見当がつかますが、ヨーロッパではメニューに英語が書いてある所は高級で高いので、あえて避けているので、ちんぷんかんぷん、何が何だか分からず随分失敗もしましたが、今ではスペイン語でも、フランス語でも内容の見当はつくようになりましたので、美味しいものを安く食べる事ができます。ホテルも安く感じの良い所を、紹介所（これが曲者。ホテルとグルになってボルので良くない）を通さずに直接見つけて、泊まるようにしています。言葉が通じない故に高い旅行をしなければならなかった事も多かったのですが、これからは安く楽しい旅行になりそうです。観光も不思議と良い所へは、自然と足が向くようになって来ました。一種の嗅覚が発達して来たという事でしょうか。

だいたいごちらへ来る前に予想していた旅の感じに近くなっております。これからの予定は四月ごろまで旅を続けて、四月中旬にロンドンへ行つてしばらく定着して英語学校に通ってみようと思つています。どのくらいの期間かはやってみなければ分かりませんが、少なくとも一年間はと考えています。

旅をしてつくづく思ったのは、英会話の必要性です。それと英語の書物を日本語と同じように味わう事ができれば、人生が二倍以上に広がり楽しむ事が出来るのではないかと言う事です。家正や浩司達も今からでも早すぎる事はないので、英会話の勉強を是非させて欲しい。会話力というのは知識ではなくて習慣です。生活です。日本にいたのでは、会話が上手くならないと言うのは、日本では日本語で全て用が足りて、生活の中に英語が入ってこないからです。たとえば時間は多くなくとも、毎日英会話の勉強をし、習慣づける必要があります。日常会話は六百語も知っていればほとんど困ることは無いそうです。その生きた使い方を知っていれば、良い教師について、友人としてできれば英語を喋る外人と付き合つこと。

これからの生活に英語は絶対に話せる事が必要です。話す能力は子供の時の方が早く憶えて忘れられない

ですから。是非、寛子さんのお姉さんにでも相談して、英会話の勉強を家中でなすってください。子供たちにとって、どんなに役にたつか、計り知れません。その為、補助手段として、外人旅行者や留学生を家に泊めてやるのも良い方法だと思います。これはやはり寛子さんのお姉さんに聞けば、そう言う機関を教えてくださいると思います。

こちらの条件を言つて、そこへ登録しておけば、外人を連れて来てくれます。男より若い女性の方が良いでしょう。でも感じの良い人でしたら若い男でも良いかもしれません。私の部屋、本棚の部分は作品や私にとって重要なものが置いてありますので、絶対に手をつけて欲しく無いのですが、その他の部分は移動して構いませんから、その外人用のベッドルームとして使用したら良いと思います。外人を泊めた場合の利点は言葉（ヒアリング）に慣れることその他に、家正たちが外国に行った場合、その土地で保証人になってくれたり、宿泊させてくれる事もあります。言葉や習慣は、それが良くて日本へ来ているのですから、日常のままに食事は勿論家族と同じものを箸を使って食べさせれば良いし、必要なことはちゃんと親身になって（聞く気になって）聞いてあげれば、お姉さんの英語力で十

二分です。何も格好つけて喋る必要はないのですから。

確かに子供も沢山いるし、その上言葉も習慣も違う外人を面倒見ると言うのは、大変かもしれません。お姉さんなら出来ると思います。私がいるより外人の方が（特に娘なら）もっと楽だと思いますよ。

外人を世話するコツはあまりいろいろなことに干渉しない事と、やってはいけない事、して欲しくない事を、始めにはっきり言う事です。外人もやって欲しいことははっきり言うでしょうし。はじめをはっきりさせる事。シーツは三、四日に一回は洗濯し取り替えてやる事。きつとお姉さんも、母上、父上、兄上、そして子供たちも楽しめると思っていますので、是非やって見てください。私もこっちにいて、そう言うところが沢山あったらどんなに良いかと思えます。ロンドンではうまく見つかったら、イギリス人の家庭に入り込んでみようかと思っています。そして英語の勉強をしている間、一切日本語を使わないとも思っています。と言うより日本語でものを考える事をやめなければ、会話は上達しませんから。

皆様におかれましては、お変わりなく元気にお過ごしのことと存じます。母上はそろそろ腰を痛めて寝込んでいませんか？

父上は元気に土方作業に励んでいることでしょうか
子供達は皆元気に健やかに育っているでしょうか
兄上はいかがお過ごしですか
また便りします。

さようなら

廣行拝

1972年一月二十日 スペイン コルドバにて

バルセロナに到着前に、モロッコでフェズ、メクネス、マラケシュ、カサブランカ、ラバト、タンジエと回っていました。その間絵葉書中心で出した便りで、無事日本に届いたのは残念ながらこの下の絵葉書一枚のみでした。↓

一月下旬 マラケシュにて 絵葉書

モロッコ最大の観光地マラケシュに来ています。こは工芸品（特に革製品）のお土産物が安いことで知られています。価格は客が決めるものというのがルールで、駆け引きが上手いと最初の言い値の三分の一はなりません。私も日本で買った千五百円はくだらない財布を、大型一個、中型一個で十デラハム（七百円くらい）で買いました。モロッコ人に言わせたら、高いもつと安くなると言われましたが。駆け引きに長けた大阪人なら良い買い物を楽しめることでしょう。

草々



マラケシュで購入した絵葉書の
写真は何故かタンジエの蛇遣い

二月初旬 バルセロナにて

父上様、お変わりなくお元気にお過ごしのことと存じます。日本からの便りは十二月始めに、ハヤサキスタジオから頂いて以来もう二ヶ月以上接しております。んがいつも樂觀的に考えることにしております。

パリに多分沢山きていたはずなのですが、パリの独特の郵便制度のおかげで受け取ることができず、本当に残念でしたし、出してくださいくださった方々には申し訳なく思っています。

私は今スペインの第二の都市「バルセロナ」にいます。色々な意味で時間が無いので早く旅立ちたいのですが、久しぶりに（というよりヨーロッパに来て初めて）出したクリーニングがまだ出来上からず、切符の手配の都合があつたりして滞在が延びています。

焦る理由はヨーロッパ一帯通用の周遊定期券「ユーレイルパス」が三月十一日に切れることと、最初の予定では、旅行は四月で終了してどこか落ち着き先を決めるはずだったのに、まだまだ結論が出せないでいること（それとささやかな理由ではありませんが）益々頭の毛が薄くなって、一年もしたら完全に禿げるのではないかという不安！ 色々ありますが、でも焦ったと

ころで始まらないので、成り行きに任せて気持ちはんびりすることになっています。髪の毛のためにも！

四ヶ月旅行をして得た結論ですが、一箇所僅かな滞在期間で、転々と渡り歩く日本的観光旅行スタイルは、そこに何が有って何を見た、という事だけに終わってしまう。我々若人の修行のための旅には、収穫が少ないという事です。三月十一日にユーレイルパスが切れるのを機会に、何かありそうところがあつたら、じっくり落ち着いてみようと思っています。私の旅は四月に終わるのではなく、四月から始まるのだと言えましょう。その目的地としてアフリカを選びました（実は最初からアフリカは最大の目標だったと白状します。サバンナに沈む夕陽を見ること！）。

三月までに北ヨーロッパの旅を終了してしまい、四月一杯で南ヨーロッパ（イタリア、ギリシャ、トルコ）を、五月からアフリカ（エジプト、エチオピア、ケニア、ウガンダ、タンザニア、ザンビア、サウスアフリカ）への旅を開始、順当にけば九月に、もし何かあれば（不慮の事態も含めて、興味ある事、面白いことに遭遇したら）来年の二、三月頃になると思いますが、ロンドンに行って、学校に入ろうと思っと思っています。ロンドンで一年から二年勉強した後、できたら南

北アメリカを見て廻りたいものですが、その時にはどうなっていますか、予定通りなら三十歳にして日本に帰ることになります。お陰様で異国での生活も楽になり、最初の考察通り日本語でほとんど用が足りております。それに僅かな現地語を加えることで、お互いに理解し合えるから楽しいものです。英語、仏語、西語が入り混じって出てきます。そのうちイタリア語、ドイツ語が混じってさらに混乱するでしょう。

父上、母上始め皆様、子供達にも買って送ったら喜ぶだろうなと思うものが沢山ありますが、送料と送る手間（しっかりと梱包や、郵便局への持ち込みなど手続きが大変なのです）を考えると二の足を踏んでしまします。切手は手紙の中に入りますので、家正だけを喜ばせることになるかもしれませんが、皆様への気持ちですのでご理解ください。

二月十三日 ローマにて

母上様お手紙有難う御座いました。二ヶ月ぶりに接した日本からの便り、嬉しく拝見いたしました。神田のビルにお戻りとのこと、そんなこともあるはずだったので、欧州に来てすっかり忘れて、まだ鎌ヶ谷

敬具
廣行拝

にいらつしやるものばかり思っていました。姉上も無事女子出産とのこと、本当に御目出度う御座います。

母上からの手紙（と言うことは私は父上からの手紙とも思っております）と同時に、姉上からも六人目の子供に恵まれ、つくづく母親として女としての喜びを感じるのと同時に、良い両親に巡り会った幸福をしみじみと感謝していると言う手紙を受け取りました。

私もヨーロッパに来て見て、本当に素晴らしい両親の元に生まれ、また日本人として生まれたことの幸福を、つくづくと噛み締めております。

母上に頂いた経典と歎異抄、夜毎、寂しいおりなど読み返しております。読む度に新しく、素晴らしく、心強く、力が湧いてきます。

この前の手紙で言葉（会話）というものは、知識ではなく生活そのものであり、習慣と感覚なのだということ、英語に関して述べたと思っております。実際それが異国に来て私の深く感じた体感だったのです。

そして今、キリスト教（カソリックの国、プロテスタントの国）、回教の国を見てきて、浄土真宗の家庭に育った私がつくづく思うことは、信心というものはやはり生活であり、体験、習慣、感覚的世界のものだという事です。頭で行う信心と言うのはあり得ないと

思います。例えばイスラム教(回教)というもの。確かにアラビアやアフリカなどの過酷な風土の中では、生活的にもうなずける宗教だと思います。でも頭では理解できても、とても私の感覚的には頷ける宗教ではありません。

キリスト教にしても矛盾が多すぎて、時には馬鹿馬鹿しくさえ感じてしまいます。歎異抄を読むにつけても、真宗の信心深い家庭に生まれ育ち、理性的にも感覚的にも真宗信者としての習慣を持ち得た我が身の幸せを感謝しております。

これから更にヨーロッパ、アフリカの旅が続きますが、私の全人生においてかけがいの無い体験であると同時に、精神的にも多くの収穫が待ち構えているようです。今後の私の予定は下記の通りです。下記の日付にその都市の日本航空の支店に手紙を受け取りに行きますので、エアメールで約七日前、エアメールエキスプレスで三、四日前に日本を出した手紙は受け取れる筈です。

二月二十六日ジュネーブ(スイス) % JAPAN AIR

LINES 13 RUE DE BERNE GENEVA SWITZERLAND

二月一日フランクフルト(西ドイツ) % JAPAN AIR

LINESKAISERSTRASSE.79.FRANKFURT-MAIN.2

二月四日ベルリン(西ドイツ) % JAPAN AIR LINES

1.BERLIN.30.BUDAPESTERSTRASSE, 26A WEST-

GERMANY

二月九日ウィーン(オーストリア) % JAPAN AIR

LINES WIEN 1 FUEHRICHGASSE 8-5 STOCK

AUSTRASIA

四月五日アテネ(ギリシャ) % JAPAN AIR LINES

4 OTHONOS ST., CONSTITUTION SQ ATHENS GREECE

四月二十九日ローマ(イタリア) % JAPAN AIR

LINES VIA BARBERINI, 45 ROME ITALY

エアメールエキスプレスというのは速達便のことです。タイミングが良ければ普通のエアメールも速達も同じく二、三日で着くのですが、ちょっとズレると普通便は七日くらい掛かるようです。できる限り手紙を書くようにします。どうぞ、何時迄もお元気で！

何か張り合いのてる趣味がお稽古事でもやると良いですよ。尤も母上にはお寺通いが一番の妙薬かもしれませんね！

敬具

廣行拝

二月十一日 インターレーケンにて

父上様、母上様、昨日からスイスアルプスの山狭間、美しく小さな街、そしてアルプススキーのメッカ

でもあるインターラーケンに来ております。スイスは物価が高く、ホテル代も安くて千六百元以上、大体二千五百円くらいが相場（食事無しで）の様で、私はユースホステルに泊まっています。

スイスやドイツのユースは本場ですから、設備も良く一泊四百円くらいで、盗難もスペインやイタリアに比べれば少なく安心なのですが、日本のユース同様、ちと規則が窮屈過ぎて私向きでは無い様です。団体生活に慣れている学生ならともかくいわゆるサービスは

全く無いし、八人部屋ですし、朝は九時に追い出されて五時まで入れて貰えないし、夜は十時で閉まってしまう、その上食事は時間通りで食べないと駄目。もっと都合が悪いのは、ユースホステルというのは、殆どが街中から三十分以上も歩いたり、バスで遠方だったりすることです。夏休みの林間学校にでも行ったような生活をしないと、テンポが合わないので閉口です。

インターラーケンからは、登山電車で三十分から一時間もかからずに、有名なグリンデルワルトやウエングンの大スキー場に行くことができ、近在の最高峰ユングフラウ（四千五百五十米）には、すぐ真下のユングフラウヨッホ（三千四百五十四米）まで、登山電車で

一気に上れます。私も明日行ってみようと思うのですが、この下、アイガーグレッチャ（二千三百二十米）から、下部のウエングン（千二百七十六米）、グリンデルワルト（千三十四米）のスキー基地まで、一気に滑り降りるロングコースがあります。でも何かとお金がかかりそうなので、スキーはやめて見物だけにしようと思っっていますが。

生憎と（私には幸いに）アルプス地方は雪不足で、ここインターラーケンもスキー場が在るのですが、全く雪はありません。山も近在の山々は上の方に雪を頂いているだけで、白一色の銀世界といった冬のアルプスの面影は無く、まるで春のようです。陽気も日陰はさすがに寒いですが、陽射しが暖かく日向ぼっこを楽しみたくなるような、今年のスイスアルプスです。今は本当は厳冬の筈なのですが。

旅に出てから何も買わずに我慢していたのですが、ついに買い物をしてしまいました。山国スイスの、そして昔からの伝統ある精密工業の面影を伝え残すような面白い物ですが、船便で送ってもらいました。どうぞ、部屋の片隅にでも飾ってください。とっても素朴で、見ていると楽しくなります。どんな物かはこのからのお楽しみ！。約二週間で着くそうですから、三

月十日頃になるのではと思います。壊れずに届くことを願っています。実は同じような物を、スペインのバルセロナにあるスペイン村（中世のままの生活様式を残した街）で見かけ、とつても気に入ったのですが、物価の安いスペインにしては随分と高価に感じられて、買う気になれなかったのです。でも物価の高いスイスでは、そうそう高価にも思えずスペインの物に比べて遥かに細工も上等なので、意を決して父上と母上にプレゼントすることにしました。どうぞ可愛がってください（この文面では何かわからないでしょうね。ついからのお楽しみ！）。購入価格は日本までの送料込みで約二万五千円。宿泊費十日分に相当しますが、ユースに泊まればその分は取り戻せますのでご安心を

私の連絡先は、三月一日フランクフルトのJAL三月四日ベルリンのJAL、三月九日ウィーンのJAL、に変わりありませんが三月十一日から三月二十一日まで、オーストリアのチロル地方サンアントンに、部屋を予約しましたので、日本を出す三月五日以降三月十五日頃（エクスプレスなら三月十九日頃）までの手紙は、裏面の差出人住所宛お出し下さい。チロル人の小母さんがやっている民宿です。この所、慌たたく旅行していたので、オーストリアは物価も安いし

人々も親切なので、十日ばかりノンビリ休養しようと思つて決めたのですが、五月からのアフリカ旅行の飛行機を利用せざるを得ない部分の航空券を、日本で購入して書き留めでここへ送っていただきたいのです。日本航空の支店では大事なものは預かれないといっていましたので。後ほど別便で必要な航空券のリストを送りますので、神田駅近くの交通公社が有楽町の交通会館等で、そのリストを見せて相談してください。すぐ買えると思いますが、アフリカなので一週間くらいかかるかもしれませんね。

やはり慣れぬ異国の旅ゆえ、自分で思ったよりも遙かにお金がかかりました。それにお前でもか！と笑われそうですが、ヨーロッパに来て色々な形で三回騙されましたし、一回盗難に遭いました。常に細心の注意を払っていてもこの有様です。一人で四回も災難に遭うとは多過ぎるようですが、これは私のカメラマン精神のお陰でしょう。なんにでも嘴を突っ込んで経験してみようとするからなのですが、お陰様で本当に良い経験になりました。他人は絶対に信用できない（日本人でも）ことを知ったとともに、信頼できるのはどんな人かも知りました。お陰様で単なる観光旅行者や

学生の長期旅行者に比べて、遙かに有益な経験を積ま
させて頂いております。有難うございます。 敬具

廣行拝

注11前頁で思わせぶりに触れていたスイス製の全木製壁掛け
時計。歯車も含め全て木製。石の錘で歯車を回し、木製の水
平テンプレートで時刻を調整。毎日大きい錘を上まで引き上げて動
力とする。撮影用に紐を短くセットしたが、長くするほど日
毎の巻き上げ作業回数が減る。父母亡き後、引き継いで今も健
在の古時計、私のアトリエで五十年間の時を刻み続ける…：



二月二十八日 バーゼルにて 絵葉書

母上様、二月始めにまたおやりになったとの事、ど
うぞご自愛を！ でもそろそろ治っている頃でしょう
か？ 父上の為にもどうぞ自重して下さい。今日ジュ
ネーヴで手紙を受け取りました。二十六日にジュネー
ヴに着いていたのですが、土曜日の午後はJALも商
店も休みで日曜日も休み、月曜日の今日まで受け取れ



この絵葉書の表面はユングフラウヨッホ（スイス）の
氷河をくり抜いて作ったアイスパレスという氷の宮殿

なかつたのです。今はスイスとドイツの国境の町、バーゼルに着いてホテルで書いております。

明日はドイツの「アルトハイデルベルグ」の物語で有名な街、ハイデルベルグへ行きます。と言つてもバーゼルから汽車で三時間位なのです。

宛名のローマ字は母上が御自分で書いていらつしゃるのですか？ 最初私は誰かに書いて貰っているのだと思つていましたが、もし母上が書いているのだとしたら、知らぬ間にびつくりする程お上手になられましたね。でも今度の手紙の私の名前の敬称がM.R.ではなくM.R.S.になつていましたよ。J.A.L.の係りのお姉さんが、貴方はミセスですか？なんて言うので二人で大笑になりました。M.R.S.（ミセス）は既婚女性の敬称、未婚女性はM.I.S.S.（ミス）、男性の敬称がM.R.（ミスター）になります。またお便りします。草々

三月三日 ベルリンにて

ご両親様、三月三日現在、フランクフルト、及びベルリンにてお手紙拝受、嬉しく拝見しました。特に生まれて初めて頂いた父上からの手紙に感激しております。改めて父上の温かな心遣いに接し、感謝の言葉も

ございません。ただただ有り難く頭が下がるばかりでございます。ご忠告は肝に命じております。

私が着いてからのベルリンは、雨が降ったり止んだりの日が三日も続き、寒さも厳しく私の目には、東西ベルリンの政治事情はともかく、憂鬱なところに映っております。明日はドイツでも最も美しい所の一つ、そしてナチス戦犯の裁判で有名なニュルンベルグへ向かうつもりです。その次が今年オリンピックの行われるミュンヘン、そしてヨーロッパではパリと並んで憧れのウイーン（オーストリア）へと予定しています。

ベルリンについてはさして書くことも御座いませぬのでこの辺で。次はミュンヘンから便り出します。

草々

三月三日桃の節句に 冷たいベルリンから 廣行拝

三月八日 ウイーンにて

ご両親様、中世ヨーロッパにおいて、花の都パリと並び称された音楽の都ウイーンへ来ております。私にとっては子供の頃からの憧れの都だったので、期待の大きさに比べるとそれほどの事もなく、実はがっかりしております。ウイーンがたいした事がないと言

う訳ではなく、私自身あまりに多くの素晴らしい都を見てきたために、感激する心が薄れているためでしょう。正直な話、贅沢と思われるかもしれませんが、ヨーロッパの都市の観光には飽きてきました。早くアフリカへ行きたい今日この頃の気持ちではありません。今までの国、都市で印象に残っておりますのは、やはりパリ、そしてマドリッド、セビリア、マラガのスペイン各都市、マラケシュ、タンジールに代表されるモロッコ、ローマ、ヴェニス、イタリア二大観光都市。そして一番長く滞在したスエーデンのストックホルムと言ったところでしょうか。モスクワも悪い意味では強く印象に残っております。

三月十一日から二十二日までオーストリアアルプスの山都サンアントンで休養をとり、ルーマニアのブカレストに行くつもりです。その後ギリシャのアテネ、トルコのイスタンブールを経てローマに帰り、アフリカ行きの準備をと思っています。カイロまでの切符はもう準備してありますが、サンアントンにてアフリカの航空券をお待ちします。

資金のご心配どうも有難うございます。やはり慣れぬ異国の旅ゆえ、思ったよりもお金が掛かっておりました。今日計算したところ、現在の手持ち総額は五百

ドルのチェックと七百五十マルクのチェック、現金少々で約二十二万円と少しといったところです。日本から持ち出したお金は、これまでの五ヶ月間で約八十万円くらい使った勘定になります（月十六万円くらい）。これは明らかに使いすぎです。好んで浪費した訳ではありませんが、ホテル代、食事が馬鹿にならないことと、いろいろ雑費や交通費に掛かったものと思われまます。この先は精々一ヶ月五万から六万円上げようと思っておりますがどうなりますか。アフリカのビザを取るためにも預金が必要と思われまますので、まだお金は有りますがローマの東京銀行支店宛（もしローマに東銀支店がなければパリの支店宛）千ドルお送りください。東銀の本店は日本橋三越の裏にあって、すぐ手続きしてくれるはずですが、アフリカでは米ドルよりもドイツマルクの方が価値があるそうなのですが、駄目ならドルでも結構です。私のパスポートナンバーを記しておきます。この人間がきたら受け取れるようにというシステムで送れますのでよろしくお願いたします。別に東銀ローマ支店に口座がなくとも送れるはずですが。以前パリでスタジオからの送金を受け取れましたので。以上お願いまで。

敬具

廣行拝



サンアントンの隣ゲレンデ、サンクリストフ1800Mの風景 絵葉書

三月十三日 サンアントンにて 1

ご両親様、ただいまオーストリアはチロル地方のサンアントンに来ております。世界的に有名なオーストリアスキー術の発祥地で、アールベルグ地方と呼ばれるこの辺一帯が、近代アルペンスキーのメッカと云うことになっております。

スキーの神様と呼ばれるハンネスシュナイダーはこのサンアントンにロッジを持っていて、旅館業をやっておりますし、札幌オリンピックピックでプロであるとして失格、涙を飲んで出場できなかったアルペンスキーの

強者カール シュランツは、この辺では英雄扱いで、私の止まっている民宿のすぐ近くにロッジを持ち、旅館業をやっているのです。

それ程世界的に有名な割には、とても鄙びた感じの街で商店も控えめですし、本屋が一軒、映画館が一軒あるだけ、流石にスポーツ店や土産物店、レストラン、ホテルは数多いですが、日本の田舎町より更に小さい街です。考えてみれば産業らしいものは一切無くて、スキー客のためだけにあるような、日本で言えば万座温泉みたいな所ですから、それも当然でしょう。住宅専用というのは殆ど無くて、全部、ホテルやロッジ、民宿のみのようなところです。それでも住民はおり、子供もいるので小・中学校が一校だけあります。

列車は単線、バスは無くてワーゲンのマイクロバスを使ったタクシーが唯一の交通手段。スキー用のロープウェイやリフトは流石に完備して、全山ほとんど歩かずに滑る事が出来ます。

残念ながら今年の世界的な雪不足で、例年ならサンアントンの街まで滑って降りてこられるのですが、今年にはロープウェイをゲレンデからの下りにも使用しなければなりません。でも山の上は流石に雪も豊富で、日本とは比べ物にならない大滑降を楽しめます。私は

今のところは無理せず、着いて三日目になります。旅の疲れを取るために、滑らず日向ポッコをしておりませんが、明日からレンタルスキーを借りて滑ってみようと思っています。身体のためにも良いと思いますので。

スイスから送った歯車まで全木製の柱時計はもう着きましたでしょうか。耐久性がどのくらいあるのかわかりませんが、振り子の音を聞きながら見ているだけで楽しくなります。壊れずに着いていることを願っています。

航空券お待ちしています。三月二十一日一杯ここにおいて三月二十四日から約一週間、ルーマニアのブカレストへ行きます。又、便りします。お元気で。

廣行拝

三月十七日 サンアントンにて 2

ご両親様、今日姉上からの手紙受け取り、ベルリン以降始めての自宅からの便りで、その後の情報を受け取りました。ミュンヘン、ウイーンでは受け取りませんでした。勿論お出しになっていないことと思えます。と申しますのも、姉上からの封書にパリで受け取れるはずだった、父上、母上からのエアレターが自宅までパリから返送されてきており、それを親切にも

姉上が同封してくれて、五ヶ月近くも前の手紙でしたが、御心有難く拝見させて頂き嬉しかったからです。

せっかくの心のこもった手紙、受け取れませんでした。では、書いてくださった方に申しわけがあります。

受け取れなかった理由は、パリの郵便局がポストレストランを一ヶ月しか保管しないためです。パリを返送した日付が十二月十六日、私がパリに着いたのが十二月十五日、すぐに郵便局へ行ったのですが、パリは全ての局がポストレストランをやっており、本局と言うのは無かったのです。全部の局へ行く訳にもいかず色々調べた結果、やっとパリー区ルーブルの近くの郵便局で、宛先不明分のポストレストランを保管していることを知り、行ったのが十二月二十日、四日違いで受け取れなかった訳です。

でもパリの郵便局が不親切という訳ではなく、郵便制度の発達していること世界一と言われ、ポストレストラン（局留）できた郵便物でもパリに着いてすぐ自分のホテルを連絡しておく、転送してくれるシステムもあり、それぞれの区にいくつかある全ての郵便局が全ての業務を行っていて、ものによっては遠い本局まで行かねばならぬ他国に比べて便利です。しかも能

率的にも素晴らしく、一日二回配達していてパリ市内なら、その日のうちについてしまう素早さです。母上からのエアレターも消印で見ますと、日本の郵便局が十一月十六日付け、パリが十一月十八日付け、配達時間を入れても日本を出して三日間で確実につく訳です。

タイミングが良ければ二日でつくこともあるでしょう。東京都内でも二日で着けば早い方、場合によっては一週間はザラですから、本当に立派なものです。

ここサンアントンでは姉上からの手紙は、日本が三月十一日付け、到着したのが三月十七日ですから六日間かかっています。これは思うに鎌ヶ谷から羽田空港まで二日位掛かっているせいです。というのは豊島区在住のガールフレンドから来た手紙は、三月十三日の消印で同時に入手しているからです（たまたまこの手紙の消印は神田局で、多分勤め先の近くで出したのでしょう。母上からの手紙も同じ神田局扱いでした）。

と、何故か郵便制度の話に時間を取られました。世界一能率を重んじる日本人が、どうして郵便は非効率なのか、疑問を感じた所為でしょう。

今日で五日間、快晴が続くサンアントンです。そろそろ崩れるかと思つていますが明日はどうでしょうか。

毎日、スキーと日光浴に精を出して、お陰様で身体はすこぶる付きの健康で、一段と日焼けも増し、真っ黒けになっています。

日本では考えられないような雄大な斜面で、安全第一、慎重に楽しく滑っております。私ぐらいのベテランになりますと、馬鹿な神風スキーヤー（日本には多いのですがこちらでは皆無）にぶつけられるか、スピードを出し過ぎて無理をしないう限りは、まず怪我をすることは考えられません。スキーでは転倒するのも、曲がったり、ストップしたりするのと同じくらい重要な技術なのです。広大なゲレンデにポツリポツリと滑っている状態で、ぶつかるのなんて見たことも有りません。日本ではそこら中で衝突しあっているんですがね。何か日本と外国の縮図を見ているようです。

最近日本では物騒なニュースが多いそうですね。彼等、愚かな革命家気取り達は、自分で意図せずに権力側の武力エスカレートに加担している、雰囲気的にも実際のにも、警察権力の強化、自衛隊の増強、そして軍国主義へと日本が傾いていくのに気が付いていないのです。それでなくとも生産性向上に宮々と努力してきた日本株式会社、余剰生産物およびより利益向上

の為、買い手を国際市場に求め、待つだけではなく自ら積極的に開拓する、即ち帝国主義化するのには必然であり、第二次世界大戦前夜の面影が、今の日本にあることに気付くべきです。

ついでこの前までは学生革命家にとつても権力側にとつても、殺人は、人の命はかなり重いものだったのですが、最近のニュースでは如何でしょうか。殺人殺人の洪水のごときで、そんなことが続いているうちに、両方で人の命をなんとも思わない雰囲気が出来上がって、戦争へのムード作りが進むのです。そして、かたやエログロナンセンス。ポルノの大洪水で人の目を逸らしている。全く戦争前夜の日本の状態だということが、遠く異国にいる私の眼にもニュースを聞くだけで一目瞭然です。渦中の人は意外と分からないものかも知れませんが、もう気付くべきです。誰かが何とかしないと日本は駄目になります。人心の安定と、余剰生産力（余分の儲け）を社会福祉に向ける事、人間尊重の精神を徹底する事、それが救われる唯一の道と私には思えます。

強力な政治家（日本を救うべき）が首相となり努力してほしいものです。平和意識の一欠片もない佐藤総理の長期政権のお陰で、確かにG・N・Pは伸びたが

（これも佐藤さんの努力ではなく実業家達の努力のおかげですが。本当は政治家というのは、実業家を助けるのでは無く、謂わば手綱を締める役割であるべきの筈ですが）日本は悪くなったのです。本当に日本は如何なるのでしょうか。情報量も不足している私には不安の種だけです。

人の命は尊いもの、人間、人それぞれ色々ありますが、どの人にも生きる権利、平和に楽しく生活する権利があります。それは何人でも犯すことは出来ないのだということ、即ち人間尊重の精神を全ての人が持てば、平和な社会になるのですがねー。

ヨーロッパに出てきてつくづく思ったことは、日本人は元来、人間尊重精神に欠けている（ヨーロッパ人に比べると個人尊重精神に欠けていると言った方が正確かな）。特に権力を握った人間にそれが顕著だということを感じました。子供だろうと大人だろうと、女だろうと、弱虫であろうと、貧乏であろうと、人間は尊いものだということに変わりはない筈。それであって初めて人間らしいと言えるのに。ヨーロッパでは、日本よりはその点遥かに人間尊重の精神に富んでいます。行動の端々にそうした心が現れています。確かに無学で粗野な人も沢山いますが、少なくとも教育

のある人は立派です。日本では教育のある立派であるべき人々が、往々にして浅ましい心の持ち主あることが多いように思えます。それが政治の貧困さになって現れて来ているのでしょうか。実際付き合ってみると、東大生などは呆れるほど身勝手な奴が多いです。そうした人がエリートコースで高級役人や権力者になるのですから、それも頷けることです。やれやれ…

また便りします。

廣行拝

三月十八日 サンアントンにて 3

朝出かけようとしたところへ宿の娘が、母上からの便りを持ってきてくれました。

昨晩書いて出そうと思っていた封書を、今日はおきずに（郵便局が土曜半ドンで昼の十一時までしかやっていないせいもありますが）、今、宿に帰ってきてひと休みしながら返事を書いております。書き終わったら溜めておいた洗濯をしようと思っております。航空券、早速御手配いただいたようでありがとうございます。しかし残念ながら未だ入手できておりません。どうした理由かわかりませんが、エメールで出した場合、三月三日に日本を出せば、三月八日か遅くとも十日にはこちらに着いている筈です。

私はこちらに来たのは三月十一日ですが、事前に手紙類は預かってくれるよう頼みであるので、着いていれば私が来た時点で渡してくれる筈です。お手紙によると交通公社が輸送手続きをしてくれたようですが、どういう風に送ったのか問い合わせてもらえませんかでしょうか。もし普通便（船便）だと一ヶ月近くかかることも稀ではありません。三月二十二日まで待つて着かないようでしたら、サンアントンでは入手不能と言ふ事ですので、何とかしなくてはなりません。住所も間違いなく、しかも書留で航空便で送ったものならば、どう間違っても二週間以上かかる事は考えられませんので、三月二十二日付けの私からの速達便（多分三月三十日頃到着すると思います）の次第によつて、交通公社と相談して、再発行するなり何か手段を考えて頂きますでしょうか。

可能性として考えられる事

① 交通公社が間違つた住所へ送つた為、宛先人不明で返送

② 宿に着いたが私がまだ到着していなかったため、宛先人不在で返送されてしまった（書留便の場合考えられないことでは無い）

③ 交通公社が社内手続きをミスって出していない

④ エアメールにするのを忘れ、船便になって着くのは来月。いずれにしても私は居ないからまた日本へ返送

⑤ 途中で抜き取り、もしくは紛失（最悪）

⑥ 書籍などを送った場合良くなるのですが、通関手続きに時間を食って遅れている（二週間くらいかかる事がある）

日本からここへの便りは、神田から四日、鎌ヶ谷から六日で届いています。本当にどうなってしまうのか心配です。郵便局留めになるとパリの二の舞になるのではと、宿を予約したのですがそれが裏目に出たのでしょうか。二十二日までに着することを祈っています。

ともかくここを出るときに到着していなければ、私は入手できない事になりますので、その時は速達で手紙を出します。その結果どうするかルーマニアの方へ連絡ください。手紙でまどろっこしい様でしたら電話します。時差は八時間日本が先行していますのでこちらの朝七時が、こちらの夜十一時ごろに当たります。そのくらいが両方にとって都合が良いでしょう。父上などの部屋に直通する電話番号をお知らせください。

お金は四月始めごろローマの東銀支店へお送りください。受け取りに行くのは遅くとも四月末までと言う事です。早めに取りに行く可能性もありますので、アテネを出るのが四月十日ごろですが、その頃までには送金してください。

日本を出るときに持って出たのは約百万円、現在残額約二十万円です。生活費には一日三千円もかかっていないのですが。見物や観劇、その他市内交通の足代バス代など意外とかかるものです。ホテルに泊まったら北部ヨーロッパでは、食事無しの宿泊費だけで三千円近くします。一般観光旅行者の様に一番お金の掛かる宿泊費と食事代、交通費、見物代を日本で払い込んでいる場合、一日三千円あったらきつと贅沢できるでしょう。

昔の日本の観光旅行者用の持ち出し基準額が、日本円で払える前記の費用を除いて、一日あたり十ドルでした。それでも彼等は不足していた様です。私の場合全部ひっくるめて一日五ドルでやろうと思ったのですが、修行僧の様な生活をしなくては無理だと悟りました。それではヨーロッパへ来た甲斐がありません。勉強になりません。スペインの様な物価の安いところでは、一日二ドルで暮らせますけども。それに長期食事

を節約すると病気になるります。これからは一日十ドル（三千円）のつもりでいます。それで大体、ペンションかユースに泊まって栄養を考えた食事をして、見物、勉強をする余裕があると思います。

ともかく一人旅というのは無駄が多く、お金が掛かる様にできています。旅行の効率だけを考えたなら、二人の方が経済的ですな。

三月十八日

廣行拝

追伸

次の手紙はルーマニアのブカレスト、日本大使館宛。大使館の住所がわからない場合は郵便局のポストレスランテで、四月始めまでに出して下されば受け取れる筈です。

三月二十一日 サンアントンにて 4

ご両親様、久々の肉声に接し懐かしく感激致しました。色々とお心遣い有難う御座います。

お電話の後、すぐウィーンのエールフランスの事務所から電話が入り、午後宿へ戻りましたら電報が来ておりました。両方ともドイツ語でちとよく理解出来かねたのですが、兎も角ウィーンのエールフランスの事

務所へ行けば、切符が受け取れるらしい事は分かりました。

早速予定通り、明日サンアントンを立ってウィーンへ行きます。日本から三日に送ったという事なので心配していましたが、やっと安心いたしました。交通公社も割といい加減なことをする会社で、父上が確認して下さらなかつたら、どうなっていたのかと思います有難う御座います。

交通公社が取った手段は、日航で切符の手配について相談したした時も提案された方法で、日本側とヨーロッパ側がタイミングを合わせれば一日でできるので。テレックスで社内電報一本打てば済むことなんです。交通公社はエールフランスの日本支社と連絡を取れば良いのであつて、エールフランス日本支社が、ウィーン支店へ社内電報を打つ。そしてウィーン支店が私宛連絡するという段取りです。二日以上かかるはずは無いのです。どこかがサボっていたとしか考えられません。郵送料は掛からないので電報代が掛かるだけです。何故その手段を取らずに交通公社依頼で郵送をお願いしたかと言つと、何せ外国のこと故、高いお金のかかる切符代金、言葉の上での行き違いがあつて受け取れなかつた場合のリスクを考えたからで

す。結果として何とか受け取れそうで、ホツとしてお
ります。

日常生活する上での言葉はなんとかありますが、ち
と複雑なことになりますとお手上げです。お金のかか
らない場面での失敗なら笑って済ませられますが、大
金のかかった所での失敗は悲劇的なことになりますか
ら、なるべく日本語の通じる所を通してやるようにし
たいと思います。

日本へ送った荷物はまだ届かないようですが、その
後聞いたところでは、物によつては船便は一ヶ月以
上、二ヶ月くらいかかることも珍しく無いらしいで
す。気長にお待ちください。忘れた頃に到着するので
はと思います。フランスから日本へ返送された父上の
手紙を見ても、これは船便で返送されていますが十二
月十六日にパリを出て、日本に着いたのが三月ですか
ら、丸三ヶ月近く（二ヶ月半くらい）掛かっています
。小包はこれに税関の検査がありますから、もつと
かかる場合もあるわけです。

航空便は二日から四日ですからなんとも違うもので
す。飛行機の通わない頃のヨーロッパが、日本にとつ
てどんなに遠い国だったか偲ばれる話です。

次はルーマニアからお便りします。お元気で！

ご両親様

廣行拝

三月二十一日午後四時三十分

三月二十三日 再びウイーンにて

本日ルーマニアに向けて立つつもりが、エルフラ
ンスとの接触の結果もう二日滞在しなければならぬ
事になりました。と言うのは三月に旅行を始めれば運
賃は従来通りなのですが、五月からですと値上がりす
ることのこと、その分は百ドル強なのですが、今の所持
金ではとても払えないので日本に連絡、支払い通知が
来てから切符発行という事になって待たされているの
です。連絡があつて余計に払わされたことと思いま
す。御免なさい。

その上税金十ドル弱、お前が払えという事で払わさ
れる予定、どうもうまく行かぬものです。その上ルー
マニアのブカレストに本当は今日行くはずで、待つて
いる人（アイスホッケー世界選手権代表、日本ナショ
ナルチームのメンバー）も居るのに、ビザの問題が
あつて汽車で行くと時間がかかることと、通過国のビ

ザを取るのに時間がかかる故、急遽変更、飛行機にしましたので三万近くの出費。予定よりも二万円くらいオーバーで心細い所持金もさらに少なくなっておりこの先二ヶ月近いパリまでの旅、十万円強で暮らさねばならなくなりそうです。

ともあれ節約に次ぐ節約せねばとても無理そうです、飛行機は荷物重量二十キロ制限なのに、現重量三十キロ近くも頭痛の種。ホテルの近くで「屋根の上のバイオリン弾き」というヒットミュージカルを上演中で見たいのですが、お金がかかるので却下。二日間の待ち時間は街をうろつくだけで済ませる事になりました。これからパリまでの旅は、本当の貧乏旅行になりました。ですが、これもよい経験となるでしょう。それにパリでお金を受け取っても、余程節約せねば千ドルでは何ヶ月持つか心細いものです。

でも今度は交通の心配をしないで済むので安心です。今まで色々あってお金を使いすぎたので、今度からガッチリ引き締めて旅をしようと思っています。一箇所に定着すれば以外とお金はかからぬものですが、日本でも毎日慣れぬところを渡り歩くホテル暮らしをしたら、いくらかかるか分かりません。それに、言葉、習慣が全く違うとい事を考えれば、そんなに使い

ウィーン美術史美術館であるベルヴェデーレ宮殿の内部です

ネット上のロイヤリティフリー画像から引用



すぎという訳でも無いのです。でも、私の予定よりも出過ぎでした。

それと貧乏旅行をするには、それに徹底しなければ駄目で、カメラマンとの両立は無理なようです。何しろカメラを含めて三十キロの荷物を持って、身軽な行動は不可能だし、ユースホステルや安宿は盗難が多く心配と、色々悲観的です。なまじ日本で売れる写真を撮るうなどと思わず、人間修行だけに限定した方が収穫がありそうな気がしますので、五月からは荷物もカメラも整理し極力限定、身軽になつて旅行しようと思つています。少し悲観的に書きすぎましたが、実際は私は元気一杯であります。

時々無性に日本へ帰りたいと思う時もありますが、そんな時は瞑想をして南無阿弥陀仏と唱えれば、心もスッキリして意欲が湧いてきます。

自分でも思わぬほどの精神力、悪く言えば感覚的に鈍感なのかもしれないが、これも御仏様の御助けと真宗信者の我が身を有難く暮らしております。

お陰様で身体も精神も何の故障もなく元気で、そろそろ六ヶ月目のホームシックに差し掛かっているものの、負けずに乗り越え前進へと、光明、明るき我が道でござります。

明後日は夕方にはルーマニアのブカレストで日本人の知り合いに会える事ですし、そしてしばらく一、二週間は一緒に行動することになりました。確かまだ言つてなかつたと思いますが、ルーマニアのブカレストで世界アイスホッケー選手権が行われ、それに出場する日本選手団を応援するという事で、幸い日本スケート連盟ともオオシーズの方から連絡を取ってもらい、選手団と一緒に入場すれば入場料も無料、もしかしたら宿泊費も無料（そこまで甘えてはいけませんね）になるかもという事になっていて、二十三日にブカレスト入りしている選手団が待っている筈なのです。私の到着を。

選手の中にも何人がオオシイズの指導で知り合った人々がいますし、お互い会えるのを今から楽しみにしています。残念なのはエールフランスのお陰で二日ブカレスト入りが遅れる事です。これも勉強です。良い経験になりました。

色々、私めの為にご尽力、本当に有難う御座いました。ただただ頭が下がるのみで御座います。素晴らしき両親に恵まれた我が身を感謝しつつ。

ご両親様

いつも忠実なる息子 廣行拝

ちょっと言い過ぎでしょうか、自分でも恥ずかしいです。「いつも忠実であろうと努めている息子」と言い換えます。

三月二十三日 ウィーンにて

三月二十八日 ブカレストにて 絵葉書

ルーマニアの首都ブカレストにてアイスホッケー世界選手権応援中。日本チームの幹旋でフリーパスを発行して貰ったので、入場とリンクへのパスは無料。着いた日は選手団と同じホテルに泊まりました（初日は選手団長の部屋に泊めてもらいました）が宿料が高いので近くのカルパチホテルという安宿に移りました。近くにセルフサービスの安食堂もあって、二百円くらいで喰べられますので都合。日本の試合は選手団のベンチから見えますので迫力満点、応援のしがいもあります。ウィーンからブカレストまで飛行機にしたので、経済的には痛かったのですが、此の分だと何とかなりそうです。今日、ツーリストオフィスでトルコのイスタンブールまでの列車の切符を予約しました。二十七・五ドルでやはり安上がり、イスタンブールまでの交通費を含めても、ブカレストでは百ドルで済み

ブカレストの町並み風景。この絵葉書の表面です。



そうです。郵便代もバカにならないので、パリまではあまり手紙は出さないかも知れませんが悪しからずご了承ください。

廣行拝

下段はこの絵葉書の表面です。イスタンブールのブルームスク越しに見るボスポラス海峡。

四月十一日 イスタンブールにて 絵葉書

ルーマニアでアイスホッケーを堪能して、トルコのイスタンブールへ来ています。飯のまずいブカレストから安くて美味しいイスタンブールで、のんびり落ち着いております。ブカレストも暖かったのですが、イスタンブールはそれに輪をかけて暖かく、水も綺麗で泳ぎたくなるくらいです。ボスポラス海峡で泳ぐのもまた良いかも知れません。二、三日中にアテネへ行くつもりですが、飛行機が十五ドルと安いので、飛行機にしようかなと思っています。列車ではほぼ十三時間半で十五ドル強、途中でテサロニキに登れるのが魅力ですが、時間がないので飛行機にした方が良いかも知れません。お金も何とか続きそうです。

お元気で

廣行拝



四月十六日 ミコノス島にて 絵葉書

父上様、母上様、御元気の事と思えます。私は相変わらず健康そのもの、無事旅を続けております

四月十六日現在、ギリシャのミコノス島へ来て三日目になります。小ぢんまりした可愛らしい気持ちのいい島で、ノンビリとしております。

今日の夕方の便でアテネへ戻り、近日中にローマ經由でパリへ行くつもりです。お金の方も後、百五十ドルになりましたが、思ったよりお金もかからず、旅慣れた所為かも知れませんが、何とかパリまで旅を続けられそうです。モロッコで知り合った日本人で、現地で水泳指導している酒井さんから、是非もう一度遊びに来ないかという誘いの便りが有りました。アフリカに入る前に（モロッコもアフリカですが）立ち寄ろうかと考えています。御元気で！



ミコノス島のイラスト
ト絵葉書 繁華街
プラカアテネの階段
通り

廣行拝



ベスビオス火山の噴火で埋もれたポンペイの遺跡

四月二十一日 ローマにて 絵葉書

御両親様、アテネからローマに戻ってきています。独り旅の気楽さ、度々予定を変更しております。四月三十日までイタリアにいて、五月一日パリへ帰り荷物をまとめ直して、もう一度モロッコへ渡り、アルジェリア、チュニジア、経由でエジプトへ行くつもりです。

日本で買ってきたローマ・カイロ間のエアチケットをどの路線に振り替えようかと思案中。またパリに着いている連絡次第で、ロンドンにも足を延ばして置くことになるかも知れません。

これからナポリ、カプリ、ポンペイ、ソレントへの旅行になります。御身大切に！
廣行拝

四月二十八日 再びローマにて 絵葉書

御両親さま、御元気の事と存じます。四月三十日パリへ帰るつもりにて八日間ほどイタリア南部を回ってきました。今日四月二十八日ローマに戻ってきています。毎日曇ったり晴れたり、雨が降ったりで、ヨーロッパ南部は天候不順が続いています。今も雨が降りしきっています。旅行中の雨は怪しいもの。気分も湿っぽくなります。幸い暖かくなってきたのが救

い。五月十日頃までパリ滞在の予定。その後、モロッコ、アルジェリア、チュニジア、リビア経由でエジプト入り。六月中旬からエチオピアにしばらくいるつもりです。御元気で
廣行拝

五月四日 パリにて 2

拝啓、本日東銀パリ支店にてお金頂きました。どうも有難う御座います。ドイツマルクで御送金頂きましたが、実はその後いろいろ情報を集めたところ、アフリカやアジアなどの後進国では、やはりドルが絶対的に強く、特に田舎に行きますとトラベラーズチェックは通用せず（銀行でも）外国の金でチェンジできるのはドル紙幣に限られるという状況だそうです。

その上トラベラーズチェックをドルの現金にしてくれる銀行は、ヨーロッパでさえ少ないくらいで、ましてアフリカでは変えてくれない可能性が大です。

やはりアフリカ旅行はヨーロッパ旅行とは違った考え方、やり方が必要とされるようで、いろいろ考えたのですが、日本の交通公社に当たるアメリカの旅行代理店で、世界最大のアメリカンエキスプレスが、アフリカ、アジアを始め世界中に支店を持っているので、

ここを利用することにしました。東銀ではファストナショナルシティバンクのトラベラーズチェックしか作って貰えないので、アメリカンエキスプレスのパリ支店に行つてつくってもらいました。結局千ドル分送金して頂いたのに、私が間抜けだったために、六百四十ドルと千六百十五フラン（約二十八万円）になり、差し引き二万円強、損をした事になりました。しかし先々困らない為には仕方がない事です。授業料みたいなものです。手続きが複雑化したために、アメリカンエキスプレスへ行つたり、東銀へ行つたり、ウロウロしてしまいましたが、お陰で面白い多分普通の旅行者には経験できない、知らないであろう事を知り大いに勉強になりました。

その一、東銀。パリ支店では日本円で外国通貨を買う事が出来ない。

その二、日本から送金された外国通貨を、自分が望む国の通貨にすることは、東銀に手持ちがあれば可能。その場合、一旦フランスフランに替えてから、他国の通貨にするので、手数料が倍になる。

但し、一旦引き取つてから後でフラン以外の金にする事は不可能。例えばフランで受け取つて、使い残しをドルにすることは不可能。

その三、パリ支店のアメリカンエキスプレスでは、フレンチフランでドルを買うことも、トラベラーズチェックを作ることもできない。

その四、アメリカンエキスプレス（パリ支店）では日本円をドルにする事も、トラベラーズチェックを作る事も出来る（日本人に限るのかどうかは不明）その場合のレートは五月四日現在で一ドル三百十五円八十銭。

その五、アメリカンエキスプレス（パリ支店）へ行つて、トラベラーズチェックを現金化する場合、よそのトラベラーズチェックは、パリ全体の公定一ドル4・75フランだが、自社発行のトラベラーズチェックは、4・78フランで、少し有利にしている（他の銀行でアメックスのチェックをチェンジしても4・75フラン）

今までアメリカンエキスプレスを利用したことはありませんでしたが、ここでは旅行者の手紙の受託もやっていますし、旅行代理店ですから日程作成や切符の購入も出来、その上ドルを中心とした銀行業務もしているのとても便利です。係員は何処の国でも全員英語を話しますし、アメリカ人が世界中、楽に旅行出来るのも当たり前です。全てはアメックスのお陰！ほ

とんど世界中に（日本にも東京と大阪にあります）言わば交通公社と東銀が一緒になったシステムが張り巡らされているのですから。

日本人も J・A・L と東銀の支店がある街は便利ですからね。でもそれより十倍くらい便利なアメリカンエキスプレスの存在は、さすがにアメリカは世界に冠する大国だと感じさせます。日本人でも世慣れた人は世話になっていふことと思います。特に個人旅行者の場合は、ただやはり英語に弱くと大して価値がなくなっていくことはありませんが。

今後の予定を下記に記します。

五月十六日まで、在。パリ

A/S POSTE RESTANTE PETIT BUREAU DE PARIS 91

五月三十日まで、在。モロッコ

A/S Mr. MASAO SAKAI A?S INSPECTION PROVINCIAL

AL DE LA JEUNESS DES SPORTS TAZA MAROC

六月三十日まで、在。エジプト

% JAPAN AIR LINES FLAT6, No.4 MIDA KAMAL EL

DIN SALAH, Sq., GARDEN CITY CAIRO U.A.R

後はまた追って。サマツなひ

廣行拝

五月二十五日 テトワンにて

五月二十三日マドリッドにて手紙拝受、翌日衣類も頂きました。有難う御座います。何かと忙しく筆持つ暇もなくご心配掛けて申し訳ありません。でも考えてみると、その方が収穫が多いはずで毎日、日本恋しく、手紙ばかり書いていふようでは先が思いやられませんがね。

今日はモロッコ北部のテトワンという街に夕方着いて、バスで一緒だったカナダ人の学生と一泊二百八十円のペンション（安宿）に泊まっています。明日はテトワンからバスで約一時間半くらいのシシャオウエンという街へ行く予定です。その後、知り合いの酒井さん（日本人で青年海外協力隊員として、モロッコに水泳指導に来ている）を訪ねてタザという街へ行き、二、三日滞在するつもりです。マドリッドに彼から手紙が来ていて、早川氏の来訪を首を長くして待っているけど、折角来るのだから途中テトワンとシシャオウエンをみて来た方が面白うよとのことで、予定変更、回りをしている訳です。

ハヤサキスタジオのお金の件については、何も心配する事はありません。事務所の経理をしている田島さんと言う娘に、業者への未払金があった場合や、年度

未調整、税金、日本へ送っているフィルムの現像代、連絡費などに当てもらうために、私の預金通帳を預けてあるのです。半年経って整理がいたら、パリの山本様の所宛、残金を送るように頼んであったのですが、思ったよりも残金が多かったようで、二回に分けて書き留めで送ってくれたのですが、一回目の分は偶々一週間ほど山本様が留守にされた時に配達され、書き留めだったので配達人が局に持ち帰り、十五日以内に局にとりに来るようにと伝言を残したのですが、私が着いた時は一足違いで返送された後だったので、二回目の分は九万円ほど受け取りました。一回目は十二万円くらいだったようです。

なお、今や日本円は、銀行では結構強くパリでもアメリカンエキスプレスへ行くと、日本で買うのと大差なくドルのトラベラーズチェックが、日本円で買う事が出来ます。そして普通の封筒でいくらでも日本円が送れますので、一回千ドルまでと言う送金制限は事実上無いのと同じです。そしてドルが弱い弱いと言いますが、感じとしては弱いのは西独マルクと日本円に対してだけで、他の国、特に後進国、共産圏では、やはりドルが絶対的な力を持っています。そんな事も日本に居たのでは、分からない事の一つだと思えます。現

在手持ち財産は九百十ドルです。半年持たせるつもりですが……

お元気で

私も至って健康です。

廣行拝

六月五日 モロッコ タザにて

ご両親様。モロッコのタザにて御手紙拝受。有難う御座います。インクのスペアは確かにアテネにて受け取り、洋服もマドリッドで受け取りました。有難う御座いました。姉上にもよろしくお伝えください。私はタザの酒井様の御宅に厄介になって一週間過ぎました。暢んびりして疲れも取れて、アフリカへの旅へと元気がいっぱい、張り切っております。

スイスから送った時計はまだ未着との事、次の便りまに届かないようなら、スイスへ問い合わせの手紙を出してみようかと思えます。まさかスイス人が騙すような事はしないと思えますが、イタリヤやアフリカだったら、それもありませんと諦めるところです。こちらは毎日暑い日が続いています。幸い今日は曇りで、涼しい風が吹いて凌ぎやすいです。これから南下するに従い、ますます暑くなるとのこと、でも日陰に

入ると涼しく、日本の夏のようにジメジメしませぬので幸いです。

東アフリカに入ると風土病のマラリアがあるので、高価なマラリヤ予防薬をカイロあたりで入手せねばならぬと思っていたところ、フェズの堀家さんと言う協力隊員が、二壘（二百錠）も無料で分けてくださいました（日本製！）。海外で会う日本人の親切には大いに感謝しております。

次はアルジェより便りします。 お元気で！

六月五日 タザにて 廣行拝

六月十五日 チュニスにて 絵葉書

六月十五日チュニアのチュニスに滞在三日目になります。アルジェリアは物価が高く嫌になりましたが、チュニアもイタリヤに近いせいとか、モロッコ程安くはないようです。気候、風土、人間は、マグレブ（西の涯）と呼ばれるモロッコ、アルジェリア、チュニアなど海岸添いは殆ど共通の様です。食事も似たようなものです。やはり長く居たところが一番良いのは誰でも同じで、私はモロッコが一番面白いと思いません。モロッコは物売りやガイドの押し売りがしつこく

ラクダを背景にお祈り風景 次頁の絵葉書表面



て大嫌いだと言う旅行者と、チュニジアは誰も声をかけてくれる人がいなくてつまらないと言う旅行者が居ました。両者ともうなづけるご意見ですが、受け手の旅行経験と人間性によるのだと思います。人それぞれです。アルジェリアはその中間という評価です

一、三日中にリビアへ向かいます。リビアは砂漠だらけの国、経由国と言うことで、すぐに出て一週間中にはエジプトのカイロに行っていることでしょう。

次はカイロからの便りになると思います 廣行拝

六月二十日 トリポリにて

拝啓、お元氣のことと思います。北アフリカではエジプトについて観光化を図っている国、従って観光客には便利な国チュニジアを、今日六月二十日午後、首府チュニス発のリビアアラブエアラインズの飛行機で、さつきリビアのトリポリに着いたところです。リビアは国土一面口々砂漠の国、取り立てて産業もなく、北アフリカでは最も後進国の一つに数えられるでしょう。観光的にも砂漠以外には見せるものもなく、リビアの表玄関トリポリ空港が、市の中心から三十七キロも離れている事はともかく、まるでローカル空港

以下の設備しかないのには驚きでした。国際空港に付き物の各航空会社のカウンターも無く、次の便の予約には街のオフィスまで行ってやってくれと言われたのには、更に驚きました。観光案内所など勿論無く、パンフレットや地図など皆無、看板や表示はは全部ミミズの這ったようなアラビア文字のみ。短期滞在なので荷物を預け置こうと思ったら、荷物預所もロッカーも存在しない。そして国内には鉄道も無い。入国管理も厳しく面倒で、北アフリカを旅してきたアメリカ人が、リビアは一番良く無い、俺は嫌いだ、と言っていたのを思い出しました。

観光国チュニジアとエジプトに挟まれ、観光客から忘れ去られた存在、それがリビアなのです。バスで街まで出ようと思ったら、出た直後で次は三時間後だというのがので待合室で手紙を書いています。

チュニジアではチュニスから東へ65km程の海岸街ナブルへ行つて、飛行機の便を待つ四日間、日光浴と海水浴をしていました。かなり焼けて健康そうになっていきます。ナブルはユースホテルが有つて、海の家のように砂浜の続きの松林の中に建っています。三食付きで一泊約五百円となんの神経も使わず、ただ浜辺でノンビリという四日間でした。お陰で少し太っ

たようです。また移動で何かとイライラすることが多く、痩せるでしょうから丁度良いでしょう。

ヨーロッパでは時々豪華な事をしましたが、アフリカではできるだけ質素にすべく心掛けております。しかし飛行機の旅を始めると、何かとお金がかかるようになっていて癪に障ります。街からタクシーでないといけない空港とか、出国税とか、予約のための時間とか。気楽な旅行にはバスが一番のようです。今のところ一日どうしても五ドル前後かかっています。なんとか三ドルであげないと六ヶ月持たないので、ケチケチ一所懸命財布の紐を締めているところですが、思わぬところで掛かって行くようです。動かないでじっとしていれば安く上がるのですが、それでは意味が無いし。

ヨーロッパや世界を安く旅行している先輩の話を聞いたり見たりしていると、ただ、どこそこへ行った経験があるとと言うだけで、自分の都合では無くお金の都合で、見るべきものも見ず、やるべきこともせずに終わっている人が多いのには驚きます。私は例えばお金が掛かっても、見たいものは見るし、味わいたいものは食べています。自分の行動がお金で規制されてしまうのなら意味が無いです。

例えば一ヶ月五十ドルで旅行した人がいるとします。確かに不可能じゃ無いけど、如何に内容の貧しい旅行になっているかは想像できません。あるエコノミー旅行記に宿泊は全てユースホステルを使って、一日十ドルが基準と有りました。日本で飛行機代とホテル代を払い込んでおいて旅行する場合は、一日当たり十ドルが基準だそうです。

これから目的のエジプト、エチオピア、イーストアフリカの旅になるので、じっくり腰を据えてみるつもりです。従ってお金も比較的掛からなくなるでしょう。三ドル以下にすると惨めな生活になるので、三ドル限度に頑張ってみます。

エジプトは七月十日頃まで居ます。その後はエチオピアです。お元気で！ 敬具

六月二十日 トリポリにて いつも元気な廣行拝

六月二十八日 カイロにて 1

六月二十八日、エジプトのカイロに来て六日目です。なにしろ観光立国エジプトは流石、観光客には親切でその上大変な親日家が多く、街を歩いていても

老若男女取り混ぜて全てのエジプト人の注目的、まるでスターにでもなった様な気分にはさせられません。

物陰でばったり出会った老人や子供達は、ものすごく嬉しそうにニコニコして握手しようなんて言っています。娘たちはおしつこでも漏らしそうに身をくねらせてクスクスと笑います。どんな気でそうするのか知らないけど、好意と受け取っておけば楽しくなります。

でも、しかし、親切そうに見せかけて、たかりや客引きも少なく無いので、注意せねばなりません。後進的観光国では当たり前のことですが、こいつは正直で親切そうだなと思っていて、後でたかられたりすると、金が惜しいと言うよりも、好意を無にされた様でガツカリするのです。他の外人貧乏旅行者の様に、頭から胡散臭いと思って排他的になる様には、なりたく無いものですから。北アフリカは物価が安いと思っていれば、エジプトは今ままで一番安上がりです。食事の内容等は今までで一番お粗末ですが。ホテル代払って、三食に御茶を三回くらい飲んで、二百円以下で上がります。バスに乗って市内見物しても一ドルあれば大丈夫。

一昨日JALにて母上からの便り受け取りました。有難う御座います。エジプトは居こごちが良いので、一ヶ月一杯(ビザの期限)居るつもりです。

エチオピアには八月始めか七月の終わりになるでしょう。七月十日出くらしいの便りはカイロのJALで受け取れます。それ以降はエチオピアの日本大使館宛。毎日暑いので頭は少しボケツとしてますが健康です。ご両親様も盛夏に向かい、うつとしい日本の夏の事ゆえ、どうぞ御身体御大切に。

季節の変わり目は古傷が痛むと申しますが、こちらは毎日が季節の変わり目みたいなので、昔痛めた膝と肘がなんと無く毎日痛みます。

まだ飲み始めていませんが、マラリヤの予防薬ドイッバイエルのレゾヒンは、リユーマチの特効薬として使われているものなので、ひよっとしたら飲み始めると治るかもしれません。回虫にも効くそうです。ただ眼科的な副作用がある場合があるそうです。

まだしばらくカイロに滞在します。

また、便りします。

ご両親様

六月二十八日カイロにて

敬具

廣行拝

七月一日 カイロにて 2

ご両親様、お元氣のことと存じます。

赤軍派の淀号ハイジャック事件、連合赤軍の浅間山荘事件、大量リンチ殺人事件、赤星軍パレスチナゲリラのイスラエル、ロッド空港乱射事件と、私と同じ世代に属する若者たちの、人間とも思えぬ非人道的行為が相次いで、世界を騒がせています。

識者たちは一様に気狂い染みだた行為として、一部幼児的革命論者のヒステリーで片付けています。現代日本の平和に浸りきった、有識者を辞任する大人達にとつて、彼らの行為はまさしく寝耳に水であつて、信じられない事なのでしょう。

私は外国に出てきて、始めて日本人の精神構造が、世界的に類のない特殊なものであることに気付き、面白く思いました。どの様に特殊なのか、きちんと分析できる段階では有りませんが、兎も角、外人に比べ甚だしく違っていることだけは実感・痛感しています。苦勞性、勤勉、忠実、小心、大胆、いろいろ言うことはできますが、ズバリ感じていることを言葉にできないのが残念です。

テルアビブ事件の岡本の予備軍的存在は、此方にも日本にも沢山います。ストックホルム時代に知った人

の中には、南米へ行ってゲリラになるのが夢だと言う男が何人が居ました。そのくせ、本人はストックの怠惰な生活に浸りきつて、一向に南米へ出かける気配もありませんでしたが。もし彼等にパレスチナゲリラが声をかけてきて、旅費と滞在費を面倒見ると言ったら、喜んで彼等は付いて行くでしょう。そして命じられるままに岡本と同じ事をするでしょう。

私もアルジェリアの首都アルジェで、アメリカからのハイジャック事件のあつた直後ブラックパンサーの一員だと名乗る黒人から、ブラックパンサーについてどう思うかと話しかけられました。(ハイジャックをやつたのは、ブラックパンサーの黒人青年で、アルジェ到着後はブラックパンサーの本部に保護された)、日本人が関係無いゲリラ闘争に関係するチャンスはいくらでもあるのです(ブラックパンサーとはアメリカの反白人ゲリラ組織)。いわば戦前の満州浪人の過激派の様な、狭い日本にや住み飽きた、何かどこかい事をといた意識だけで、何の為に俺は生きているのかと言う基本的な解答を持たぬ精神的な風来坊が多過ぎるのです。

イスラエル当局に取り調べられている岡本が、早く殺してくれ、死ぬことだけが望みだ、死ねばきつと良

き存在になるだろうから。とか、イスラエルは好きだった、別にイスラエルでなくとも、どこでも良かった、命令されたからやっただけだ。等と言っているのを聞くと、何とも虚しく、悲しくなります。こんな事をさせねばならなかったのは、誰の責任だ。もし彼の兄達がもっとまともで、親がもう少し子供を理解し、もし信仰の篤い人だったら、彼はよき青年として進んでいただろうに。それに今彼は日本では国際的犯罪者です。でもアラブの諸国では、彼は大英雄です。彼のお陰でイスラエルと戦争状態にあるエジプトにいる私や、日本人は大変な人気者です。

もし日本とイスラエルが戦争状態だったら、彼等は肉弾三勇士どころか、大変な大々英雄として持て囃されるでしょう。さしずめ提灯行列が毎晩行われているのでは無いでしょうか。日本では。戦争というものの皮肉さ、虚しさを、彼等の行為に猛烈に反省、かみしめる必要があるのでは無いでしょうか。

平和の大切さは日本に居てはさして感じませぬでしょうが、ここ戦争状態にある中東では、博物館のままで土囊が積まれている此処では、そんなことが痛切に感じられます。

若者達に生きることの意義、人間であることの楽しさ、苦しさ、喜びを、教えてあげることのできぬ今の大人達、社会の現状を寂しく思います。戦前の様にお国のため、天皇の為と言った間違った目的意識のもたせ方はごめんですが、人間らしく生きるとは、どういうことなのかを教える事こそ、親の、大人の、社会の役目なのではないでしょうか。我が身の幸福に比べ、他の若者達の心の貧しさを悲しく思います。 合掌

追伸 結婚しても良いと思う娘がいます。

詳しくは次の便で

七月三日 カイロから嫁取り依頼

ご両親様、先日の手紙にて少し触れましたが、日本に居た時はどうしてもその気になりませなんだ嫁取り話を、外国に出てきてその気になると言うも不思議な話、これも他生の縁とお許し下さい。

もしやとご心配かもしれませぬが、相手は外人でも外国在住の日本人でも、外国旅行中の蓮つ葉な日本娘でも有りません。れっきとした日本在住天然純粹日本娘で御座います。

その娘の名は矢口節子(やぐちせつこ)、昭和二十三年十月生まれ、私より三年と半月年下の二十三歳。

第一勸業銀行神田支店勤務の窓口嬢で、浄土宗系の女子校淑徳学園卒、彼女の両親も家族も私は直接面識がありませんが、五人家族で両親健在、私と同年の兄（宝石店勤務）、二十歳で三井銀行本店勤務の妹（スキーで一緒になったことがある）。

彼女との縁は私の友人の妹の友人というよくある関係で、一緒にスキーに行つてスキーを教えてあげたのが始まり。約五年前からの付き合いです。

日本にいる時にその気になっていれば、安心していただけたのに、こちらに出て来てその気になつたのは何故か？

外国独り暮らしの寂しさ故というより、周囲の雑音（誘惑）無くじっくり自分の心を振り返つてみる事が出来た、そして彼女以外に私の一生の伴侶となりうべき娘はいないとの判断が下せたからに他なりません。決して一時の惚れた腫れたの浮ついた気持ちからではありませぬのでご安心を。今この決断を下せたことを幸福に思います。実は日本に居た頃から、この娘ならと言つた気持ちの心の一部に有つた事は確かなのです。でもどうしても外国へ出たかった、そのためには結婚なぞ考えられなかったというのが正直なところ。では日本へ帰つて来るまで待てば良いではないかと言

えましようが、私は兎も角、彼女の方にそうは行かない事情があるのです。彼女は今年の十月で二十四歳、三、四年後の私の帰国時には二十七、八歳のハイミスも良い所、会社の上司や親、親戚筋が、良い娘なだけにほつておかず、どうしても今年中には結婚させようと、見合い見合いと攻め立てているのです。彼女も親しいの娘故、遠い外国にいて帰国は何年先になるや分からぬ私なぞあてに出来ず、情勢によつてはどう傾くか分かりませぬ。なんとか手を打たねばと、実は焦つている私なのです。

勿論、日本に居た時には結婚の約束などしませんでしたし、交渉もありませんでしたよ。先日手紙でお互いの気持ちを確認して結婚の確約はしております。

父上お願いします。何とか彼女の御両親に交渉して私の嫁に貰つてはもらえますまいか。このような事はベテランの父上に全てお任せするのが最上と、物理的には何一つできませぬ異国の地の私故、偏にお願い申し上げます。

右、お願いまで

敬具

七月三日 カイロにて

廣行拝

七月十日 カイロにて 4

こ両親様、相変わらず居こごちの良いままにカイロ
にあります。始めの予定通り七月十二日頃にはカイロ
を出て、エジプト南部（ルクソール、アスワン）見物
後、船でスーダンのワデイハルファへ出、あとは列車
でスーダンの首府カルツームへ行き、飛行機でエチオ
ピアのアスマラ入り、アデイスアベバへは八月三日頃
になる予定です。もし七月十日頃、便りをカイロの方
にお出し下すっていることを考えて、JALの受付に
エチオピアへの転送依頼と封筒、切手を預けておきま
した。八月十日頃アデイスアベバで入手できる予定で
す。

先日の手紙にてお願いせし事、その後、どうなっ
ておりましたか。彼女からも六月二十一日付けの手紙
以降、全く受けとっておらず、多分大事をとって、ア
デイスアベバの方へ送っているものと思いますが心配
です。

旅に出でてこんな事で気を揉むことになろうとは思っ
てもみませなんだ。

幸いお送りいただいた航空券のおかげで、エチオピ
アの入国査証など簡単に取る事が出来ました。南アの
ビザはロンドンで試みたところ否定的で、近隣国へ

行ってとった方が可能性ありという事で、ないままに
出てきました。東アフリカの黒人國は南アをボイコッ
トしていて、国交が有りませんし、エジプトを始めア
ラビック諸國にも南アの大使館はありませんので、ま
だトライできません。マラウイかモザンビークに
大使館があるとの事で、私の場合、南アの手前國はマ
ラウイですので、そこで試みてみるつもりです。人種
差別の激しい國で、有色人種の入国を商用や友好的訪
問を除いて、厳しく規制していますので、私のような
観光者の入国は難しいとは思っていましたが、こんな
に大変なものだとは思っていませんでした。

もし観光で不可能な場合、商用という事で届けてみ
ようと思っています。幸い私のパスポートは数次旅券
で、昔のように旅行目的を観光、商用と区別していま
せんので、日本の講談社あたりから英文の身分証明書
を送って貰って、取材ということにしようかと等考え
ています。

アフリカへ来てから旅行者から得た情報でも、出入
國の航空券プラス滞在費を持っていても、有色人種へ
のビザ発行はかなり制限しているようです。近隣國で
も本國照会となるので待ち時間が多く、何度も待たさ
れた挙句、結局駄目というケースが多いようです。



エジプト観光の目玉ギザにある 上、スフィンクス 下、ピラミッド



先日、砂漠の中のテント小屋のナイトクラブ「サハラシテイ」へ、アラビア独特のベリーダンスと民族舞踊を鑑賞に出かけましたが、その帰途、夜明けのピラミッドの傍を通り抜けたのですが、素晴らしく神々しく神秘的でした。

真つ赤な丸い太陽と遠くオアシスのように霞むカイロ市街、砂漠の中に忽然とそびえる三つの巨大なピラミッド、悠久の昔の面影を忍ばせるには十分なシーンでした。その前に観た夜の光と音で創るピラミッドとスフィンクス見物も素晴らしかったです。

ではまた使ります、お元気で

敬具

七月十日

廣行拝

追伸 私は健康状態良好です。心身ともに。

七月十七日 アスワンにて

昨日ルクソール見物を済ませダムの街アスワンに来ています。古都ルクソールに比べると見るべきものとして何も無かれども、ダムの建設景気にてルクソールよりも遥かに大きく、活気のある街です。暑きことルクソールに比べても甚だしく、天火の中に放り込まれ

た心境とはこのこと、正に焦熱地獄そのものです。熱中症対策とただひたすら蒸発する水分の補給に追われる始末です。夜になっても暑さは衰えず、火の落ちた天火の中で蒸されるチキンの如し、とはこの事。

明日はアスワンを發つて船でスーダンに向かいます。砂漠の国スーダンは一段と熱くなることでしょう。道中はナイル湖面旅なので暑さは凌ぎやすくなると思います。スーダン国境の町ワディハルフアでは一週間の列車待ちになりそうな按配。航空券は出来るだけ使わずに陸路を行くつもり。やむを得ぬ場合のみ使用する予定です。未使用分は日本で払い戻し可能です。

また使ります。

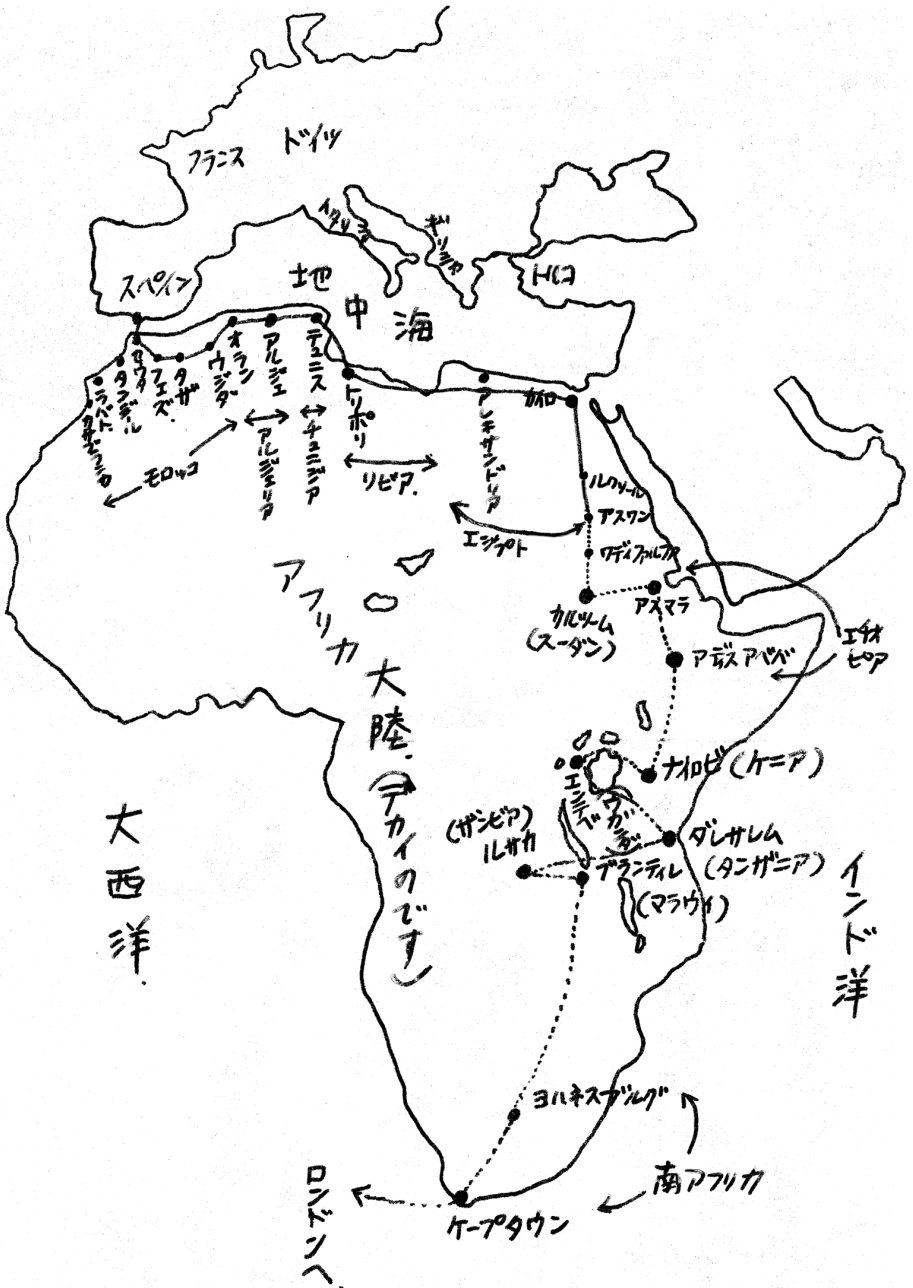
お元気で

廣行拝

注…次頁は同封した私のアフリカ大陸横縦断計画図です。七ヶ月かけて旅したヨーロッパに比べ、アフリカ大陸は何と大きい事が！やり甲斐を感じています。

七月十八日から二十二日まで 船旅 1

七月十八日（火曜日）八時起床」、部屋の中は今頃が一番涼しくなっている。でももう一時間もすれば陽が射し込んで耐えられない暑さになる。このところ



7月17日現在アスワンにいます。実線は既に旅した北アフリカ横断
 いやいよ明日からアフリカ縦断部分への挑戦が始まります。

腹具合は上々、毎朝一度快便なり。九時、朝食を摂りに街へでる。まだレストランは開店前で、ミルク、ブレッド、サンドウィッチなどを買って済ませることになる。

前朝はミルク（五百ミリリットル）と丸パン半分だった。今朝は丸パンの中にピーナツジャムやオレンジジャムを混ぜて焼いた菓子パンを食べた。上に干し葡萄が乗っていて焼きたての大きなパンである。イーストが入っていないので、この辺のパンと同じく餅のような食感だ。七PT（三十五円くらい）。

食後、カフェでティを飲みながら休む。残念ながらレモンを持ってくるのを忘れた。やかんに入れて煮立てたチャイは、香りも失せて（元々無いのだが）美味では無いが、砂糖たっぷり入れてあるので、小さなラム一個絞って入れると、ホットレモネードのようで、日本で飲むレモンティなどとは全然違った味で、それなりに旨くなる。

前々日のルクソールから移動の途上、六個二PT（十円）で購入し、車中で食べてしまい（これを齧ってから水を飲むと、生暖かく不味い水も鉱泉水のごとく、美味に感じられる）。また車内で少年より求めしが、二十個で二PT（十円）なり。まだ相当数残って

いる。この国は、地元価格とツーリスト価格がまるで違っていて、なるべく地元価格で買うべく努力をしているのだが、一PTでも余計に外人から掠めようとする、地元商人の前では至難の業なり。

当地で地元民に最も人気の高い飲料は、サトウキビの幹をローラー（洗濯機の絞り機のデカイやつ）で絞った冷たいシユガージュースで、ジュース屋の前はいつも黒山の人だかりなり。

普通のグラス入り一杯一PT（五円）大グラス入りが二PT（十円）。搾りたては泡を浮かべた緑色のジュースなれど、時間が経つと黒変し砂糖臭が鼻につき不味くなるので、いつも絞りたてを飲まねばならぬ。ちよつと青臭いが甘さも適当でよく冷えていれば美味である。マンゴジュースは一杯四から五PT、マンゴは種ばかり大きくて食べるところ少なければ、ジュースの方が余程美味なり。上物でマンゴは四十五から十PT（一kg当たり）。

カイロで見かけた人参ジュースは当地には見当たらない。何となればジュースが無い為であろう。大きなめの人参の皮を剥いて二つ割にし、ジュースで搾りたてを飲む。砂糖加へしかと思う程に甘く、臭みも搾りたてなれば少なく美味なり。いったいに果実や野菜

のジュースは、作りたてなれば添加物無しで充分に美味なるように思ふ。時間が経つにつれて酸化し不味くなる。また良く冷やしておくことも重要なり。オレンジジュースも四から五PTで、四個分くらいのおレンジを二つ切りにして絞り機で絞った純粋の果汁にて、非常に美味なり。絞り機の下部に氷を入れて、果汁が氷を伝つてグラスに入るようになっており、冷たくて良い。家庭では小さな絞り機で絞つて瓶に入れ、冷蔵庫で冷やすが、やはりしばらく置いておくと酸味が強くなつて味が落ちる。どうしてもジュースの美味しい飲み方は、よく冷やして作りたてを飲むべしとなりそうだ。

夏は子供達を果汁や野菜ジュース好きにする絶好のチャンスであるから、ジュース作りの二大原則、作りたてをよく冷やして飲ませるべし。作つてから冷やすのは不可。冷えた素材を冷やしながらかつること。またミックスジュースはあまり上等とは思へぬ。反応しあつて味が落ちるし食べ合わせ上からもよく無い場合があるかも知れぬ。

そう言えばハム(加工肉)と魚は、食べ合わせると発がん物質が生成されるので要注意!。ハム・ソー

セージと魚を同メニューにする事は避けたほうが難。ご存知かも知れぬが。

AM十一時十五分ユースを引き払つて列車に乗る。二十分程でアスワンハイダム駅。スーダンのワディハルファ行きの船は、このすぐ下のポートからでる。PM四時の船出予定なれど早、満員にして三艘を横に繋いだ十五メートル長程、全員で百五十から二百人程も乗つていようか。

我が乗りしは家畜船にて、今回こそ人間が詰め込まれているが、家畜臭漂い相当、程度低し。床の藁ならぬ砂の上に寝袋を置きベッドとする。夜は屋根の上に移動、さすが湖の上、気温こそ高いものの吹く風が涼しく、肌寒さに目覚めし夜半、余りに数多き、まるでプラネタリウムの如き星空に、暫し声もなく魅せられし僅かな間に、三つの流れ星。願掛ける間も無く流れ行きて、あたり旅情を誘つ。

夜、就寝せし時は半月なれども字が読める程に明るく、左程星多きに気付かねども最早東に月落ちた今、星明かりに字も読めると思える程星の数々。天の川もなぜか気味悪き程の迫力にて、星空がかくの如き威圧感ありしとは初めて知りぬ。

七月十九日(水) 船旅 2

AM七時起床、暑さのためか砂埃で鼻痛めしかルクソールより二度目の鼻血出ぬ。大した事も無く、止血せば何ともなかれども気分の良いものではない。二十歳前後の頃は血気余りしか良く鼻血出せども、その後絶えて無かりしが、ルクソールで突然起こりしは何故ならん。精力あまりし為ならん？

今朝も熱き太陽なり。前日街で求めし丸パン半切れトマト一個、水少々にて朝食となす。あとトマト四個パン二切れ、ライム四、五個、マンゴー一個が手持ち食料。二泊三日の直行船旅なり。飲料は船端より汲みしナイルの緑色の水。相模湖の水よりはるかに汚くバケツに汲めばあくまでもグリーン一色。味はやはり砂っぽいが、これより他に水は無し。皆飲んでいたので右へ倣えで致し方無し。カイロの水は水道水とは名ばかり、実質はろくに浄化せぬナイルの川水そのままなれば、はるか上流の当地の水、見た目より綺麗かも知れぬと慰める。カイロの川岸には木陰の下にナイルの水を汲んだ素焼きの大きな壺が置かれており、誰でもその水を汲んで飲めるようになっていた。素焼き陶器の

気化熱効果でひんやり冷たい水が飲めた。冷たい水は美味しく感じられるものだ。

しかしカイロでは、さすがの私も猛烈な下痢で一週間苦しんだけれど、その後はいたって快調。

ただルクソールからアスワンにかけては、砂のせいか水のせいか、多分水のせいかと思えども、喉がいがらっぽくてかなわぬ。他の外人どもも皆そのようだから、やはり水のせいならん。一人のドイツ人など声が囁かれて老人の様になりたり。それとも新型の風邪ならん。現地住民の子供達も咳をしている。

真昼のナイルの上を我が船は牛歩の如き時速十キロ足らずで進行中。傍を時速六十キロを誇る水中翼船が追い抜いて行く。我が船は三百キロ足らずを二泊三日の旅なれど、水中翼船はその2/3ほどの距離を片道四時間強で駆け抜ける。ただし船賃は往復十五ポンド(七千五百円)、我が船は片道一・四五ポンド(七百五十円)。

船上にてアラブ人が良く唾を吐くの面に喰らう。この暑いのに良くあれだけ唾が出るものだが、のべつ幕無しそこら中に吐くので、汚らしい事夥しい。取り柄は暑過ぎるのですぐに乾いて、腰を降ろしたら唾と痰がビチャッとズボンについたという事はほとんど無い

こと。パリではゴミを捨てても罰金では無いが、唾や痰を吐くと罰金刑。フランス人は世界でも有名なケチンボの所為もあるのか、出すものは唾や痰でも吐くの見かけない。アラブ人のツバ吐き習慣を取り締まる為の法律なのかも知れない。アラブ人はラマダン（断食月）が年に一度会って、その期間中は日中食事、飲料、タバコはおろか、唾さえも呑み込んでならぬという宗教習慣がある。その習慣のせいではたらと唾を外に出すのであろう。

立て続けにピュル、ピュルと唾を吐くアラブ人を見ていると、昔読んだ怪奇小説を思い出す。夜薄暗い灯火の列車の中、一人の黒衣の老人が大分離れた痰壺目掛けて、定期的に唾を飛ばす。その度に唾は黒い小さな子ネズミとなって、痰壺の陰からチョロチョロと走り出す。くだらぬ話だけど、この暑さ、この家畜船の中で、現地人に囲まれていると、生々しく思い出されるのは、作者もこれと同じような環境でイメージを膨らませていたのでは無いかと、思える所為だろう。

七月二十日(木) 船旅 3

AM七時起床、今日で船旅は終わり。イミグレーション二回。検疫一回。その度に長い行列で一時間も待たねばならぬのは非能率的。十二時(昼)、スーダ

ンの港ワデイハルファアに到着。四十四時間の船上生活であった。入国審査は船上で済んでいるので、カスタムカードの記入のみ。十ドル現地通貨に両替する。港からワデイハルファアの街（と言うより駅を中心に掘って小屋がチラホラあるのみ）まで、道らしき道無き砂漠を五キロの距離。乗合ジープが一人六十PT（ピアストル、四百八十円）とは、日本のタクシーより高価、明らかな暴利なれども他に手段も無く、皆諦めて乗るなり（荷物が無ければ歩くのだが、約二時間近く道なき砂漠を行くのは、この暑さを考えるとちとシンドカろう）。つい二ヶ月前に聴きし時は五十PT、その前は四十PTとある。値上げムードは何処も同じなり。それにしてもこんな砂漠だけの国に、千五百万もの人が住んでいるとは信じ難き事なり。一時半ごろ駅に着く。早速切符を購入。二ポンド十一・五PT（千六百八十二円）なり。ジープ代を合わせると最早十ドルも残り一スーダンポンド（八百円）のみ。カルツームに着き次第、飛行機の手続きをしてエチオピアのアスマラに飛ぶつもり。エチオピアは涼しいとのこと。余りの暑さにうだりすぎて嫌になってきた今なれば、涼しさに憧れアティスアベバに憧れている。列車は四等で、三時入線六時出発二十八時間の車中旅なり。

七月三十一日(金) ワディハルファにて

昨夜は六時出発予定と聞きしに、列車(週に一本のみなり)が実際に発車せしは八時過ぎなり。全車両十五両編成の内四等は三両のみでそこに現地人集中の感あり。我々外人旅行者のみにて一車両の半分を占有(それでも何人かは座れない者が)せしが、辺境旅慣れぬ毛唐ども車内暑ければ待つ間(三時に乗って八時まで五時間待った)やたら外に出るのは子供染みてはいるものの人情、ところが現地人は一度占めた席は死んでも離れぬから、実質満員の車両なれども現地人より持ちし荷物が少ない所為で、一見一番空いて見えるこの車両に、我も含め残る何人かの旅行者がいくら満員だと叫べども、後から後からと現地人が大量の荷物を抱えて、当人がいない席に座り込むので、発車時にはどの車両よりも満員で三百パーセント近い混雑ぶり。この先三十時間の旅、先が思いやられる。また埃っぽい砂漠の中行く列車にて、その砂埃は想像以上なり。まるで粉屋の粉挽き場の如き車内になりて全員頭の前から足先まで砂まみれの真っ白けなり。

夜、陽が落ちてから寝袋を持ちて列車の屋根に登る。先客三十人程なり。屋根は湾曲しているので縦に寝ると揺れた時に転げ落ちる恐れありて、横に寝れば

背骨が逆に曲がりて不自然なり。しかし風が心地よくいこごちが良いので、さほど深く眠ることはできねども、満員の車内よりも余程快適なり。朝七時頃それでも何時間が眠ったらしく目覚める。落ちもせず。

八時三十分、太陽が暑くなり始めたのを潮に車内に戻る。が、いつの間座りに座り込んだものやら、最早、席は現地人で一杯なり。その上窓際に吊るしておいた我が大切な水筒が紛失しておるなり。水筒は熱砂の国では必需品なので、どうしようかと善後策を練っていたところ、面白いもので後ろの車両から見覚えのある水筒が、現地人の腰に吊るされて目の前に現れた。意気揚々と歩いてくる青年に、此処で会ったが百年目これは我が物なり、お前は盗人か！と言えば素直に返した。その時の彼の言葉はただ一言、イエスのみ。腕に覚えはあるが修羅場にならなくて良かった。前夜、近くにおりしエジプト留学中という、帰省中のスーダン人の学生なり。どんなつもりで盗んだのかわからぬが、アラブ系の人種の考え方は常に自分に都合の良い方に解釈するので、たまたま自分も欲しかった良い水筒が目の前にあつた、持ち主は見当たらない、アラアの思し召しだ！と喜んで頂いたので、罪の意識はなかつたのかもしれない。運の悪いことに持ち主に見

つかってしまったまでだ。残念！という感じなのだろう。とにかく命から十番目くらいに、時によっては二番目に大切な水筒がもどりと一安心。座る所も無かりせば、また屋根の上に戻る。

十二時、暑さ耐えがたければ、列車止まりし際に下に降りぬ。車外を売り歩く現地人の子供からマンゴ、レモンなどを買い冷きシロップを飲んで一息つく。

四時までデッキにぶら下がって過ごす。その後車内に戻りて、途中の乗換駅アトバラにて外人数名、現地人数名降りて空きし席に座りぬ。最早我ら現地人と同じ体臭（羊の匂い）にして真つ黒、埃だらけなり、カルツーム夜十時頃到着予定が、実際に着きしは翌朝三時三十分頃なり。幸いユースは駅から一キロメートルほどのところがあり、親切にも開門にあづかり、部屋に上がって早速シャワーを浴びて眠りぬ。

七月二十二日(土) カルツームにて 1

八時三十分起床、二、三時間の睡眠にてまだ寝足りねども、宿帳に登録、宿泊料払えと起こされれば前夜の好意の手前仕方なし。

今日はナシヨナルホリデイにて、スーダンは官公庁、会社、すべて休みの日で、エールフランスに行き、切符の往路変更するつもりが不可能なり。と言う

事は月曜日に手続きして、フライトは火曜日か水曜日ならん。思わぬ滞在延長になりそうで、移動日を休日にて当てぬ方針でやって来ても、移動待ちにこれほど時間かかりしは初めてだ。これも成り行きで仕方無し。

ユースはコンクリート造りで昼間は室内が涼しいが、夜間は屋外の方が涼しい。昼間にたぷりと太陽熱を貯め込んだコンクリート壁が、その熱を室内に放出するからだ。従って殆どの宿泊者はベッドを屋外に持ち出して寝ている。我も今夜はそれに習って屋外就寝を試みるなり。幸い蚊も少なく虫も殆どいないので快適なりなり。と言う事は、蚊も虫も育つほどの水さえ無く砂漠ばかりの国と言う事か。

夕方、市場へ食料品の買い出しに行く。レモン二十個(四十円)、人参三本(十六円)、オクラ一山(二十四円)、中国製のリンゴジャム(四十円)、パン四枚(三十二円)、砂糖少し(四十円)以上が二日分の食料なり。

ティが飲めると良いのだが、このユースはティもコークも置いていない。水とレモンと砂糖でレモネードを作って飲む。残金二十二・五PT(百八十円)。明日は日曜、寝て曜日、何もしない日である。そろそ

る十一時、ユースの就寝の時間である。御休みなさい。七月二十二日 午後十一時 廣行拝

七月二十二日 カルツームにて 2

こ両親様、エジプトの隣国スーダンの首府カルツームに来て四日目になります。カルツームに到着次第、航空券路線変更をして、エチオピアの南、アスマラに飛ぶつもりだったのですが、到着日が祭日、今日は日曜と連休でまだ何の手続きも出来ず、市内地図さえ入手出来ずにいます。思ったより長居が続きます。航空便も多分週一本位でしょうから、場合によってはもう一週間近く、この暑い国で過ごさねばなりません。物価はヨーロッパに比べはるかに安いのですが、エジプトがあまりに安く暮らしたかったので、ここは少し高く感じられます。でも風俗習慣などはエジプトの続きのようで、カイロとは相当な差がありますが、ルクソール、アスワンとはそんなに大きな差は感じられません。

暑さはやはり相当なもので、日中は涼風というよりは熱風が吹きます。水道の水も肌に暖かく感じられま

すから、体温より高いのでしょうか。夜間でも三十度は降らない様です。

屋外で就寝していると明け方(と言うよりも七時頃の太陽が昇り始める直前)流石に吹く風も涼しく、裸体では寒いかなと思われる様になります。それも一時間位の事で、また暑くなり始めます。エジプトの夏は暑いと言うものの、カイロでは夕方からずっと涼しく凌ぎやすくなりますから比較になりません。

まさしくこの国では毎日毎日暑さとの戦いの様です。こんな国に生まれなかったことを幸いと思えます。本当に。それでもスーダン人にとっては自国、愛すべき祖国なので、直ぐにスーダンは良いか?と聞いてきます。コワイスー! (アラブ語で良いと言う意味) といつてやるとご機嫌でニコニコしますが、余程冷え性の患者でもない限り、一日中サウナ風呂に閉じ込められている様なスーダンが良い筈がありません。

たまたま暑くて埃っぽくて良くない所だと言っちゃったら、いやスーダンは良い所だと、執拗に反論しておりました。でも今はスーダンの冬(十一月から三月)を除けば一番良い季節で、雨季なのです。と言っても殆ど雨は降らないのですが。他の季節には全く降らず、今頃(七から八月)に時々スコールがあるのが

唯一の雨なのです。五、六月ごろは砂嵐があつて、これが来ると一日中濛々たる砂埃の中で、息もつけず建物の中でじっとしているだけとの事。これは嫌ですね。一年中十五度と言つ高原都市アデイスアベバへ早く行きたいものです。きつと日本からの手紙も待っている事でしょうし。六月下旬に手紙を受け取ったのが最後で、かれこれ一ヶ月近く便り無し。どうなっているのか心配です。

こんな事ならアデイスアベバに着いてから、手紙を書くべきでした。予定は未定で時々変わるのが一人旅の楽しさですが、この回は裏目に出た様です。

カイロよりの手紙にてお願いせし事、よもや彼女が断つたりしないと思ひますが、もし考えさせて貰います等と言つ事だつたらどうしよう等と思つています。

成すも成さぬも因縁でいたしかたなし縁無きものと諦めますか。こんな事考えるも便り貰えぬため、エチオピアはまだ遠し。でも別に焦つてはおりませぬ。ご心配なく。と言つのも彼女の事は矢張り浅からぬ宿縁と思つている為で、よもや私を好かぬ等と言つ筈が無いのです。

もし既にお逢い下さりおれば、御両親様も気に入つてくれた筈。何かとお引き立てくだされば幸いです。



雨季のアデイスアベバは毎日飽きずに雨が降り続く。日本の梅雨時のよう

彼女には申せませぬが、料理も下手な様子、もしや母上様の技術の一部でも、主婦の心構への一端なりと、それとなく御指導くださればと思っております。真宗の何たるかも。私に嫁ごうと言うからには矢張り真宗にも有縁の素性と思えます。高校時代は浄土宗の学校でお経とも慣れ親しんでいる筈です。私が日本にいない今、そんな事も易く、私がいるより楽なのではと思っております。

七月二十三日 スーダン カルツームにて

廣行拝

七月三十日 アデイスアベバにて 1

ご両親様、昨日エチオピアのアデイスアベバに到着、お手紙入手いたしました。早速のご手配、本当に本当に有難う御座います。

しばらくの外地暮らしにて日本的な細かき配慮致す事も忘れ、突然に我が気持ちのみ連絡せし私の我儘さ、思慮の浅さも、当地エチオピアの高原都市（二千数百メートルの高度で、気温十三度、毎日雨が降っています）アデイスアベバの冷気に触れて、覚めし今なれば浅ましく恥ずかしく思っております。

父上様、母上様におかれましては何かと複雑な心境にて私の便りをお受け下すつたと思えます。兄、姉皆様もおそらく、随分甘ったれた男よと非難の声があったのではと想像されます。

にも関わらず、たった一度の便りにて、御話をすぐさま御進行下すつた父上様、母上様の御心、私への深き親の愛、誠に有り難きことにて嬉しく、お便りを拝見しながら胸熱く涙こぼるる思ひ抑えることあわず、今更に感謝の念、深く致しました。この上は親様の御信頼、決して裏切りたりすまじきと深く心に誓い申し候。今日は七月三十日、既にご両親様には節子との御見合い成されし後、経験浅き我が選びし娘（既に彼女が私の妻と決まりし今なれば、私が選んだのではなく天が巡り逢わせたのだと思えます）は、経験深き親様の目にはどのように写つた事でしょう。気に入って下すつていれば嬉しいのですが。私共々今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

日本に比べて何事も安易なこちらの、しかもその中でも若者たちの間に混じつて生活しております現状なれば、悪しきと思えば否定せしども、いつの間にやら染まりて、考え方なども西洋的になるも悪いこととは思わぬながら、矢張り私は日本人。日本の社会のしき

たりに従って生活するのが、正しいと思うし、間違っても人の道踏み外すなど有るまじき事と考えます。

想像通り、身の危険こそさほどには感じませんが、困難なアフリカの旅続ける今の我なれば、この先何が起ころやも知れず、それも勉強、楽しみと言つてしまえばそれまでですが、結婚問題など持ち出した事、軽率であつたと後悔の気持ちも無くは有りませぬ。これも成り行きなれば自然（じねん）に任せるより他ありませぬ。色々と思ひ悩む事も多き今日この頃なれど、歎異抄にも曰く「信心さだまりなば、往生は弥陀にはかられまいらせてすることなれば、我がはからいなるべからず、我がはからざるを自然と申すなり、これすなわち他力にてまします」と有ります。

阿弥陀様にまかせ、親様にまかせ、自然のままに、いろいろ小賢しく我が計らいなど成さぬ事に致します。それが真宗信者の道と申せましよう。

◎時計が着いたそうで良かった。アラビア人のみならず、スイス人まで信じられぬと思ひ始めておりました。スイス人の名譽のために乾杯！ あれは約二万三千円くらいでした。通関料が一割で良かった。送料も同じくらいだったような気がします。

◎母上様、いつも私の身を案じてくだされて有難う御座います。御送り下された和歌の短かき言葉の中にも溢れる愛を感じ、ともすれば長旅に荒みがちな我が心の糧になっております。エチオピアには九月一杯いるつもりです。今ホテル暮らしですが、住居が定まつたら連絡します。親様、兄姉、皆様の健康を祈りつつ、英子姉に女子誕生とのこと御目出度う御座います。 敬具

七月三十日アデイスアベバにて

廣行拝

七月三十一日 アデイスアベバにて 2

七月二十四日付お手紙拝受、父上様におかれましては、節子を氣に入つて下さつた様で一安心。有難う御座います。心からの御祝いの御詞、誠にもつて有難く嬉しく、親不孝とも思える今回の私の行動故、実は内心、御両親さまに相済まぬと曇りがちだった私の心も、この一言で晴れ上がり、毎日雨降りの雨季のエチオピアにおりまして、あたかも五月晴れの如き心境です。

父上は男故私の心もきつと理解していただけるとは思つていましたが、一番心配だったのは、氣に掛かつ

ていたのは母上様のお気持ちです。その後母上からは便りが御座いませぬが、父上の便りに窺うに御祝福くださっているものと心得、安心しております。それに付けても私は幸福もので御座います。素晴らしき両親、兄姉の元に生まれ、そして今日、良き伴侶を得ることが出来る幸せを、遠き異国の空にてしみじみと感謝しております。挙式の件、今年中というのは、このアフリカ旅行を途中で切り上げることを意味します。もし許されるのならば三月ごろと言うのが、私にとつては都合最良です（三月初旬から中旬）。

矢張り挙式の一ヶ月前には帰国したいものですし、一度ヨーロッパに戻ってから帰国準備をしなければなりませんので、一月末でもちよっと時間が足りないのです。でもこれはあくまでも私なりの都合であり、願いです。日本における都合をどうぞ優先して御決めください。私にはこのうえ更に自分の我儘を押し通すことは考えられません。

媒酌人の件、実兄が仲人するということはあまり聞きませんが光栄です。兄夫婦の様に素晴らしい夫婦になりたいものです。かつて、もし結婚する事があったら仲人はぜひ我が師匠、早崎治夫妻にお願いしようと思っていたのですが、私の愚行故、不可能なのが残念

です（日本にいた頃、「そろそろ結婚しろよ、仲人は俺がやってやるから」など言ってお下すっていたのです）

式場の件、式そのものは是非仏式で行いたいものです。披露宴はなるべく質素にありたく、儀式そのものは荘厳に思っていました。

招待者の件、最低人数に絞るとすれば、1. 早崎治夫妻、2. 山下勇三さん、3. 青木一男さん、4. 八木正仁さん、5. ハヤサキスタジオの同僚四人、6. 加田晴俊さん、7. 九段高校柔道部の仲間五人、8. 竹馬の友七人、以上二十二人です。それぞれ忙しい人たちばかりですから、実際に出席してくれるのは半分以上くらいかな。

このリストで呼ばねばならぬ人が漏れているかもしれませんが、思い出しましたら、また連絡いたします。何分にも海の彼方からゆえ、不都合な事、不手際な事多かろうと思いますが、万事お任せいたしますのでよろしくお願いいたします。

敬具

廣行拝

八月四日 アティスアベバにて 3

御両親様、アティスアベバに滞在七日目になります。二、三日中に北の観光スポット、アフリカ三大瀑

布の一つブルーナイルフォールス見物に出かける予定です。アデイスには一週間か十日後に戻りますが、その頃には式の日取りについての返事が来るものと思っ
ています。式が一月か三月かで大分旅行の予定を変更
しなければなりません。その調整は主にエチオピアに
滞在する期間と、ケニヤに滞在する期間を減らすこと
によらねばなりません。早めに連絡が欲しいのです。

南アフリカ入国は諦めました。ヨーロッパで、アフリカで南アに行きたいという日本人は結構いるのですが、商社員等ビジネス関係以外は、こちらの大使館でビザを取るのとは不可能なのです。むしろ日本で取る方が簡単の様です。でも、南アフリカは、アフリカと言
うよりは気候的にも国的にもヨーロッパの様で、アフリカではないという話です。そんな所に行く為に、最もアフリカらしい東アフリカ三国（ケニヤ、ウガンダ、タンザニア）を端折ってしまうのは、それこそ時間惜しみの百兩損になります。

今後の大体のコースを下記します。地図がありません。たらご覧下さい。

アデイスアベバ（エチオピア）↓ナイロビ（ケニヤ）↓モンバサ（ケニヤ）↓ナクルー（ケニヤ）↓ジンジャ（ウガンダ）↓カンパラ（ウガンダ）↓マチソ

ンフォールス（ウガンダ）↓フォトポータル（ウガンダ）↓エンテベ（ウガンダ）↓ムソマ（タンザニア）↓セレンゲティ国立公園（タンザニア）↓ンゴロンゴロ自然公園（タンザニア）↓モシ（タンザニア）↓キリマンジャロ登山↓ダルエスサラム（タンザニア）↓ンベヤ（タンザニア）↓ルサカ（ザンビア）↓リビングストン（ザンビア）↓ビクトリアフォールス（ザンビア）↓ルサカ（ザンビア）↓ナイロビ（ケニヤ）↓ロンドン（イギリス）↓バイルト（レバノン）↓シリア↓イラク↓イラン↓アフガニスタン↓パキスタン↓インド↓ビルマ↓タイ↓マレーシア↓シンガポール↓香港↓東京。

ロンドンからの帰路は色々なコースどりが考えられるのですが、飛行機で飛ぶとすればJALでもBOACでも約二十八万円くらいです。パリからアエロフ
ロート北回りで十四万円くらい。じっくり考えたのですが、もし帰国に船を使ったつもりで、一ヶ月から二ヶ月掛けるとすれば、中近東、アジア経由で十万円くらいでしかも、各国を見物しながら帰る事ができます。

アフリカもそうですが、中近東も特別な事情が無い限りまず行く事は無いし、また若い時でないとなかな



遺影用に用意したネガフィルム



3枚とも7月14日ルクソール（エジプト）カルナック神殿にて撮影

か旅行も大変な国々なのです。有難くも節子連れれて再度外国へ出る事をご許可下さいましたが、とても彼女を連れてアフリカは勿論、中近東、アジアを旅する気はしません。それほど酷い所です。でもそれだけに、私にとっては非常に収穫があります。なるべくアフリカの旅行、無駄なところを切り詰めて、早めにロンドンに帰り中近東、アジア周りで帰ろうと考えています。今までおよそ二十三ヶ国周りました。中近東、アジア経由で帰るとすれば、帰国までに四十七ヶ国から五十ヶ国周る事になります。別に数多くの国を周るのが今回の旅の目的ではありませんが。

カイロであった日本人旅行者は六十ヶ国周ったと言っていました。彼は全世界周るのが目標で、俺は何処と何処に行ったぞと自慢できるのが嬉しいのです。私は全然そんな事は気になりません。それより如何にしたら、精神的により多くの収穫を挙げられるのかと言うほうが大事です。旅行者にもいろいろ有ります。

エジプトのルクソールのユースと一緒にになった人がシャッターを切ってくれた写真を送ります。

勿論、節子の方にも送りました。ネガはもし事故があったりした場合に、引き伸ばして遺影にお使いください。どんな条件の悪い所においても、一ヶ月以上連絡



をつけられない事は考えられないので、一ヶ月以上使
りが無かったら、そんな場合と御想像下さい。滅多に
ない事で、むしろ東京に住んでいるほうが危険は多い
筈ですが、今後私が旅する何処かで不慮の事故にあっ
たら、連絡もいかず、遺体も見つかからない事態が考え
られますので。 御両親様 どうぞ御身体御大事に！

八月四日 アデイスアベバにて

廣行拝

八月十日 アデイスアベバにて 4

母上様、御元氣でお過ごしのことと存じます。

エジプトでは色々と心配事が多かったのですが、お
陰様でスツキリ致しました。エチオピアに入ってから、
高原のオゾンを含んだ涼しい空気が、身体の調子
と共に心の調子も取り戻させさせてくれた様な気がしま
す。

父上様より既に便りを二通頂き、節子からも三通の
便りで、その後のことすべて分かり安心しております。
あとは日取りの決定さえ連絡頂ければ、それに合
わせて予定を組み直しますのでご安心下さい。

私の選びました嫁、節子は母上の眼にはどの様に写
りましたでしょうか。節子と言えば確か従姉妹の木村
の娘さんが同じ名前でしたね。漢字も同じでしたか？

節子からは便りにて「二十三日の朝、心配で心配で眠
れなかった早く一日が過ぎて欲しい、そして貴方に良
い知らせができたら幸せ」と書き、その後帰ってきて
から「お母様はとても美しい方で優しく理想的な女
性、お二人を見てみると、とっても若く仲が良く、理
想的な夫婦なので羨ましい。そしてそのお二人に育て
られた貴方はもっと羨ましい。私もお母様の様に旦那
様に尽くす様な妻になりたい。廣行さん、私を貴方の

お嫁さんを選んでくれて有難う。きっと貴方の期待に
応えられる様な妻になりますので、何もわからぬ私を
よろしくお願いいたします。私は本当に幸福者」と
言ってきました。いじらしく可愛いでありません
か。そして、貴方にも貴方のご両親にも、私の両親に
も感謝しています」と結んでいます。父上に関しては
「何だか貴方と話している様な感じがして変な気持
ち、お父様と貴方は外見も似ているけど、心の中ま
でが通じ合っている様なので、びっくりしちゃっ
た」と書いています。

素直で頭も良く可愛い娘です。どうぞよろしく御願
いいたします。節子には手紙の内容、母上にお教えし
た何て言わないで下さいね。用心して本音を書いてこ
なくなってしまうと困りますから。口でさえ、私が
思っていることを全部、御両親様に言ってしまうてる
のだらうと、思っている様ですから。母上に倣って和
歌を一首

へ 新しき 花を抱きて 我祝う 妻の決まりし
このときなれば 新しき花とは、アデイスアベバ
がエチオピア語で、新しき花という意味なのです。

敬具

八月十日 アデイスアベバ・新しき花にて 廣行拝

八月十二日 アデイスアベバにて 5

拝啓、今後の大まかな旅行スケジュールを立てまし
たのでご報告致します。手紙など受け取れる場所の住
所も書いておきます。日本を出す予定日の指定より遅
いと、受け取れません。最もアフリカは予定は未定に
して決定にあらずなので、どうなるか分かりません
が。予定より早くその地を立つことも、交通機関の関
係でありえます。週一便が多いので、しかもその日付
を現在の私は知りません。今の所、お金の方は大丈夫
ですが、ケニヤの動物サファリがびっくりするほど高
いので考慮中です。車を使わないと見れないし、とも
かく安上がりには動物を見ようというのは、ナイロビの
動物公園で済ませることになってしまいます。今まで
高いお金を使ってきて、全体に比べたら高くは無いいサ
ファリの費用を惜しんで帰ったら、本当の一銭惜しみの
百両損ですね。ざっと計算したところ、ヨーロッパ
に帰る頃には一文無しになっていることでしょう。

① 八月二十四日 アデイスアベバ発 手紙の受け取
りは八月十七日以前に出した分のみ

② 九月一日から四日頃 ナイロビ(ケニヤ)到着
予定 九月二十日頃まで滞在予定

住所：% EMBASSY OF JAPAN

WABERA STREET, NAIROBI KENYA P.O.BOX 2022

九月十一日以前に出した手紙が受け取れます

③十月一日から五日頃 ダルエスサラム(タンザニア) 到着予定 住所：%EMBASSY OF JAPAN PLOT, No.78,KINGSWAY ESTATE DAR~ES-SALAAM TANZANIA P.O.BOX 2577

九月十一日以降九月三十日までには日本を出す手紙

④十月十六日から二十日頃 ルサカ(ザンビア) 到着予定、九月三十日以降十月二十日までの分が受け取れません。 住所：%EMBASSY OF JAPAN

No.45 REDBUK ROAD,KABULONGA,

LUSAKA ZAMBIA

P.O.BOX 3390 九月三十日以降十月二十日までの分

⑤十一月十日頃 パリに立ち寄る予定

住所：% JAPAN AIR LINES

75 AVENUE DES CHAMPS ELYSEES PARIS 8 FRANCE

十月二十日以降十一月六日までには日本を出す分

スペースがなくなりました。後の予定は次の機会にお元気でお願いいたします。

廣行拝

八月十五日 アデイスアベバにて 6

母上様、八月十四日大使館にて、七月二十八日付けの封書拝受。有難う御座います。母上様も父上様も〈節子を気にいって下さったご様子、安心致しました。御両親様が「これは、どーもねー」と首をかしげる様な娘だとしたら、たとへ愛しているから良いのだとは言うものの、ちょっと考えてしまいますからね。それこそ親不孝と言つものでしょう。

始めから節子なら御両親に気に入って頂けるであろうと自信はありましたが、これで一安心というところでありませぬ。

芯は強い娘ですが、大人しくあまり口数の多い方では無いので、私のいない御両親様とお見合い、家族との対面など、どの様にこなすか心配がなかったとは言えませんが、父上様のご配慮で無事に進んだ様子で何より、本当に有難う御座いました。

〈節子からも大変素晴らしい御両親、御兄弟で、初めて会った様に思えない、とても嬉しかった〉と便りが有りました。

特に父上をととても気に入った様子にて、素晴らしいお父様で、まだ三回しか会っていないけどすっかり好きになってしまいました。一日中ぐ一緒にいても飽きない

でしょう。飽きないというのは失礼かもしれませんが離れたい方です。私の方が楽しくともお父様は私と話すの飽きちゃうかな。今はまだ私に気を使って下さっているのだと思いますが、早く忠告される様な仲になりたいと思います。廣行さん、お父様は貴方にとのような手紙をお書きになったのかしら。私のことについて、知りたくもあり知りたくも無し。結納まで進めて下さったのだから、気に入って下さったのだと思います。息子が好きになったのだから、仕方無いと思ってしまうのかしら。どちらにしても私はお父様が〈好き〉と便りして来ました。〈でも貴方の方がもっと好き愛しています〉と結んでいますが(ちょっとノ口けました)。

父親が体が弱くて余り父親らしい愛に恵まれていないので、父親らしさに憧れている所もあるのでしょうか、母上様の御言葉通り、やはり深き御縁が有ったのだと思います。

母上様、ご心配下すって有難う御座います。でもこれから先のアフリカ旅行は、殆ど千メートル以上の高原地帯で、そんなに暑くはなく、無謀なことをしない限り東京で生活するよりも、むしろ安全でしょう。東京より安全で無いのは唯一つ、伝染病だけです。伝染

病の最後の巢窟と言われているエチオピアですが、感染症が猛威を振るっているのは南部で、私はこれから北部への旅をします。指定された予防接種も受けていますし、予防薬を服用して治療薬も携帯していますからまず心配はありません。むしろ私の方こそ、たまさか大使館で日本の新聞など見ますに、事故や、風水害、殺人事件など満載で、御名前が載ったりしたらどうしよう等と心配しております。現代では未開地やジャングルより、都会のジャングルの方が危険なのです。どうぞくれぐれも事故など会わぬよう、お身体御大事に。

自分の身体一つで無いことは重々肝に命じております。この上は今まで以上に注意し安全第一、死んでも命のあるように行動いたしますので、どうぞご安心を。

御両親様

敬具

八月十五日 アデイスアベバにて

廣行拝

バハールダルから約三十キロ、ナイル川の源流の一つブルーナイルフォールズがある。雨季なので濁った水が激しく落ちる。ゲリラの出没が有るので、観光にはガイドと護衛が必須である。滝の落差は四十五米。幅百から四百米



八月十八日 バハールダルにて エチオピアにて思ふ事

美人が多いとの風説に關して。人口比重において美人が多いかという点、必ずしもそうとは他の国と比較して思わぬが、少なくとも水商売に従事する娘ども、それなりに容姿整いしは確かなり。街で見かける特に学問せし娘ども、必ずしも美人多くなかれども、英語も解せぬ裏街の田舎の酒場におりし彼女らの、ことごとく美しきはいと面白き。

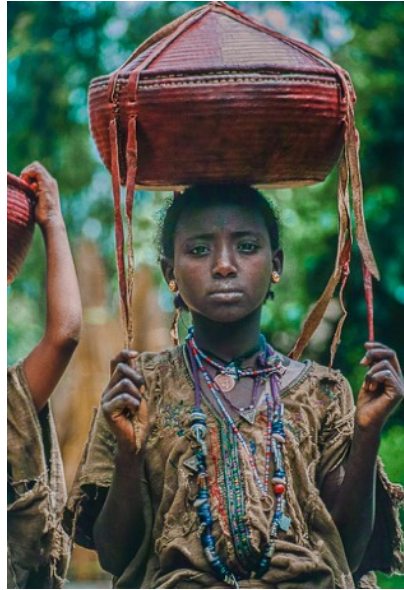
貧困と伝染病が表看板（裏看板？）のエチオピアに見れば、春を鬻ぎし娘らの八十%以上は花柳病持ちとして、表艶やかに粧えども、体臭などいと臭く、さほど清潔にあらざれば、そもうなづけるなり。

そして多くの人は未だパンティなど無縁の存在にして、男どもも直にズボン履きて、猿股なぞ用いぬ。

女性の地位低きことは確かにて、女の労働力は主に下働きにて、男女の仲にも主導権は常に男がもちぬ。

そして老若の区別、身分上下の区別もアラブに比べて明確にして、目下の者は目上の者にいと卑屈なり。アラブの下賤の者どもと言えど、態度堂々たるに比べ、てさほど良き事と思へぬは何故ならん？

下はバハールダルの物売り娘とブルーナイルの水源、タナ湖に浮かぶ葦舟です
(乗ってみました)



教育は普及して、街在住のほとんどの子供達は初級学校に通いぬ。六年の初級学校と二年の中等学校、四年の高等学校、その上に大学がありぬ。初級学校の後半三年間は英語必須であれば、頭良き多くの子供達 齢十歳程にして既にかなり英語を使わんとする。外人見れば話しかけて幾ばくかの小遣いにあり掴んどの心算なり。従つて小学校出る頃には、日本の中学生程度の英会話力は持てり。然れども日本の中学生においては、ほとんど実際に使用するチャンスなかりせば。実際の英会話力はいと低し。覚えし単語数においてははるかに勝るやも知らぬが、実際に使えぬ語学、いくら習いても其れは死物なり。

この国は米国に頼ること大であれば、英語を学ぶはずなわち出世へのパスポートにて、大学を出てスカラシップを取り、米国に留学し帰国した暁には、官庁にて要職につくが最高の望みなり。不幸にして漏れたる教養のある人々、何とかして国外に出んと思えども、それは不可能なり。何となれば、一昔前の日本の如く留学、公用以外の渡航を政府は禁じて居ればなり。

やはり日本の如くオールギランティの渡航は許可になるらしく、我の如き何の力も無き旅人に対しても何とか日本へ行って勉強したい、働きたい、如何にせ

ん？と相談を持ちかける人多し。日本の評判は極めて良いと言える。教養のある人々においては、かなり正確な日本に対する知識を持ちぬ。勿論、日本製品の進出も多く力ある事と思われるが。小学生までも日本政府が我が国に対して二百七十万ドルの経済協力をしてくれているので、有難いなどと我に言ふ程なり。

かの小学生、我が国は貧乏にして経済力も無かりせば如何にせん、如何にしたら、と我に問うは、何とも日本の小学生に比べませたと云うか、感心というか、考えさせられたり（もしや学校から明日までに答えを調べて来なさいと出た宿題ならん？）彼の姿といえは裸足にしてボロボロの衣服を着て、白雲だらけの頭にてハエを顔にいっぱいたけた子供なり。始め我に五セントくれと持ちかけたは彼なり。

また、一日我がガイドをせし高校生の英語力は驚く程なり。アメリカンスラングに通じている事はなはなだ広範囲にて、我の知りしスラングは全て知っていたり。彼曰く、子供の頃より多くのアメリカ人のガイドをして暮らし居れば当然なりと。そは田舎の高校生なり。これは悲しむべき事が、驚くべき事が。

先日アデイスアベバにて日本の青年海外協力隊員と知り合い、話が盛り上がり会食するチャンスに恵まれ

しども、日本から到着早々にて、そのフレッシュさはいと楽しかりき。

水なども腹の為のままが良策と、我の飲みし水も一滴も飲まず、これから二年のエチオピア生活、生水飲まずに済ますつもりならん。彼らの仕事の都合上、殆どがフィールド生活であるはずなのだ。

その折、一隊員より永井荷風の短編集（あめりか物語）を借りぬ。久しぶりの日本の小説にて感慨深く読みたれども、執筆当時、荷風二十五から二十九歳。ほぼ我と同じ年代にして、今を去る七十年近くの昔。したれども何程も古さを感じさせぬは筆の力にして、いたく賛意ありて深く頷き、また考えさせるもの持ちたるは流石なり。久方ぶりの読書にて二つ星ほどの文庫本、読み通すのに三時間も掛かれども、いと楽しき時が流れしなり。荷風の当時の立場、心境と、我の今おりし心境、立場は異なれども、感じ方の似たるは何故ならん。あめりか物語に続いて荷風はふらんす物語も書きたれば、それも読みたくなりけり。

人生それぞれ生きる道は異なれども、生きる時代も異なれども、真剣に己が生き方を考へ、人間らしく生き抜く事を想う人にとりて、そのたどり着く処はさほど変わらぬのかとも思へり。

あらま欲しくは、仏の道なぞ聞き知りたる者に。キリスト者の悩み多き事仏教者の比にあらず。原始的キリスト者の幸福に比べ、より多くを知りたる、荷風流に言えば書物の一つも読みたるキリスト者程、何故か苦悩すること多し。

真宗行じたる人において、我も彼も本質的な悩みなど無かりせば、彼等の教義に対する疑問知るは哀れなり。全て自分の計らいにあらず、仏に計られての往生なれば何をか悩むらんや。

自然に任せる、自然のままの生活が本当なり。我が力にて、人も変わるらん、我をも変えん、とは浅はか至極なり。エチオピアはオーソドックスチャーチにて、八十%がクリスチャンなり。悩めるキリスト者に幸いあれ！

今回の協力隊派遣者の中に、ポピュラーな測量隊員や、自動車修理工、無線技術者、獣医、スポーツ指導員等の他に、変わり種はソーシャルワーカーとして天然痘撲滅運動キャンペーンの調査員が含まれていた。エチオピア、スーダンなどは世界に冠たる天然痘の流行地であれば、エチオピア政府としてはW・H・Oの協力を得て何とか撲滅をと願ひ、今回は日本より八人の隊員来たりて、ランドクルーザー持参にてエチ

オピアの辺地を廻り、天然痘の感染経路等の調査をするものなり。かつてのタンザニアの洋裁指導も面白きケースと思へども、今回もまた非常に面白い内容になるであらん。

しかし彼等日本の協力隊員にとりて、致命的な欠陥は語学力なり。フランス語圏に行きても、英語圏に行きても、三ヶ月ほどの語学教育にて送り出される彼等にしてみれば、殆ど言葉を理解せぬも同じなり。やつと覚えて来た頃に帰国というのが例にて、その上げたる実績は如何ならん。それに引き換えフランス人や英人、アメリカ人等はいとも楽にて、しかもそれなりの敬意払われて仕事しておるを見れば、日本の協力隊員は隊員の為の報酬付き海外生活体験活動にしか過ぎないのではと思うは極論にして偏見なり。仏人、英人、米人が威張りて現地語修得には精を出さねど、一部の日本人は現地語を習ひ、彼等より深く現地人と交わり、国際親善及び現地の技術向上に深く貢献し、現地の人々に慕われる存在となりしも多く聞く事実なり。

とまれ、これからの日本人よ、汝らは世界の第三勢力として米との関係を潔く断ち切り、真の中立国として世界平和に尽くすが、一道なりと思ひしは独善なるや？少なくとも軍国主義化への道は、えとるまじき！

悲劇は二度と繰り返してはならぬ。悲劇を繰り返えさせぬ為の力に日本がなる事を我は願う。

狭い視野にて、己が国の繁栄のみを願うは時代遅れのナシヨナリズムなり。やつと民族主義に目覚めし、アフリカ、アジアの近代独立国に見られる姿勢なり。もはや先進国は進んで世界平和に尽くし、地球は一つ、宇宙は一つの精神にて進むが本道と思したり。

どのような社会にても、セクシヨナリズム、ナシヨナリズムは最早害悪なり。よもや今、日本が世界各国との関係を断ちて、独り生きる事が出来しや？ 否、不可能なり。世界各国の協力有りて日本の繁栄は有り。しかれば後進国の援助をし、先進国の横暴を抑え、世界繁栄の為にと策するが最高の道と思わんや。

我、多くの国々、富める国、貧しき国、社会主義国家、資本主義国家巡りてつくづく思いたり。〈垣根〉は邪魔なり。無くさんと思えども、己が利害主張が夫々に第一なれば、いつまで経っても取り去ることが出来ぬ。垣根を取り去るは理想なれども、それは不可能なればせめて互いに協力し合い、敬愛しあう関係築きたし。工業化するなわち繁栄に繋がるかどうかは大いに疑問なれども、日本は工業化への道を進み、南米諸国などは農業化への道を進む。効率は工業化の方が良さ

そうなれども、デンマークの如く農業国として豊かな国もあり、ひとへに教育と政治の力なり。

五十年後の世界はどのようになりたるや？ エチオピアの如き貧困の極たる国にも繁栄はもたらされるや、そうあらまほし。五十年後相変わらぬエチオピアの姿を見ることがも若しやあらん。そんな気にさせる国なり。

レボリユーション（革命）はやはり必要ならん。我思う。理想的な政治を成さんとせば、全能の神の如き独裁者の手によるのみ。然れども人間皆一つの心に在らねば、たとへ客観的に理想であつても、ある人にとつては不満ならん。不満はつきぬ。即ち、万人にとつての理想郷の建設は不可能なり。然れども多くの人々にとつて、少なくとも生きる為にのみ働かざれども済む社会の建設は、最低限の目標ならん。

やはりやはり教育がその歯車とならん。全ての地球上の国々が、日本国憲法に謳われるが如く、健康で文化的な最低限度の生活を送れるようにするのが、これからの我々若者の（つとめ）ならん。あらま欲しくはその上に全ての国が軍備を捨て去り、日本国憲法の如く（空文化なれど）戦争の放棄決めたきものなり。

米国大統領選挙において、ぜひマクガヴァン氏に勝利あらんことを！

我が国において福田氏にあらず、田中氏が首相になった事が、世界平和の為にも細やかな進歩であるように、ニクソン氏にあらずマクガヴァン氏の当選は大いなる世界平和への一歩となるらん。

世界は平和を望んでいるー！

1972年八月十八日 バハルダールにて 廣行拝

八月二十二日アデイスアベバにてア

御両親様、本日本使館にて御便り拝受、いつもながら有難く拝読いたしました。

私の希望、御取り上げくださり誠に有難ふ御座います。心置き無く旅行を続ける事が出来ます。正直な話〈帰心矢の如し〉一刻も早く帰りたき思いなれども、旅を続ける事が将来の我が糧とならんの思ひ強ければ、今しばしの辛抱と我慢しております。

また節子には我が意、伝えてありますが、父上、母上が、そして矢口のご両親がお許し下されば、身勝手ながら節子を連れての再度の渡航、致すつもりです。このことに関しては実に多くの考えねばならぬ問題が有りましたし、悩みも多かったのです。節子にプ口

ポーズせし以来の悩みでも有りました。私も人の子、平凡な幸せな家庭を築く事が、万人にとって最高の喜びであろうことは分かっております。

来年、日本に帰りて結婚を機に日本に腰を落ち着け、仕事に精出す事が、平和な家庭を築く事が、現在に於いてはベストであろうことは疑いようも有りませぬ。私の師匠を始めとして多くの先輩方、友人達もそれを勧めるであろう事は、想像に難く有りませぬ。そして我が御両親様も、矢口のご両親様もそれを望んでいるであろう事も。

私がかもし日本に当分帰るのを嫌がっている様に見受けられたとしたら、実はそれこそが原因です。皆様が私の腰の落ち着く事を望み、そして自分自身でさえもその方が良いのではと思へてくる。それが常識というものであるからとも言えましよう。

もし日本に帰ったら、気の弱い私のこと故、誘惑に負けてそのまま腰を落ち着けてしまう事にならふ。周囲の私を暖かく見守ってくれる人々にとっても、一番の幸せの道であるふと考えられれば、なほさらの事です。

しかし御両親様、私はやはり当初の自分の志、自分の決意に従いたいです。

今日日本で仕事を再開しても充分食べていく事は出来るでしょう。しかしそれは今回の外国旅行に出る前から、分かっていた事です。それなのに何故、六年間かけて築き上げた自分の位置を投げ捨てて旅に出たのか？ 自分の人間としての未熟さ、職業人としての不完全さを痛切に思い知ったからでは無いのか。

なれば、やはり、ある程度の満足を自分の中に見出すまで、修行を続けるべきでは無いか。今現在の楽しさ、幸福よりは、将来のもっと大きな幸福の為に向かって努力すべきでは無いか。そう思っています。

自分に満足がいく様になるかどうかは疑問だらけです。何年経っても、何度外国で努力しようとも。

でも、今、自分にとって、将来の為にそれが最善だと信じる道を私は取ります。今が例えどんなに辛からうとも。

具体的には、これからカメラマンとして進むにあたり、日本国内だけを相手にするのは、国際分業化時代を迎えようとしている今日、時代遅れになる事が目に見えております。どうしても国際的に活躍しようとするつもりなら、語学に堪能である事が必須です。十ヶ月の旅行で、旅に不自由ない程度の語学力は習得しま

したが（というよりも旅慣れたと言った方が良いでしょう）、世界を相手にする為にはまるで不足です。

取り敢えずの第一目標は英語のマスターにあります。英語なぞ日本で充分習へると言う人がいます。それも一理あります。しかし十ヶ月の外国暮らしで感じた事は、言葉は知識ではなく習慣であり体験であるという事です。語学は日本でどこの国の言葉でも習得できません。でも感情のこもった生きた言葉、役に立つ言葉は、その地に行かねば習得は不可能です。またその地に行ったからとて、努力をせねば不可能です。

それが再渡航したいと思っている直接の理由です。そして今の旅もそうですが、肌で各地の風俗、習慣、人心に触れる事が写真家としての私の、物を見る目を鍛えるには最高の手段であると信じているからです。

この十ヶ月の旅は、私にとってかけがいの無い、多くの素晴らしい物をもたらしてくれました。

この先の旅もまた多くのものをもたらしてくれるでしょう。

昔、父上に三十までは勉強させて欲しいとお願いして、お許しを頂きましたね。今考えると随分甘ったれていたと思いますが、しかしまた、自分で稼ぐ手段を持ちながら、自分の理想のため親の脛をかじるという

事が、こんなにも自分にとって心の負担になるとは、思ってもいませんでした。

ともすればその重みに負けて、自負心に負けて、自分の城を築きたいと思ふ今日この頃ですが、明日のより巨大なよりしつかりした城を築く為なのだ、自分に言い聞かせております。

結局はそれが親孝行に繋がると信じて。

そして、誠に誠に素晴らしき両親の元に生まれ育つた事を節子ならずとも感謝している毎日です。どうぞ再渡航の件、快くお許し下さることを願っています。

矢口の両親には手紙出しておきました。どのような挨拶をすべきなのか若輩の私には、分かりかねました。が。心からの御礼と感謝、そして節子を幸せにしますとの言葉を書き送りました。それと来年、節子を連れての再渡航をお許し下さる様お願いしておきました。拙い文章ですが、私の心をお酌み取りいただければ幸いですと思っております。 仲人について、

この上、早崎師匠には思っております。兄姉上にやって頂けるだけでも光栄と存じております。師匠には式に列席して頂ければそれで充分です。

遅くとも来年二月末には帰国する予定であります。

この十ヶ月はあつという間に、それこそ夢のごとく過ぎてしまいました。後、半年もすぐに過ぎ去ってゆく事でしょう。

〈月日は百代の過客にして 行き交う年もまた旅人なり〉とは芭蕉の奥の細道の冒頭ですが、まさしく悠久の年月の流れの中に置いてみれば、我が旅もまた我が人生も、束の間の夢の如し、流れに浮かぶ、泡沫の如きものです。焦りもせず、怠惰にも流れず、自然のままに、悠然と日々を送れたらと思います。

〈念佛者は無碍の一道なり〉

どうぞ父上、母上様ご心配無く。安んじて我が道、行く末をお見守り下さい。

いつもながら節子にも温かき御心遣ひ、有難う御座います。

父上が、母上が、兄姉が節子を気に入ってくれ、褒めて下さる事が、我が身を褒められる以上に嬉しく楽しく思われます。愛とはその様なものでしょうか。どうぞ宜しく御願い致します。節子も私のおらぬ事ゆへ寂しく思っておる事でしょうか。

いつも近頃の便りは最後でのろけてしまう様です。

もう少し引き締めねば、どこかで蹴躓くかもしれませぬ。緊張！

合掌

八月二十二日 アデイスアベバにて

御両親様

廣行拝

八月二十六日アデイスアベバにて8

昨夜、日本青年海外協力隊隊員、清水某氏より「般若心経・金剛般若経」中村元・紀野一義訳注、岩波文庫版を借り受けた。

その前夜、実は大使館で読みし新聞に、松原泰道著「般若心経入門」の広告載りしおれば読みたく思ひ、節子にナイロビへ送ってくれる様頼みしばかりなり。

我未だ般若心経のなんたるかを知らぬ身にしてあれば、注文せし書の前に、サンスクリット語の原文とその日本語訳、漢文と書き下ろし文、それと解説とがつきし書に接する事ができるとは願つてもなきことなり。しかも我にその書を貸し与えし清水氏、未だ一度も目を通さざるとの事にして、すぐる三年も昔買ひ求めしが、難しければ読まず、外国に独りおれば読み味わう気持ちにならんとて持参せしものなり。

我今、日本の書に飢えておれば。彼に書を借りんと思ひしが、始めは荷風のあめりか物語、次が北杜夫のドクトルマンボウ昆虫記、ヘルマンヘッセの内面への道（シッダルタ）。そしてついに貸し与える書に困り

て、仏教の本でよければとて、申し訳なさそうに貸してくれたものなり。

彼もさしたる仏教者に在らず。ただ何年か前インド方面を旅せし経験の持ち主にて、経典にも何となく興味を起こして買ひ求めたるらん。なんたる偶然、なんたる奇縁！ 国にも一人、郡にも一人と言わるる信仰者に会うよりも、このアフリカの片隅エチオピアにて、探し求めたるにも在らず、偶然私の願ひし経典に巡り会うとは！ つくづく私の仏縁深きを今更に感ぜし今この時なり。

また以前借りしヘッセの内面への道（シッダルタ）も一人でインド哲学研究者、詩人にして求道者、ヘッセ自身の求道体験を、釈尊の出家以前の名を借りたシッダルタと言ふ、一バラモンの青年の求道の姿を通じて、彼が沙門として修行、そして釈尊に会い彼の親友達は帰依するが、彼は感ずるところありて、バラモンとしての地位、沙門としての修行を全て捨て商人として、一般人の全ての悪徳を遊び、そして遂に又その全てを捨てて、川の渡し守として悟りを開くと言ふ筋の中に、言葉はあくまでも思想、觀念にすぎず、知識は師より伝えられる事ができても、知恵を受け取る事は出来ぬ、知恵は只在るが儘に世の中を視、全てを愛

し、抵抗を放棄する事、在るが儘に世界に帰属し一体化する処にあると述べさせています。

〈あらゆる罪は既にその中に慈悲を持っている。あらゆる幼児は既に老人を自らの中に持ち、いかなる乳飲兒もその死を自らの中に持っている。死のうとするものは皆永遠の生を自らの中に持っている。いかなる人間にも他人がどこまで進んでいるかを見る事は不可能である。強盗や博打打ちの中にも仏陀は宿っており、バラモンの中に盗人が待っている。それ故、存在するものは全て私には良いと見える。死は生と罪は聖と賢は愚と見える。一切は只私の賛意、私の好意、愛のこもった同意を必要とするだけだ。そうすれば一切は私達とって良くなり、私達を損なう事は決してあり得ない〉とあります。般若心経の教えにもへこうして遂に老も死も無く、老と死が無くなる事も無いと云うに至るのである。苦しみも苦しみの原因も、苦しみを制する事も苦しみを制する道も無い。知る事も無く、得る事も無い。それ故に得ることが無いから諸処の求道者の智慧の完成に安んじて、人は心を覆われること無く住している。心を覆うものが無いから、恐れが無く、顛倒した心を遠く離れて永遠の平安に入っている

のである〉と、例の色即是空。空即是色。の後ろに述べられています。

ヘッセが書いた小説「内面への道」がバラモンの思想をもとに、仏教の特に般若経の影響を大いに受けている様に思われるのは、私の独り合点でしょうか。

ヘッセにしろ経典にしろ、一つの繋がりが続くことに、偶然とも思へぬ不思議さ、有り難さを感じて、感激しております。

両書とも内容の深い、味わいのある書でした。ナイロビで「般若心経入門」と言う本を読むのが楽しみであります。広告には万人必読の書とありました。一般向きに書かれているのでしょうか。この世においては物質的現象には実体がないのであり、実体が無いからこそ物質的現象でありうるのである。と言う空の思想、そしてその裏腹に、大いなる万物への愛を内包した般若心経を、どの様に現代人必読として料理し、解釈しているのでしょうか。確かに益々読んでみたく、興味を唆る書です。

般若心経そのものは、一つの思想として理解できませんが、それほど現実的、実感的ではありません。少なくとも歎異抄や御文章の様に身近でも、生々しくもありませんから。それをどの様に現実的なものとして

現代に当てはめようとしているのか、今の私には想像もつきません。読んでがっかりしない本であることを願っております。

近日中にエチオピアを出て、ケニヤに向かいます。毎日毎日の雨降り、乾燥しきった砂漠の国から飛んできた時は、恵の湿りと思われましたが、そろそろうんざりしてきました。明るい熱帯の太陽の輝きに憧れ始めています。ケニヤはエチオピアよりは近代国家です。住み心地も良い事でしょう。

御両親様

敬具

八月二十四日 アデイスアベバにて

廣行拝

八月二十九日 ナイロビにて 1

母上様、ケニヤの首府ナイロビにて八月二十三日付の御便り拝受、御両親様始め兄弟全員の祝福を受け、最高の幸福感を味わっております。いつも私の身の上下御案じ下され、有り難くお蔭様にて、危険な目にも会わず、いたってのんびりとした旅行を続けています。

アデイスアベバからナイロビへは是非、陸路を通りたかったのですが、ある意味で道中が危険なこと、そして査証の期間が途中で切れてしまう事もあり、取り止めて、始めの予定通り飛行機にしました。陸路では

四泊五日の場合によっては十日以上かかる距離が、僅か一時間四十分の空の旅。ところが癩なことに、空港の積荷作業員の仕業と思われませんが、リュックの横ポケットに入れておいた、料理用の狩猟ナイフとスイスアーミーナイフ（多機能タイプ）を抜かれてしまいました。他にも盗られているのかもしれませんが、今の所何かは判明していません。

エチオピアは貧乏ではありませんが誇り高き民族、まさか空港係員が荷抜きをするとは思っていなかった私が迂闊でした。この旅に出て六回目の盗難事件です。

私は知りませんが日本の空港でも悪い奴がいて、外人を困らせているのかも知れません。旅行者にとつてそんな事があると、一辺にその国の印象が悪くなりますから注意したいですね。エチオピアの空港は、旅行者の保安チェックは極めて厳しいのに、自国の作業員に悪人をはべらせておくと云うのは、何ともはや！

尤もインドなどでは税関の職員でさえも信用できないようですが、郵便局等で金を渡して手紙を預けると、切手を貼らずに手紙を捨てて、現金は着服してしまふので、必ず切手を貼ってポストに入れないと届かないと言う話があります。信じ難いですが、そんな国もあるのです。今日は愚痴になってしまいました。

でも、アフリカは楽しいところです。母上を笑うどころか、私も未開の熱帯アフリカのイメージを持っていたのですが、一部を除いては日本より余程、気候的には（特に夏の）良い条件です。ナイロビも高原で涼しく快適です。街並みもヨーロッパ的です。黒人が多勢であることを除けばアフリカとは思えない位です。また使います。

草々

八月二十九日 ナイロビにて

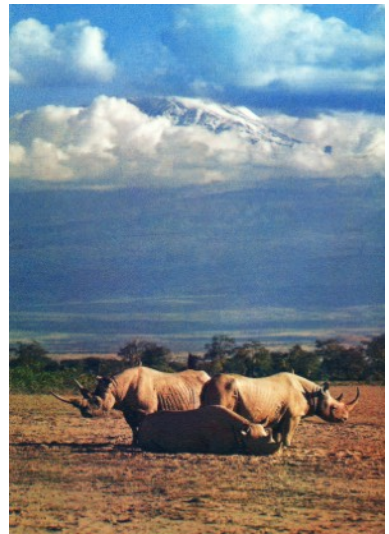
廣行拝

九月十三日ナイロビにて 2 絵葉書

九月十二日ラム島よりナイロビに帰着。八泊九日の楽しい休日でした。ほとんどアラビア人が住むアラビア風の可愛い島で、住民が北アフリカのアラブ人と同種とは信じられないほどの人の良さで、治安も良く身も心もノンビリしました。ナイロビのユースで日本人に会い、一緒にここまで来て同じホテルに滞在中です。五人もいますので楽しく、手紙書く時間も無く、無沙汰が続いています。また独りになりましたら書きますのでそれまでご容赦下さい。

廣行拝

九月十三日 ナイロビにて



絵葉書の表面。ナイロビの自然公園で監視員の警護のもと、雪を頂くキリマンジャロ山の遠望

九月二十日 ナイロビにて 3

父上様、御願いの便りです。まずは用件を

日本を出る時、A・I・Uと言うアメリカの保険会社の海外疾病傷害保険というのに入ってきたのですが、十月十九日で丁度二年になり期限が切れます。

幸いに使用する機会なくて済み、お蔭様ですが、やはり持っているとかと心丈夫なので更新したいのです。

今年の十月十九日午前十一時から有効になるという形で、六ヶ月間の海外疾病傷害保険証を作り送っていただければ幸いです。

障害基本金額 三百六十万円

思います。

ザンビアの日本大使館宛郵便で御願いたします。

宛名：MR.HIROYUKI HAYAKAWA (早川廣行殿)

% EMBASSY OF JAPAN

P.O.BOX.3390 LUSAKA ZAMBIA

十月十五日頃迄に御願いたします。早い分には構いま

せん。A・I・Uの電話は83-1121です。

よろしく御願致します。

ご両親様、このところ、アフリカでは少し問題が起きました。ウガンダとタンザニアで小競り合いをしています。当初の予定ではウガンダからタンザニアに行くつもりだったのですが、君子危うきに近寄らず、でウガンダは避けて、ケニヤから直接タンザニアに入ります。そのため予定が繰り上がったのですが、ウガンダの代わりに、コンゴへ回ってみようと思っっています。ザンビアの日本大使館宛の便りは、前回の手紙では十月二十八日頃まで受け取れると書きましたが、そんな訳で十月二十日頃迄でザンビアを出ることになりそうです。その代わりにコンゴのキンシャサの日本大使館で、十月二十八日頃迄、受け取れることになりそうです。住所は今わかりませんので、また連絡いたします。

先日まで日本人四人と一緒に暮らしていましたが、久しぶりの日本語で冗談の言へる楽しさ、トランプゲームなどする楽しさに、うかうかと日を過ごし、別れの日は来たりて夫々目指す道へと袂を分かった後に来た虚しさ、それは何だったのでしょうか。

寂しさでは無い。既に十ヶ月の一人旅、寂しさなどとうに通り越しました。いやむしろ一人で旅を続け、自分との対話を続けることによって、内なる自己を見つめ直すまと無い機会が有り、独りでいることは常に発見と収穫の日々なのですから、私にとって大きな喜びです。毎日自分と真剣な対話をし、また便りを書く、そんな日々慣れ親しみ、本当の喜びを感じていた自分が、他人の心の動きに合わせ、つまらぬ冗談に笑い、暫しの間自分を見失っていたことへの、一抹の後悔の念かもしれませぬ。ともかく旅は独りに限る。気障な事を言わずとも、一人旅には多くの収穫が約束されている。何よりも、深く己の心の深淵を覗き見ることが出来るのが、一番の収穫です。

それに素直になれる。物事全てがあるがままに認め愛する事が出来るようになる。愛する者、愛する人々と離れていても、これほど心が近ずいたことはいまだかつて無い。父上を、母上を、兄を、姉を、そして節

子を、これ程に愛したことは未だかつて無い。これ程懐かしく、愛おしく、思い起こす事はまこと、未だ経験せざる事なり。内なる自己、自らの佛性に気付かせて貰ったのもこの旅に出たが故。

これ程、佛と一体であると感じたことは無い。旅に出て何の知識を得ることが無くとも、自分を知った。自分の内なる自己に気付かせてもらった事は、何事にも代え難い。

今、私はあるがままにまこと幸福です。全てに感謝したい気持ちでいっばいです。よしんば何事が起こりて、このまま異国に果てるとも、素直に受け入れる事が出来そうな心境です。

物事に執着する心が大分薄れました。相変わらず煩悩だけは盛んですが！ それも素直に認めてやりたいと思います。

青年 独り旅立ちて 成年となる

年成りても 未だ心成らざるは 寂し

年知らざるも 我が内なる佛に 氣づく

いと有難き ことなり

我ひとり 砂漠を行くも 安らけく

同行二人 内なる佛と

我彼と 何故に目くじら たてなざる

我も他人なり 他人も我なり

ひと ひと

母を思ふ ただ有難く 有難く

神とも思へ 佛とも思へ

近頃作りし貧しきわが歌を記してみました

心に浮かんだままに綴ってみたので、技巧も

何もあつたものでは無く、恥ずかしい次第ですが。

前のへんな詞みたようなのは、今の私の心境です。

母上様、父上様へ

敬具

九月二十日午後十時ナイロビにて

廣行拝

九月二十一日 ナクルーにて

昨日昼過ぎよりナイロビ郊外の道路にて、ヒッチハイク（他人の車を止めて同乗させてもらう行為）、金のない若者の多くはこの手段によって旅行する。公共交通機関の乏しいアフリカでは唯一の交通手段である

場合が少なくない。運送トラックなどが金を取って乗せる場合もある。他人の善意を当てにする事の嫌いな私は、あまり好まぬ旅行方法だが、乗せてくれる奇特な人物の車が通るまで、時によれば一日以上も待たねばならぬ事を除けば、混雑して鈍く自由にならぬ公共機関を使うより、はるかに楽しいことが多い。何よりも無料であるのが最大の魅力。ただし危険との隣合わせであることを考慮する必要がある。一時間ほど待つて、親切なる黒人二人連れの旅行者、我を拾いて道々名所の説明などしてくれ、ナクルーなるわが目的地、汽車にては四時間かかる道のりを二時間半にて、道中楽しく届けてくれたり。

ナクルーなるこの地は、世に名高きアフリカの大地溝帯（グランドリフトバレー）の上に在る街にて、わがアフリカの観光目的の一つなり。

地溝帯とは山々の隙間を谷と言うのだが、平地に谷が在り峡谷状になりしを言う。その中でもこの地溝帯は大の形容詞がつく様に、世界最大級で、北は、紅海に至り、エチオピアを通り、ケニア、タンザニア、を抜けてザンビアに至ると言う誠に雄大なものなり。我は既にエチオピアにて、この大地溝帯の端をば見ており

しが、ケニヤにおきては、はるかに幅広く在りて雄大なり。

ナクルー街より徒歩一時間の地溝帯中に、フラミンゴの大集落地として有名なレイクナクルーが在りて、そを見んとて今朝のんびりと歩いて行きしが、これはナシヨナルパークにして動物のおれば、徒歩にての入场は禁止なり。どうしたものと入場口にて思案せしに、折良くナイロビより中学生の一団が、先生に引率され小型バスで来合わせたり。ゲームワードン（警備員）の口利きにて同乗させてもらい、見物を果たせたり。信じられぬほどのフラミンゴの大集団が、ピンクの縞模様を湖水に作り、隙間をペリカン、鶴、鶉、名も知らぬ水鳥などが行き交い、素晴らしき景観なり。その鳴き声も面白く、トムソンガゼル、インパラ、モンキーなど数多の草食獣も背景に点々と存在し、雰囲気はいやが応にも盛り上たり。その糞による悪臭が甚だしく、実感の盛り上げ効果大だが、長くは居られぬ。

その折読みし歌一種

湖水だに 見えぬほどまで 集いたる

あの鳥の群れ フラミンゴとは

蓮池の睡蓮の葉浮かべるが如く、湖水にフラミンゴの浮かべる、そがナクルー湖なり。さすがアフリカと只々驚くのみ！明日は朝の汽車にて世界第二、アフリカ第一の湖、レイク・ヴィクトリアの港町キスムへと向かうつもりなり。

近頃作りし歌の一部 書き置くものなり

ツサヴォ自然公園をトラックで通りし時に詠める歌

童だに 一人荒野に 牛を追う

獣も人も 共に生きるや

セレンゲッティなるマサイ族の住みし自然公園にて

マサイは未だ文明化を拒否せし勇猛果敢な遊牧民

マサイなる やり持つおのこ 乗りきたる

バスも通いし 草原の路

安宿に 一人過ごせし 夜半の月

我が身を照らす 泣けとばかりに

何となく 思いださるる その人の

影しのぶにも 故郷遠し

時雨にも もののあわれを 感ずるは

独り旅なる 侘しさならん

人ひとり 親しむころ しろしめす

旅の情けか 涙こぼるる

ユースホステルなる若者宿にて、幾ばくかの物品盗

まれし時

物取りの 心哀れに 思わるる

怒りわかぬも 御陰様なり

盗られたり、壊れたり、失くしたりして、最早日本を出て以来共に旅続けたりは、ただ左腕にはめたる時計のみ、と気づきし時の気持ちにて読みし歌

機械とも思えぬ 親しみおぼゆなり

日頃慣れたる 腕にし時計

今日もまた 続ける旅に 期待して

得るに得られぬ 安けき心

虚しさの 涯なむ土地よ いづくにか
訪るべきは 心のうちに

されど我が 旅路の涯に 何求む

往き着く先は 彼の岸なるを

自らに 時きし種をば 刈り取るが

いやが応にも 今の我なり

己がじし 心のうちに 分け入りし

旅の祥なり この日の喜び

前便にも記しましたが、松原泰道師の「般若心経入門」ベストセラーとのことですが、所謂ベストセラーに珍しく内容のある素晴らしい書物でした。

エチオピアにて読みし「般若心経」(岩波版、松原師がテキストにしている本です)の、我が読みの浅さが恥ずかしくなるほどの解説です。

広告に二百七十六文字が語る人生の知恵、現代人必読の書! などあったので、実は少し馬鹿にしていたのですが(何故なら現代人必読! などと広告で言っ

も本当に必読だった試しがないから。良い書物は派手な広告等しないものです。だから売れないんだけど!)

そんな気持ちは読み進むにつれて、綺麗さっぱり消し飛んでしまいました。文字通り現代人必読の書! です。

この書を読んで、本田顕彰氏の「歎異抄入門」を読めば、どんなに頭コチコチの全字連でも赤軍派でも無神論者でも、心が和やかになるのではないかしらん。

そもそもその人が海外独り旅の「たびびと」だったら、一遍に仏教徒になつてしまふでしょう。草原の燃える夕陽の下で、暑い夏の陽が照りつける砂漠のオアシスの椰子の木陰で、バオバブの巨木の下で、寄せては返す白い砂浜で、またたく薄暗いランプの灯火の下で。遠く近く聞こえる現地人たちの踊りのドラムのリズムを耳にしながら、「歎異抄入門」と「般若心経入門」の二冊の書を、道を求めながら求められぬ全ての人々に読ませてあげたい。ヘルマンヘッセの「シツダルタ・内面への道」という書も二冊の理解を助くるに力があるでしょう。現代人にとっては。

本当に本当に御蔭様と感謝しているのですが、私はこの旅に出させて頂いた御蔭で、日本にいたら一生気

付かなかつたであらう大切な事柄に、気付かせて頂きました。これ以上の旅の収穫が他にあるうかと思へます。

自分の心を深く深く、未だかつてない程深く見つめるチャンスがあつた。何にも煩わされる事なく。

日本にいたら、例え山に籠つたとしても、これほど独りきりで自分自身を見つめることは出来なかつたでしょう。

本好きの私にとって何よりも嬉しかつたのは、久しぶりに読む書物が全て、私の心に染み入ることです。大袈裟に言えば、目で読むのではなく心で読める、とても言へましようか。これほど書物を紐解くことが、嬉しく感じられた事は、これほど作者の心に接するが如き読み方が出来た事は、二十四年間の読書生活を通じて始めての経験です。書かれし活字を通して作者の心を読むことができたのは、そう感じられたのは始めてのことです。

そしてそこに歎異抄が有つた。般若心経が有つた。なんたる仏縁！これ以上の不思議、これ以上の有難さがあるうか。

たとい自らの計らいにて切ろうとて、我が佛縁の切れまじき事つくづくと感じます。

仏教に縁のない国に来たら、そのままに浅かりし佛縁なれば切れても不思議はありません。私に於いては自然のままに、益々佛と縁深く結すばるとは、何たる有難さ、驚き喜ばずにはいられません。

旅に出てお前は何を知つたのだ。

何も知りはしない。何一つ知りはしなかつた。

何一つやりはしなかつた。

でも馬鹿になる事が出来た。

佛と近くなつた。幸せになつた。

こころを観た。

他に私は何を知つたら良いのだい。

何も有りはしない。何一つ有りはしない。

何一つする事は無い。

全てをあるがままに愛するところ。

感謝の心。喜ぶ心。

自然のままに。

いくら書いても、どんな形式でも、残念ながら、私の喜びは、気持ちには、心は、感謝は、伝えられない。

書けば書くほど、お思いを離れて空しくなるばかりです。筆の拙さを嘆きながら、この辺にて筆を置きます。私の気持ちは先に挙げた最後の一首にあります。

己がじし、心のうちに 分け入りし

旅の幸なり この日の喜び

が、最もよく表現しているような気がします。

己自身の心の中に分け入る旅の御蔭様で、今日の安心、喜びがある、というつもりなんです。己がじしとは、そんな使い方の良いのかしら。私の歌は全然言葉を選んだり推敲したりせず、心に浮かんだまま素直に書き留めているだけなので、他人が読むとまるでトンチンカンなことを言っている時があるかもしれない。そんな時は無教養をお笑い下されてご容赦。

自分で読み返しても、ママで素直で、何の工夫もなく面白味に欠けるけど、それが私の性格なのでしょうね。

節子もご両親様と会うのが楽しみらしく、喜ばしい限り。近頃では十年も前からの妻を日本にしているような気さへします。

ご両親様へ

敬具

九月二十一日午後十時 ナクルーにて 廣行拝

九月二十八日ムソマタンザニアにて

ご両親様、三日過ぎてから二十七歳の誕生日が三日前だったことに気が付きました。ことあらためて二十七歳を迎えた感慨も有りませぬが、今まで通り一日一日生かされている幸せを感じつつ、感謝の心を持って励みたいと思います。

きすべき事があるとすれば、この年からは一人にあらずして妻がいるという事でしょう。

二十七歳にして妻を娶る。平均結婚年齢に近いし、やはり自然のままに、自然に逆らう事をしなければ成るようになる。自分独り如何にあがこうとも逆らおうとも、大いなる御手の前には無力であることを知り今まで以上に、生かされていることの喜びを感じます。

本当に三十歳までは結婚しないなんて、一人で頑張っていた自分ですが、・・・親様にはただ感謝、感謝です。

近頃作りし歌です。

我が身なる 心の内に おわします

佛の眼にて ものおば見ばや

弥陀頼む 心の弱さ そのままに

般若の智慧に 生かさるるかな

親様の お蔭様にて 生かさるる

摩訶不思議なる 逢瀬の縁

振り返り 心の内を 振り返り

その愚かさに 呆れ果てたり

愚かさが 弥陀の救いの 種ならば

光に会いて 芽生ゆを待たん

なんとまあ 菩薩なりけり 吾と君

求むる心 忘れざりせば

今日来たる 君が便りの 中にさへ

書かざる経の 満ち溢れたる

いにしへの 唐の昔の 人でさえ

おのれを忘る 浮世のまにまに

ひまありて 独りおのれと 対話する

そが何よりも 充てる時なり

異国にて 手にするふみの 嬉しさよ

我と故郷とを つなぐ架け橋

旅に出て 何より嬉しき ことひとつ

ひもどく書物の 心に染み入る

ムソマの街に着いた早々、ポリスだと自称する私服の酔っ払いに絡まれ、私の泊まったホテルの親父と何事か、一時間近くに渡って話し込み、パスポートを見せるのどうのと言った挙句、明朝警察署に出頭せよと言いつつ残してやっと去った。私の方はスワヒリ語でやられるので何が何やらさっぱりわからず、翌朝、小僧に起こされ警察に行ったら、何のことも無い。事情を聞いた警官は、そいつは本当に警官だったのかなどと言いだす始末。私に問題のある筈もなくすぐ解放されたのですが、その後、街でポリスの制服を着た昨夜の酔っ払いポリスにバッタリ出会い、彼は昨夜のことなどケロリと忘れた風で、今日は元気ですか、等と言って握手を求めてきたのにはさらにビックリ。

私の想像するに、夜中に酒を飲んでフラついていたら、外人がウロウロしているので（タクシイに乗っていましたが、宿が満員で運転手が他を探してくれていたのです）、職権をかさにきて威張ってみたかたのでしょう。酔いが冷めたらケロリと忘れ、大体自分の職域でも無いパスポートチェックなどしたことも無いので報告しないでいたのでしょうか。

外人に対して好奇心を抱くのは田舎の人間の常ですが、悪意的な態度を取るのは下っ端の警察官などにも多いです。特に後進国の役人の態度の悪さ、程度の低さは想像以上です。

日本も役人天国と言われるようでは後進国と言われるでも仕方ありませんね。特に出先大使館の下っ端書記官クラスの態度の悪さ、冷たさは色々と悪評を聞きます。大使クラスの人になると、流石に人間が出来ている人が多く、我々貧乏旅行者に対しても丁寧で親切です。話が逸れました。そんな感情の時に詠んだものなのですが、その時の気持ちが出ていますでしょうか。

他の歌も夫々事件や、思った事があるのですが省略
昨夜でやっとケニアを出国、タンザニアに来ました。明朝、キリマンジャロ山の登山基地モシへ向かって旅立ちます。

多分手紙の来ているであろうダルエスサラムへは少し遅れて、九日頃になりそうです。やはり遅れ遅れているのは船の事情などで、予定はまさしく未定にして決定にあらずです。

ザンビアのルサカには十月十九日頃に成りそうです。また便りします。

九月二十八日 ムソマにて

廣行拝

敬具

十月八日 モシにて

ご両親様、アフリカ最高峰五千八百九十メートルのキリマンジャロ登頂に成功して（大袈裟）、麓の街モシへ戻ってきました。

今日は疲れきってしまったのでモシに二泊、明後日午後の便でダルエスサラムに行くつもりです。

山登りしながら詠みし歌

山路に あゆみ疲れて 足を停む

鳥のさえずり にわかに強く

登るたび 二度と来まいと 思う山

いままたたどる 山頂への路

(山登りは疲れるから好きでは無いのです。山は登るものでは無くて見るものだと思う)

山小屋に 宿りし夜の 長かりき

陽の落ちたれば することもなく

人が皆 眠りに就きし 夜半の宿

独り眠れず 故郷を思ふ

雨降りの お蔭様にて 今日の路

思いもかけず はかどりたるとは

ただ独り キリマンジャロの 草原に

ひねもす遊ぶ 陽を浴びながら

アフリカに 万年氷の 美しさ

キリマンジャロの 頂に立てり

山路の 行く手に虹の かかりたる

我さしまねく 早く来いよと

宵闇の 迫るにつれて 我が歩み

速くなるなり 疲れも忘れ

後になり 先になりして ひらひらと

蝶のみち連れ 麓への路

今迄に詠んだ歌がアデイスアベバでの始めての歌

新しき 花を抱きて 我行かん

妻の決まりし このときからは

以来、六十三首になりました。遠からず百首になると思しますので、あらためてまとめて母上に献上しようと思つています。

キリマンジャロ登山に関連した別エピソードですがナイロビのユースホステルで会い、その後ナイロビにいる間、我々の部屋に時々遊びに来ていた山屋さん(山登り専門の人)にモシの街からキリマンジャロの登り口、マラングへ向かうバスの中でバツタリ出逢い、ちよつどお互いにこれから登山するところだったので、一緒に登ろうという事になり同行しました。山屋さんのペースにはとても着いて行けないので山小屋で一緒になったのと、最後の頂上へのアタックを同行

ただけですが。山に登っている間にすっかり親しくなり、彼等（二人いたのです）の一人は、大阪の大学の先生でアフリカ文学の研究でアフリカに來ている人、もう一人は会社員を辞めて山登りをしにヨーロッパに出てきた純粋な山男。

二人で山を降りてからじっくり話し合おうと言っていたのですが、先生はそれほど話すこともない内にナイロビに呼び戻され、一人残った山男氏と一晚語り明かしたのですが、楽しい経験となりました。先生とは日本へ戻ったら、皆でアフリカの本を書こうなどと約束しましたがどうなりますか。

やはり二十八歳にもなつて仕事を棒に振つて山を登らんとする山男ともなると、それだけに純粋で、道を求める気持ちが強いらしく、無神論者だと言つてましたが、問はず語りをする私の仏教についての細やかな話が、彼にとつてはいたく共感、感銘を受けたらしくしきりにうなづいておりましたが、日本に帰つたら仏教について研究してみたいと言つておりました。もしこれが縁で彼が道を求める心を起こしてくれたら私にとつてもこんなに嬉しいことはありません。

彼曰く「早川さんに会つて仏教に対して抱いていたイメージが全く変わった」とのことでした。

それにつけても思われるのですが、若くして海外貧乏旅行しているような人々、特にアフリカ辺りをうろついている人々の中には、なんとか人間らしくありたい。人間らしく生きるとはどういう事なのか、富でも栄誉でも快樂でもなく、真の人間らしい生活、心の安らぎを得たいと願っている人がとても多い事です。

悩み、求め、そして自ら何らかの解決をしていく事になるのですが、願わくば彼らの全てが如何なる方法にせよ、心の安らぎを得られんことを。

私が仏教によつて、真宗によつて、何がしかの心の安定を得ることができたと思つているにせよ、それが全ての人にとってベストな道であるとは思えませんので、あまり仏教の話など彼らとする事もありませんがたまさか言葉の端々に出てくる、そうした傾向によつて、興味を持って追求してきてくれる人が、数少ないもののいらつしやいます。

というより、私自身、仏教を他人に説明できるほど知つているわけではありませんので、他人に仏教の解説をしよう等しようと思つた事も、した事も有りませんが、たまたま、モロッコの酒井さんと今度の山男の土居さんは、四方山話の中から仏教について私から引

き出していた人達で、そして興味を持ってくれたのです。これも御縁と思っています。

よしんば彼らの仏教に対する興味が、興味だけで終わってしまったも、念仏者として人生に対してこう対処して行きたいと願っていた、一人の男が居たなと言うことを、時々でも思い出してくれれば幸いだと思っています。仏教というものが世間の人々が思っている様な、死後のことと、ご利益願いの現実離れたものでは無く、真面目にひたむきに、精一杯生きよう、生かされようとする心を開發する教えなのだと言うことを認識してくれたら、それだけで良いと思います。

次はダルエスラムにて、受け取った日本からのお便りの返事を出すつもりです。

御機嫌よう！

敬具

十月八日午後八時 モシのYMCAにて 廣行拝

十月十日 ダルエスラムにて

母上様、九月十四日付けの便り、十月十日タンザニアの最大都市（首府では無い）ダルエスラムにて拝受。有難う御座います。

節子からの便りで指輪を買って頂いた事を知りました。大変喜んでおりました。どうも有難う御座います。婚約指輪の一つも買ってやれぬ立場ゆえ悪く思ふなよと、先日書き送ったばかりでした。

節子からも、トルコから春に送った安い銀のバズルリングを婚約指輪の代わりと思っっていますから、心配無くとの返事でしたが、まるで私の心を御両親様に見透かされた様で、頭が下がります。

その後、腰の方は順調のようでは何よりです。私も旅に出てつくづく健康の重要さを、そしてそれ以上に心の健康の大切さを痛感しました。

母上様にはたとえ腰を痛めようとも、安んじてそれを受け入れ感謝しつつ生活する、健康な、安らかな、広い心をお持ちですから、たとへ病気になるれても私はさほど心配はしておりません。

父上様には少しく健康を害されておられるとの事、案じております。どうぞ御大切にござ養生ください。然れども、父上様におかれましても安んじて病を楽しむ境地におられる事と存じます。痛き時、熱がある時には、唸り、うなされ、気分良き時は、生かされる喜びを噛み締めつつ、病境をお楽しみ下されたく。

六十五歳は老人と呼ぶには早過ぎます。まさしく成年（熟年かな？）と呼ぶべきでしょう。先日、キリマシジャロ山（五千八百九十メートル）登頂下山の途中、これから登るのだという八十歳のドイツ成年に出逢いました。我々青二才連中にもかなりきつい山ですので、立派なものです。たとへ頂上につけなかったとしても。

父上様も自ら御感じの事と存じますが、これからが人生花開く季節、齢なりて、真の人として充実した日々を過ぎつつある事と存じます。

母上様。御茶を有難う御座います。節子と母上、二人の心のこもった御茶ゆへ更に美味しく感じられ、毎日嬉しく有難く味わっております。ティバッグ式の方が簡単で良かったのでは？との事ですが、私にとつては缶入りの御茶の方が余程嬉しいです。山本山のティバッグがアフリカのナイロビでは入手できませんし、時々日本から来たばかりの旅行者が持っていて、ご馳走になります。ちっとも美味しくありません。茶漉しを持っておりまして、私流の煎茶ティーブルだてを毎朝楽しんでおり。香り高い御茶の味わいに幸福を感じております。

母上様、秋の十和田湖の紅葉は如何でしたか。奥入瀬の川筋が美しかった事と想われます。薦温泉には泊まりましたか。檜の湯船に透き通った単純泉の適温湯が、豊富に溢れる薦温泉、薦七沼巡りの散歩道も楽しく、明治の文人、大町桂月の愛した十和田の風光は、命の洗濯になったことで御座いましょう。

動物狩りのサファリ（旅行）は中止いたしました。何故なら移動の途中で多くの動物たちを見る事が出来ましたから。道路で目の前を横切る像の隊列や、縞馬、麒麟、鹿、水牛、マントヒヒなど田舎へ行くと幾らでも観られるのです。私のように長期田舎旅行をするものは、アフリカでの観光バスツアーは不要です。

飛行機での短期旅行者のための観光ツアーだという事が分かりましたので。また便りします。ルサカ以降の予定は節子の方に連絡して置きます（詳しい住所が手元ではわからないので、彼女に調べてもらっていますので）

十月十日ダルエスサラムにて

敬具
廣行拝

十月十四日ムベヤにて

御両親様、昨日の朝八時半にダレサラムからバスに乗ってタンザニア内陸部ムベヤに着いたのが今日の六時。約二十二時間のバスの旅。今、朝食を摂りつつ手紙を書いています。この後、午前十時発のバスでトンドウマという、ザンビアとの国境の町へ向かうつもりです。今日は土曜日、あまり週末に国境を越えるのは感心しないのですが、仕方ありません（通貨のチェンジや宿や交通機関の手配など、休みのサービスクが多彩々と不便なのです）。最初の予定ではタンガニカ湖を四日間の船旅でザンビアへ入るつもりだったのですが、ケニヤで聞いた十月十二日タンザニア発というのは、大間違い、十月三日にすでに立った後で、しかも去年は月二回運行していたのに、今年は月一回という事で次の便は来月まで無し。とても待つていられないので、陸路来てしまったのです。ビクトリア湖の旅にしる、アフリカの船旅はついていないことが多い様です。コンゴ（ザイル）でまた八日間の船旅を計画していますが、うまくいきます様に！

近作の歌です

誰も皆 おのれ可愛が 先に立つ

無私の心の 何と尊き

わが胸の 痛みを人よ こと問わば

知りつつ出来ぬ 弱さなりけり

出逢いとは まさに不思議の 一語にて

我良き人に 常にめぐまる

生かさるる おのれを知りし 今すでに

まさされる旅の 糧他にありや

何よりも 優れし獲物 狩たれば

続くるサファリ おまけの旅と

故障をば するが普通の ことなりき

悪路を飛ばす アフリカのバス

真夜中に 壊れし車の 中で待つ

獣の唸り 間近に聞こへ

わが膝の 痛むにつけて おもわるる

我の上りし 山の高さよ

この度の 便りによりて わが慈父の

健やかならぬ 知るも悲しき

我が妻と 決めしその人 知るにつけ

縁の深さ 不思議とぞ思ふ

起き抜けに 自らたてし 茶の香り

国にの匂ひに 静けき心

折に触れ 無性に故郷へ 戻りたく

飛行機の便 調べたりする

わが旅も 終わるべき日の 見えなれば

心は既に 帰国の道を

そろそろバスが来そうなのでこの辺で筆を置きます

父上様、母上様。御身体 御大切に 敬具

十月十四日午前十時ムベヤにて

廣行拝

十月十八日 リヴィングストーンにて

昨日ザンビアのルサカにてお手紙拝受、有難う御座います。保険証の方はまだ受領していませんが、近日中に届くものと思います。

御気分がすぐれぬ中、早速の手続き本当に有難う御座います。まだまだ老後と呼ぶには程遠い元気盛りの父上の事、風邪くらいで弱ることは無いと思います。確かに風邪は万病の元で御座います。充分にご養生の程を。私の考えでは、風が万病の元であるよりも、種々の原因で体力が衰える事が、風邪をひく原因になるので、風邪を引いたと言ふことは、体が弱っているから注意しろよ、充分な休養を取れよとの注意信号なのだと解釈しています。身体が弱る事には勿論、病気、疲労、などとともに精神的な作用の大なる事は言うまでもありません。父上のおっしゃるごとく、私の結婚の決まった安心感が、父上の身体がすぐれ給わぬ事に繋がりがあある事も、大いに考えられます。でもまだまだ父上に老け込まれては寂しい人々が、私も含めてたくさんいる事をお忘れなく、どうぞ気丈夫にお持ちくだされて、努めてご養生くださる様。

私めが、ご両親様の御蔭で、生かされる喜びを感謝する心境に至ったことは、先便にてお伝えしてありますが、父上様におかれましては、平凡の尊きことを染みじみと御感じとのこと、私も全く同じく実感しております。

節子が父上様と廣行さんは心が繋がってるみたいと言っておりますが、本当にその様で御座います。

私の心境に対して優しき思いやりの御言葉、誠に有難う御座います。御陰様で近頃、無心に自分の心を振り返り、帰国後は平和な家庭を築くこと、仕事に着実に取り組む事が、私に課せられた使命である、自分も他人も、私に関わる全ての人を幸せにする道であることに気付かさせて頂きました。どうぞご安心のほどを。

今、ルサカから五百キロ程南、ローデシアとの国境に掛かる世界最大の滝ヴィクトリアフォールズを見学に来ております。明後日にはルサカに戻り、また便り受け取る事が出来ると思えます。間も無く私のアフリカの旅も終わります。収穫の多かったこの旅も。

また便りします。お身体御大事に

十月十八日 リヴィングストーンにて

敬具

廣行拝

十月十九日ヴィクトリアフォールズにて

母上様、お便り拝受 有難う御座います。御元氣にて何よりです。十和田湖の旅も無事に楽しく終わられた様で何よりでした。

拙い我が歌の御批評有難う御座います。母上様の仰る通り、他人が読みますと意味の分りかねる歌の多いのが、私の愚作の特徴の様です。

でも他人に在らず、母上や父上、節子や我が友にのみ書き送りしものなれば、相手に理解してもらえればそれで良いと私は何の工夫も致しませんでした。

その様な面からいくと完成度の低き歌どもで御座います。私事の私的な歌で御座いますから、私にとってはそれで良いのだとも思っております。

近作

豊かにて 広き心で 世の中を

渡りて行かん 我が名の如く

これなど、ご両親様へ良き名を付けて頂いた感謝の念を込めて詠んでおりますが、他人にとっては意味をなさない駄作で御座いますね。



世界最大の滝、ヴィクトリアフォールズ。乾季なので水が少ない
幅1.7K 落差108メートル

続いて近作です

旅に出て 人間らしき 生活の

如何なるものか 知りたる気せり

今はただ 胸に秘めたる この願ひ

大事に守り 育てるときなり

いつの日か この我が思ひ 花咲て

枝もたわわに 実りの秋と

何事も 思ひわずらふ 事もなく

ただひたすらに 船を待つ今

バス駅に 宿りし二夜 ザンビアの

庶民を知るに 余りありけり

旅先で 慈母に出会ひし 心地せり

真の母と 変わることもなき

ザンビアで 日本の味を 噛みしめる

木村夫人の 心とともに

ルサカの大使館参事官木村さんの奥さんに思いもかけぬ親切を受け、感謝の気持ちを讀みし歌二首です

滝壺に 虹のかがりて 興治える

白き壁なり ヲイクトリアの滝

爆煙が 雲と変わりて 雨となり

我等を濡らす ザンベジの滝

両方とも同じザンベジ川にかかるヲイクトリア滝

あと十首程で百首となります。

ザイル(コンゴ)には政情不安で入国できない可能性が強くなりました。早めにヨーロッパに戻ることに
なりそつです。

敬具

十月十九日 ヲイクトリアフォールズにて 廣行拝

十月二十五日 ルサカにて

ご両親様、その後、保険証の到着をルサカ(ザンビアの首府)にて待っておりましたが、今日、大使館で

節子から十月十一日日本出の書物を受け取り、どう考
えても十月六日前後に出したものが、未だに届いてい
ない筈がない、と言ふ事は途中紛失したのであるうと
の結論に達しました。

こちらの郵便事情は物凄く悪く軒並み遅れていたの
ですが、ちょうど保険証をお送りいただいた頃、当地
の郵便局員十五人が一斉に給料の低さを理由に退職し
たとのこと。その前後の郵便物は目茶目茶で、今お世
話になっている日綿の水取氏の所でも、毎日送ってく
る日本からの新聞の其の頃の方が未着で抜けています

そんな訳で運悪く一番大切な保険証が、其の頃の中
に入り何処か行方不明になったものと想像していま
す。この物価の高いザンビアにこれ以上滞在するの
は、経済的にも、また御世話になっている水取氏への
ご迷惑を考えても出来ませんので、諦めて明日立つ事
にします。

この件に関してどの様に処理すべきか私は知りませ
んが、和光の方へ事情を話せば、再発行は可能と思い
ます。もし可能でしたらロンドンの日本航空支店宛て
送っていただければ幸いです。十一月二十五日頃まで

住所： % JAPAN AIR LINES

8 HANOVER ST., LONDON ENGLAND

その上にお願ひですが、パリの東京銀行宛、電信送金にて千ドル御送金お願ひします。今の所持金は二百六十ドルですが、パリへ戻る頃ちようど無くなるのではと思つています。(パリ到着は十一月十二日頃予定)

ロンドンでも良い様なものの、イギリス入国時の所持金が少ないと入国拒否されるケースが多いと聞きま

すので。
面倒な事、お願ひばかりで本当に申し訳御座いませ

ん。この前ちよつと触れましたが、ザイルのキン

シャサには行けなくなりまして。タンザニアのダル

エスサラームに戻つてヨーロッパへ飛びます。もうすぐ

アフリカ離脱ですが、最後が肝心、気を抜かず急いで

ヨーロッパへ戻る事にします。幸い御陰様で病氣も怪

我もせず、アフリカの旅を無事に済ませそうです。

ザンビアでも参事官御夫妻、商社の方、青年海外協

力隊員の方、皆さんに大変親切にして頂きました。

今まで見ず知らずの人からこんな親切を受けたのは初

めてのことです。

感謝してもあまりあるものがあります。母上を思わ

せる様な木村参事官夫人には、本当に感謝しています

が、お話をしていたおり「私は本当に幸運で、いく

先々でいろいろな方に親切にして頂いて、感謝してお

ります』と申し上げると、「それはあなたの人徳です

よ」と仰つて下さいました。

私などに人徳のある筈もございませんが、兎も角、

今度の旅は本当に良い人達に恵まれました。様々な人

たちと知り合う事が出来ました。これも旅の大きな収

穫だと思ひます。

この先半年間の帰国の旅も、収穫が多い旅であるこ

とを祈つていますが、あまり欲張り過ぎるのは行けま

せんね。既に十二分以上の収穫を得る事の出来たアフ

リカの旅ですもの。

近作です

こぬ便り あてなく待つ身 やるせなき

この地立つ日の 目処もつかねば

我妻の 心こもりし 御守りに

見守られつつ 無事旅つづく

予定せし 彼の地に行けぬ 事情あり

我待つ便り 気にはなれども

何しても 嬉しく楽しく 喜ばし

もの見る視点 正しくあらば

錯覚も 倒覚さへも 偏見も

すべてこれ皆 得意が私

このたびは 我と佛と 許嫁

父母も集いし 団体旅行

今、木村参事官夫人のところに、御別れと御礼の電話を入れたところ、折り返し電話があつて「今晚、水取さんのところに御泊りになるんでしたら、御夕食用にサラダでも召し上げられるよう、野菜を採らせましたから、水取さんに連絡して運転手に取りに来てもらつて下さいな」との事。

ザンビアは農業が未発達な為、生鮮食品の殆どが輸入に頼り品不足の上、ベラボーに高いので、木村さんの御宅では家庭菜園をやっているのです。

私がホテル住まいなら、夕食を食べにいらっしやいというご招待になるのですが、水取さんのところに御世話になっているのを、知っていらっしやるの

で、野菜が無いだろうから、せめてサラダでも食べさせたいと言つ御心。まるで母と変わらぬ御心ですね。

思えば最初、案内所で五月までは大使館で、その後大使館は移転、現在は木村参事官の御宅になっているところを教えてくれたので、大使館のつもりで行つたら、このボロの汚い私をすぐ中へ通してくれ、暑いのに大変ですねーと労いの言葉、そしてコーラのサービース、シャワーも浴びませんかと言われましたが、流石にそこまで甘える訳にもいかず御辞退しました。ここは食事が高いからとカンズメのお弁当四つ、肉のカンズメ二つ、手製のゴマのお菓子、自家製の赤カブ十個と持たせてくれ、自ら車で大使館まで送つて下さつた。時に貧乏旅行者が来るとお金まで与えることもあるとか。

その次はヴィクトリアフォールスから戻つてから、土曜日、大使館がしまつていたので仕方なく、手紙が来ているかどうかどうしても知りたくて、お邪魔したところ、ご主人がご在宅、とても感じの良い方でいろいろと教えて下され、その上、昼食を食べて生きなさいとて、海老や酢だこ、サラダ、味噌汁などザンビアでは取つて置きのご馳走とビールまでサービスして下さいました。丁度、協力隊の隊員が来合せ、商社の日綿の

水取氏の家で皆ですき焼きパーティーをするからいらつしゃいと言つ事で、夕食は水取邸で賑やかに。

泊まっていたらつしゃいと言つお誘いを、ホテルを予約していたのでその日は帰り、次の日は日曜、動けないので水取邸に転がり込む。その後、独立記念日やらで手続きが出来ず、また便り待ちだったので好意に甘えてつい今日まで、四泊もさせて頂いてしまったのです(三食付きで)。

水取さんは男中(男の家政婦)はいるものの一人住まい(赴任して六ヶ月は奥さんと呼ばないのです)。その寂しさが少しでも紛れるのではと、自ら言い訳して(水取さんがそう言うって泊めて下さった)居続けたるのです。

幸い水取さんの仕事も今の所ヒマそうなので何より、忙しい時では本当にご迷惑だったでしょうからね。

アフリカの他の国でも殆ど安ホテルに泊まっていたのですが、ここでは一泊十ドルもするので驚いて、ホテルに泊まったのは二泊のみ、野宿が五泊、水取さんの家が四泊になったのです。

でもこれでヨーロッパに戻るとホテル代が高く思えて、うんざりするんでしょうねー。

インクが切れてきたのでこの辺でペンを置きます。
父上様、御身体御大事に
敬具

十月二十五日 ルサカにて
廣行拝

十月三十日 ムベヤ(タンザニア)にて

早川廣行の一人百首

序

日頃詠みて父母、許嫁、友輩などへ贈りし歌の数々、思いもせぬに集まりて百首になりたれば、一人百首としてここに集め、たらちねの慈母に送らんとするものなり。

思えばエチオピアの地にて我が婚約整いしを知り、初めて手に染めし歌

新しき 花を抱きて 我行かん

妻の決まりし この時から

なるを詠みしがこの年の八月一日の事、それからはや三ヶ月が過ぎゆきて、いよいよここ数日のうちに思

い出残りしこのアフリカの地を去るにあたり、ようよう百首詠み上げたるといふも面白く、収穫の多かりしアフリカの地にも、大いなる満足感を抱きつつ離れる事の出来うる心境なり。

父母、節子、兄姉、友、師、そして旅先で世話になりし多くの人に感謝しつつ

何よりも 有難きこと 弥陀のその

我導きし ひかりなりけり

千九百七十二年十月三十日アフリカの地にて

早川廣行記

新しき 花を抱きて 我行かん

妻の決まりし この時から

母を想ふ ただありがたく 有難く

神ともおもへ 仏とも思へ

旅先で 慈母に出会いし 心地せり

真実の母と 変わることもなき

このたびは 我と佛と 許嫁

父母も集いし 団体旅行

ザンビアで 日本の味を 噛みしめる

木村夫人の 心と共に

いずこでも 善き人に会う 嬉しさよ

行く先々が 我が家の如く

人ひとり 親しむ心 しろしめす

旅の情けか 涙こぼるゝ

地獄にて 仏に逢うとは このことが

何処の地にも 善き人の在る

出逢いとは まさに不思議の 一語にて

われ善き人に 常にめぐまる

何となく 思いださるる その人の

影しのぶにも 故郷遠し

われと我が 命をかけて 悔いは無し

この愛に勝つ ものやあるらん

愛らしき 君が御姿 我が胸に

浮びては消ゆ 想いのまにまに

何よりも 嬉しきことは 君のその

深き我への 思いなりけり

浅ましき 想ひも時に 起きるなり

されど我には 君がありしに

喜びを 分け与えし人 君なれば

仏の縁 深きを讃へ

いつ見ても 愛しと思ふ 君なりき

今も見るなり 現し身の影

今日もまた 独り宿りて 思わるる

尊き佛 君が御姿

君もまた 我を思いて 夜もすがら

たどるは同じ 愛の灯火

海ひとつ 越えさり行かば 故郷ありて

君の待てるを 知るは嬉しき

我が妻と 定めしその人 知るにつけ

縁の深さ 不思議とぞ思ふ

我が妻の 心こもりし お守りに

見守られつつ 無事旅続く

あい見ての 後のことども 思うだに

今の心の 変わらざらまし

童だに 一人荒野に 牛を追う

獣も人も 共に生きるや

マサイなる やり持つをのこ 乗り気たる

バスも通いし 草原の道

湖水だに 見えぬ程まで 集いたる

あの鳥の群れ フラミンゴにや

さざ波の 鉛に黄金 照り返す

まさに沈まん ケニヤの夕陽

よも更けて バスより降りし 異国の地

闇夜に沈み 人声も無し

枝が皆 青紫に 霞みたる

並木茂れり アリユーシャの街

紫の 桜の如く 咲き誇る

其がもとにあり このアリユーシャは

山路に 歩み疲れて 足を停む

鳥のさえずり にわかに強く

ただ独り キリマンジャロの 草原に

ひねもす遊ぶ 陽を浴びながら

登るたび 二度と来まいと 思ふ山

今またたどる 頂への路

雨降りの お蔭様にて 今日の日

思いもかけず はかどりたるとは

山小屋に 宿りし 夜の長かりき

陽の落ちたれば することもなく

人が皆 眠りにつきし 夜半の宿

独り眠れず 故郷を想う

アフリカに 万年氷の 美しさ

キリマンジャロの 頂に立てり

山路の 行く手に虹の かかりたる

我差し招く 早く来いよと

宵闇の 迫るにつれて 我が歩み

速くなるなり 疲れも忘れ

後になり 先になりして ひらひらと

蝶の道連れ ふもとへの路

我が膝の 痛むにつけて 思わるる

私の登りし 山の高さよ

足底に 出来しまめ供 痛みつつ

のろき歩みを 更に遅らす

詰めに詰め 更に詰めしし 満員の

バスにて日がな 続ける旅よ

故障をば するが普通の 事なりき

悪路を飛ばす アフリカのバス

真夜中に 壊れし車 中で待つ

獣の唸り 間近に聞こへ

バス駅に 宿りし二夜 ザンビアの

庶民を知るに 余りありけり

その人 でかいものだね ああそっさ

これが世界で 最大の滝

滝壺に 虹のかかりて 興添へる

白き壁なり ヴィクトリア滝

爆煙が 雲と変わりて 雨となり

我らを濡らす ザンベジの滝

蒸し風呂と 冷気交互に 繰り返す

不思議なところ この滝の元は

キスムなる 湖水のほとり 陽も落ちて

今日の宿りを いかにとやせん

安宿に 独り過ごせし 夜半の月

我が身を照らす 泣けとばかりに

機械とも 思えぬ親しみ おぼゆなり

日頃慣れたる 腕にし時計

起き抜けに 自らたてし 茶の香り

国の匂ひに 静けき心

異国にて 手にする文の 嬉しさよ

我と故郷とを 繋ぐ架け橋

今日来たる 君が便りの なかにさへ

書かざる経の 満ち溢れたる

長きこと 読めずもありし 今ここで

手にする文の 何と嬉しき

この度の 便りによりて 我が慈父の

健やかならぬ 知るは悲しき

こぬ便り あて無く待つ身 やるせなき

この地発つ 目処も立たねば

予定せし 彼の地へ行けぬ 事情あり

我待つ便り 気にはなれども

今日もまた 続くる旅に 期待して

得るに得られぬ 安けき心

虚しさの 涯なん土地よ いづくにか

訪めるべくは 心のうちに

されど我が 旅路の涯に 何求む

往きつく先は 彼の岸なるを

黄昏に 重き荷負いて あてもなく

歩き回るに 心も疲れ

我が胸の 痛みを人の こと問わば

知りつつ出来ぬ 弱さなりけり

折に触れ むしように故郷へ 戻りたく

飛行機の便 調べたりもす

われかれと 何故に目くじら 立てなざる

われも他人なり 他人もわれなり

時雨にも ものの哀れを 感ずるは

ひとり旅なる 侘しさならん

自らの 小さき人ほど 拘わりて

おのれおのれと 申すなりけり

古の 唐の昔の 人でさへ

おのれを忘る 浮世の間に間に

どの世でも 役人ぶりたる 人のある

心の狭さ 哀れと思ふ

他の人の ことを思ひて 何かする

慈悲の心の 無きぞ悲しき

誰も皆 己可愛が 先に立つ

無私の心の なんと尊き

錯覚も 倒覚さへも 偏見も

すべてこれ皆 得意が私

物盗りの 心哀れに 思わるる

怒り湧かぬも お陰様なり

何もかも 忘れて独り 旅を行く

まさる楽しみ 何のあるらん

ひまありて独りごと 対話する

そが何よりも 充てる時なり

旅に出て 何より嬉しき こと一つ

ひもどく書物 心に染みる

自らの 家庭だにさへ 幸福に

出来ぬ男に 何の出来よう

父母ありて 家族集いし 喜びに

まされるものや この世にあるらん

自らに 蒔きし種をば 刈り取るが

いやが応にも 今の我なり

豊かにて 広き心で 世の中を

渡りて行かん 我が名のごとく

親様の お蔭様にて 生かさるる

摩訶不思議なる 逢瀬の縁

振り返り 心の内を 振り返り

その愚かさに 呆れ果てたり

愚かさが 弥陀の救いの 種ならば

光りにあいて 芽ばゆを待たん

旅に出て 人間らしき 生活の

如何なるものか 知りたる気せり

なんとまあ 菩薩なりけり 我と君

求むる心 忘れざりせば

おのがじし 心の内に 分け入りし

旅の幸なり 無我の喜び

われ独り 砂漠を行くも 安らけく

同行二人 内なる佛と

我が身なる 心の内に おわします

佛の目にて ものをば見ばや

弥陀頼む 心の弱さ そのままに

般若の智慧に 生かさるるかな

生かさるる 己を知りし 今既に

まさされる旅の 糧他にありや

何よりも 優れし獲物 狩たれば

続けるサファリ おまけの旅と

何事も 思ひ患らふ こともなく

ただひたすらに 船を待つ今

今はただ 胸に秘めたる この願い

大事に守り 育てるときか

いつの日か　この我が思ひ　花咲て

枝もたわわに　実りの秋と

何しても　嬉しく楽し　喜ばし

もの見る視点　正しくあらば

自然とは　我がはからひを　捨つるとき

弥陀に全てを　お任せのとき

死ぬことに　不安あれども　今のわれ

素直に迎え　待てる気をする

生かざる　生死離れて　生かざる

幸喜びて　今日も旅ゆく

我が旅も　終わるべき日の　見へたれば

心は既に　帰国の道へ

結文

真宗信者の生活は慚愧歡喜の毎日とかねてこの方間
き及ぶ。まさに今我その如く眠り満ちたるその朝は、
まこと生かざる喜びに心晴れ晴れ日本晴れ、勇躍歡

喜の心地にて、只ひたすらに頼みます弥陀の誓いに救
われた、我が身の幸せ感謝しつ素直に生きる生かされ
る。

一されど黄昏近き頃、心に暗雲忍び寄り邪悪な迷いの
湧き起る煩惱盛りのこの我が身、何とも悲しく恥ず
かしく、虚しき思い起これども、未通りたる大慈悲の
弥陀の本願真実にて、親鸞様も共々に大乘の舟に乗り
合わすこの幸ひを信じつつ、強く明るく生き抜かん。

合掌

千九百七十二年十月吉日アフリカにて　早川廣行

十一月二日コペンハーゲン（デンマーク）にて　繪筆書

十月三十一日アフリカはタンザニアから、十一月一
日昼、パリ乗換え（一泊）で無事北欧コペンハーゲン
に到着いたしました。当地は気温五度から十度前後。
ダレスの三十五度前後の蒸し暑い所から飛んできて寒
さが身に染みます。暫く休んで疲れが取れたら、パリ
そしてロンドンへ戻り帰国の準備をします。現在の東
京羽田着予定は三月五日夕方です。

草々

十一月二日コペンハーゲンにて

廣行拝



コペンハーゲンからの絵葉書 表面

六月かけ 旅せしこの途 飛行機で

僅か半日 何とも可笑し

朝焼けの あかねに映えし 銀翼の

先に光れる 朝露のたま

十一月八日 デンマークにて

母上様、コペンハーゲンからパリへ向かう途中の汽車の中です。コンパートメント（列車の車室、二等は六人分一室です）の中は全員白人（当たり前ですが）、文明人と一緒という事は、何かと楽で安心な事です（たまに例外もありますが）。じろじろ見る無作法な奴も、隙あらば盗もうと身構える奴も、やたら話しかけて来る奴も、我が物顔に振る舞う奴も、物凄じ量の荷物を持ち込む奴も、辺り構わず大声で喋くりまくる奴も、臭い匂いを撒き散らす奴も、汚い奴も、泣き喚き垂れ流す赤ん坊も、偉そうに踏ん反り返る奴も、すべて居ません。礼儀正しく、静かで、端然と座している人々、自分の降りる駅が来れば、いつの間にか静かに居なくなり、また他の人が静かに入ってくるだけ。まるで水族館の内にも居るがごとし。

車掌も一度検札に来れば顔を覚えて、駅毎に見回りにはきませんが、二度と切符を見せろとは言いません。

列車も時間が来れば静かにホームを離れて行くだけ、アナウンスも発車を急かせるベルも鳴りません。

ここは文明国です。北欧です。……

一人百首以降の近作紹介 アフリカで

アフリカを 離れるべき日 近づきぬ

我に安心 与えしこの地

黒んぼは ガンコで愚か 度し難く

思へる日々も 多く有りしが

今まさに 別れに際し 黒んぼも

すべて親しく 目えたりもする

何となく わが体臭の 黒人と

同じゅうなるか 匂ひ嗅ぐなり

虫下し 飲まずばならん 思へども

スワヒリ語 では何と云ふ

パリのオルリー空港で

乳色に もや流れ出で

一筋の 雲輝ける オルリーの朝

今飛びし 便にて飛ばば わが祖国

明日朝未だき 着かましものを

赤き火の 球の見えたり 乳色の
もやたなびける 地平の涯に

同胞の 顔顔会話 そこかして

懐かしくあれ 素知らぬ顔で

コペンハーゲンにて

北欧は 哀しからずや チーズ臭

そこはかとなく 漂うばかり

北寒し 雲厚くして 凍てつくし

踏み分け行きし 落葉侘びしき

風強き 翌朝見事 冬晴れの

空の青さに 落葉の赤く

北国の 冬の陽差しよ 哀しけれ

昼より既に 長く影引き

欧州の 列車の旅の 楽しけれ

時刻になれば 静かに発つが

アンデルセンの生地オーデンセにて

アンデルセン 生まれし土地と 言われける

静かな街よ 想いのごと

遠い過去 想いでの如 かすかにも

香り漂ふ 霧深き街

混むことを 知らぬが如き 北国の

列車の旅よ 侘びしかりけり

停車場の 賑わいなどは 何処にも

見えぬが北の 常なるらんや

北国と南国の何という相違でしょうか。氣候だけではなく、人種、人心から全てが違っている様です。どちらが良くてどちらが劣っているのか、一概に軽々しく判定する事は出来ない気がします。

文明化という事であれば、文句無しに北国の圧勝ですが。今日はこの辺で。皆様お変わりなくお元氣であらせられます様に。父上の御身体はその後如何ですか？ 十一月六日デンマークオーデンセにて 敬具

廣行拝

十一月十日 パリにて 3

父上様、昨夜パリに戻って参りました。十一月一日付けの二通の便りJALにて拝受。御叱りの言葉、肝に命じております。いつもながら父上様の行動力には

感服します。早崎師に会うのは私が帰国してからの事と思っております。仲人をお引き受け下さったとの事、何よりの朗報です。本来私がすべき事を、父上様に肩代わりさせてしまった事、申し訳なく思っております。只々感謝でございます。

その後御身体の具合は如何ですか。御手紙によると御元氣そうにて何より安心しております。

結果として早崎師匠を裏切った様になっておりますが、私は決して裏切ったつもりは御座いません。約束の半年間の期限が切れる前に二回に渡り、引き続き旅行を継続したい旨の許可とお詫びを求め、礼を尽くした長い便りを早崎師の自宅に送っております。

もしそれが一通も届いていないのならば不幸な事ですし、受け取った上で師匠が許せんと言うならば、それも致し方のない事です。

仮にも半年という約束をして来て、それを一方的に破った私が全ての責を負うべきですし、その折の便りにも、師匠がこれで師弟の縁を切る、破門すると仰られても、私は甘んじて御受けします、しかし師匠がどう思われようと、私は早崎師を師匠として一生敬愛することに変わりはありません。いつの日か御恩に報いる事の出来る日を願っています。と結んでおきます

た。その後、折に触れ連絡場所や近況を現在までスタジオ宛てに送っています。しかし早崎師からは返事がありませんでした。

私が現在も早崎スタジオの社員であるかどうかは知りませんし、当然半年経った時点で解雇しているであろう事は、事務処理上からいっても予測しております。辞表も送っております。従って日本へ帰ってから周囲の状況によって、身の振り方を考えねばとは思っておりませんが、早崎スタジオにそのまま戻ることは想像さえしていませんでした。

日本を出る時点でも、早崎スタジオを私が抜けても、早崎師に最も迷惑がかかるまいと思える時期まで私は待ったのです。早崎師とも出国前に何度も話し合いましたが、私の考えていることが、世間一般の常識から外れていたが故に、平行線を辿るだけでした。ともかく早崎師は私のことを思って、出るのを止めろ、もし出るならなるべく早く帰れと。私は一度出たら三、四年は帰国しないつもりでしたし。

そしてその腹つもりはスタジオの全員、早崎師も含めて知っていたのです。

ただ言葉も出来ぬ早川のことだから（そして気の弱い、お人好しの）二、三ヶ月も外国にいたら、耐えき

れなくなつて逃げ帰ってくるであろうとは、またスタジオ全員が信じて疑わなかつた所でありましょう。

従つて早崎師が、私に半年の休暇を与えた事は、例えどんなに遅くともそれ以内に帰ってくるであろうと考えたからに他なりません。

私はその様に受け取っていました。そして私が抜ける事による直接的な損失が、スタジオにとつてさして大きくないことを知っていましたから、私の行動を早崎師が了解する事は無くとも、理解はしてくれるであろうと信じていました。

ともあれ、弁解は無用ですね。自分で蒔いた種は、自分で刈り取らねばなりません。父上に刈り取りの一部を先行して頂いてしまつた様で、心苦しく思っています。

ただこれだけは信じてください。少なくとも私は人間の道に外れた事をしたとは思っておりません。あの時点で取りうる最善の手は尽くした筈です。ただ早崎師に御納得して頂けなかつた事だけが、返す返すも残念で御座います。

お釈迦様もおっしゃいました。「全ての人から褒められ賛成されうる事は決して無いし、全ての人から謗

られ疎まれる事も決して無い。だから、他人の評価を
いちいち気にしても何の特にもならぬぞ」と。

長い人生です。自分で良かれと思つてした事が、
返つて他人から恨まれることもありますし、逆に悪し
かれと思つてした事で、感謝されてしまふ事だつて考
えられぬ事ではありませぬ。

自ら信じる道に外れる事無く、自我を離れた心で毎
日を大切に生きて行けば、何を恐れ、嘆き、憂い、悲
しむ事が有りましようか。

私は旅に出て、日本に居た頃の価値観がすっかり
ひっくり返つてしまいました。そんな私が日本に歸つ
て果たして、通用するものかどうか、父上や師匠も随
分歯がゆく思ふかも知れませんが、私は与えられた人
生を、自分なりに精一杯生き抜く、生かされ抜くつも
りしておりますので、どうぞご安心を。

結婚後の新居の件、アパートでも借りねばと思つて
おりましたが、最早すでに設計図もでき直ぐにも建築
に取り掛かる手筈との事、やはり父上も用意の良さに
は感服です。

結婚の事、新居の事、仕事の事まで、色々と本当
に、本当に有難う御座います。喜んで親様の御心に甘
えさせて頂きます。

我が身の幸せを感謝しつつ
十一月十日 パリにて
敬具
廣行拜

以下二首はブリュッセル（ベルギー）にて詠みし

それだけの 事それだけの なのは何故
人は常づね 求めて止まん

はじめに 無明ありきと 我が欲の

強くありしも その為ならん

追伸

手紙を読み返してふと思いました。今の私だつたら
日本を出る時点で、果たして出国したかどうか？

きつと、出国していなかったでしょう。でも今の私
は出国した、旅をした御蔭で出来た私です。旅に出た
事はプラスだったでしょう。何事にも代え難い程の
収穫が有りました。これをプラスと言わずに何をプラ
スと言えば良いのでしょうか。有り難う！有り難う！
全てのものに、全ての人に、全ての事に、感謝の心で
一杯です。

今日は土曜日。そして戦勝記念日。銀行も商店も全
てお休みです。東銀にはまだ行けていません。

毛沢東の「実践論・矛盾論」を読みました。中国が戦後着実に進展しているのも当然と思いました。あれだけの哲学を持った政治家が指導している国が、他にありませんか？ 小は会社の経営から国の経営に至るまで役に立つ思想です。

十一月十二日 パリにて 4

父上様、昨夜にひき続いての第二便です。パリで受け取った便りにより、私の結婚問題以外にも色々私の将来について、お考え下さっていることを知り有難く思っております。

私自身将来についての青写真が無い事は無いのですが、全て自分の計らいのみにて動いて行くものではないことを知った今、それに固執する事無く、日本に帰った時点での情勢に合わせて、然るべくはつきりした方針を決定しようとして、敢えて公表を差し控えていたのです。

それが逆に父上様始め皆様に御心配かける結果になつていたとは考えていませんでした。考えの甘き事よ、世間知らずよとお笑いでしようが、これも大陸ボケのなせる技かも知れません。

余りこせこせと先の事など心配しなくなる、又、しても仕方のないのがアフリカの万事でありますから。文明国に戻った今、そろそろ頭の切り替えをして、焦らなくてはいけなないのかも知れませぬ。

でも、もともとのおんびり屋の、何にでもじつくり時間をかけて取り組まないと、駄目な私のことですから、早急には無理ですが、ここで建前としての私の青写真を披露しておきます。日本における状態によって、どのように変化するか分かりませんが。

三月三日 夕方頃 東京羽田着 帰国

帰国挨拶回りおよび身辺整理

三月二十九日 午前十一時 結婚式 新婚旅行

四月初旬より 仕事のための準備・仕事開始

旅行記の編集と出版の打合せ

まず第一に早崎スタジオには戻らないであろうと言ふ事。私の進むべき道を決定するにあたって、誰よりもまず相談すべき人は早崎先生です。信頼を破り意に背いた事に対して、深く謝罪すると共に許しを乞うべき事は当然です。そしてその助言を何よりもの参考に決定すべき事です。ですから、先生に会って話を

するまではなんとも言い難いのですが、私の腹積もりでは独立したいのです。

父上が早崎先生に会って私の復帰をお願いして下さった事は大変嬉しく思っています。そして先生が従前通り師弟として認めてくださると仰って下さった事も、涙が出るほどありがたい事です。これはそのまま有難くお受けしますが、しかし、やはり独立はしたいのです。

一口に独立、独立と口先では言っても、私の如き実力・実績の乏しい人間が、写真家として世間に伍していく事がどんなに大変で難しいことかは、充分に承知しています。金銭的にも大変なことであることも存じています。

昔、アシスタントからカメラマンにさせて頂く段階で先生と、独立することと早崎スタジオで共同でやることの損得について、経済的効率から言っても、労力の点から言っても、独立することに何のメリットも無い事を言い聞かされました。私は論理的にはその通りだと今でも思っています。しかし独立したいと言うのは、私が外国へ行きたいと思ったのと同じで、理論を離れた感覚的な心の問題なのです。

今度の出国についても。早崎先生からは大いに反対されました。今のお前の状況を考えてみると。今が一番大切な時なのだぞ、今もし三年も外国に行って帰国したら、また一からやり直さねばならぬぞ、外国に行く事によってそれを上回る収穫があるのなら別だが、まずそれは考えられない。行くことは無駄である。やめなさい。と、そしてそれでも行きたいのなら半年あれば充分だから、なるべく早く戻ってこいよ。それがお前の為だと。

理論的にはその通りなのです。もし父上があの時、先生と同じくらい私の置かれた状況について知っていたら、きっと父上も反対したでしょう。私の事、私の将来を考えたら、常識的にはそれが当然なのですから。そして私は当然であることを知っていればこそ、その時。早崎先生に敢えて三年は行きたいから暇をくれとは言えなかったのです。そして心中三割が四割くらいは六ヶ月で先生の言いつけ通り帰国しようかとも思っていたのです。そんなところが私の性格です。弱さなのです。胸の痛みなのです。知っているのです。分かっているのです。でもやることを潔しとしない何かがあるのです。自分を欺きたくない。自分の心に忠実でありたいのです。

では、たとえ間違つていようと、他人に迷惑を及ぼさうとも、自分のやりたい事をやれば良いではないか！世間で少なくともひとかどの人物と言われる人間は、皆そうして来てるじゃないか。一人の大人物の陰には、彼のせいで何十人、何百人の小人物が泣いてるじゃないか。でもそうする事によって彼はまた、何十人、何百人の人々に喜びを与えているのだから、それで良いのではないか！ そう割り切れれば、私は苦労はしておりませぬ。それが出来ない生まれつきの気弱さ、良く言えば善意、良心が邪魔をするのです。

ですから日本にいた時の私は、その良心と欲との板挟み、矛盾の中で宙ぶらりんでもがいていたのです。そしてそれに耐え切れなくなつて、日本を飛び出して来たというのも、今回の旅の本音の一つなのです。でも旅に出てよかった！ 宙ぶらりんの煉獄から抜け出ることが出来ました。気障に言えば「青春への決別」とも言えましょう。

ともかく私は自分の良心に従う事に決めたのです。いえ決めたのではなく、そうでなくてはならないのだという事を知ったのです。ですからこれからの私は楽です。悩み迷う事が無くなりましょう。その時その時の良心の声に従い、もっとも正しいと思われる事を、

自我を離れて決定し、そしてそれに全力を尽くせば良いのですから。後のことは阿弥陀様にお任せです。「人事を尽くして天命に従う」です。待つのであればませぬ。横道が長くなりました。元に戻つて

止むに止まらず出国したのに、理論的裏付けが有つたわけでは無いのと同じ様に、独立したいという事に理論的裏付けが有る訳ではありません。

理論的には早崎先生の言つ通りスタツフカメラマンである方が、特に先生のスタジオの様なシステムを取っている所では、経済効率上から良いはずなのは分かっています。

しかし男ならやっぱり、どんなに苦労しても一国一城の主になりたいではありませんか！ 父上にはその気持ち、理屈抜きで分かつてもらえろと思ひます。

物理的に今すぐには駄目であるとするならば、少なくとも一、二年先には独立したいのです。

もしその間だけ早崎スタジオと言つのでしたら、それこそ余計迷惑をかける事になります。今戻るという事も父上の便り通り、早崎先生は兎も角、早崎スタジオのスタツフ達にとっては大きな迷惑のはずです。

独立するしないに関わらず、こと、他人に迷惑をかけたく無いとしたら、早崎スタジオに戻ることは良策とは思えないのです。

こちらに出てきて、辞めるつもりで辞表まで送って有るのです（届かなかつたらしいですが）。今更戻るといふことも私自身潔しとはしません。

ただ早崎スタジオの社員の身分で出てきて、そのままスタジオからは何一つ連絡がありませんでしたから、私としては早崎先生が私をどの様に思っているか、何一つ知る術が無かつたのです。

早崎先生を師として敬愛する心に変わりの無い私にとって、日本での身の振り方については、早崎先生にお任せする以外どうして良いのかわかりません。

従つて、私の計らいだけでとやかく思つても始まらぬ事、何よりも帰つた時点で先生と腹を割つて話し合つて、身の振り方を決めようと思つていました。いくら私が裏切つた形になつたとは言え、それに対して素気無くする様な師匠で無いことは。六年間の付き合ひで充分承知しております。

だからこそ、誰よりも師として崇め敬愛しているのです。そんな訳で私の腹積もりは、独立したいのです

が、先生との話し合いによつて、そして父上の助言と助力によつて、どの様になるか結果は未定です。

独立するとしたら物理的に必要な事は、都心の地の利の良い所に事務所（スタジオは必ずしも必須では無い）が必要。4×5大型カメラ、6×6一眼レフ、35ミリ一眼レフ、それぞれ専用レンズを含む一式。あとは露出計やチャートなど細かい物のみ。

人材は、良くできるアシスタント一人、経理を兼ねた秘書役の女性（年配でも可）一人の計二人。そして電話があればやって行けるのです。

最初の一年か二年くらいは、仕事も余り無いでしょう。家賃と人件費を払つたら赤字にならなければ良いといつたところかもしれません。

でも真面目に一生懸命やつておれば、如何に私に才能がなくとも、図々しさが無くとも、ともかく親子何人かの家族を、養つのに不自由はしない程度の仕事量は確保出来ると思います。

夢が無いと御笑いかも知れませんが、私はそれで充分だと思つています。人と争つてまで自分自身使い切れない程の、多くを収奪しようとは思いません。

妻も、それで満足するであろうと思われる、多くの坊亭主よと軽蔑したりすることの、無いであろうと思われる娘を選びました。

事務所の立地条件については、主に広告代理店関係とモデル事務所、現像所などの位置から言って、青山、原宿、六本木、赤坂、銀座、築地、京橋、神田あたりが好まれる様です。特に個人スタジオが集まっているのが、六本木、原宿、青山、界限で広告屋村とも言われています。同業者が集まっているという事は、便利ということの裏付けでもあります。アメリカで言えばニューヨークのマジソン街が広告のメッカで、ニューヨークのマジソンスクエアに事務所があると言えば、成功している広告屋の代名詞のようなものです。今の日本の広告界で言えば、さしずめ六本木です、と言えば、ああそうか！と言っくくらいの感じでしょうか。

北井三郎という早崎先生の後輩カメラマンが、六本木の交差点近くに事務所を持って、早崎さんところは正確には飯倉片町じゃないか、俺んところは真正正銘六本木だからね！と威張ってました。単純ですが、カメラマンには単純な人が多いのです。

その北井さんも随分立派な仕事をしている人ですが、渾名は「単細胞」。いつも早崎さん達に酒席の魚にされ、馬鹿にされて可哀想でした。

大きな賞も沢山とった、立派なカメラマンである北井さんを捕まえて、後輩だからと言って馬鹿にしている早崎先生も、かなり単純なんじゃ無いのかしら？などと思っただのは遠い昔の事。

私も優秀なカメラマンになる為には、単純に成らなきゃいけないのかと随分努力したのですが、やっぱり生まれつきなんですかね。未だ複雑人間のままです。

旅行記について

日本へ帰ったら、今度の旅を元にして本を書くこと思っています。本など書いた事がないし、どの様になるものやら見当もつきかねますが、色々な人からは非だしたら等と勧められ、その気になっているのです。協力してくれると言っ人もいますので。

個人的な旅行記も勿論ですが、それとは別にアフリカについての有益な旅行案内書を、これは神戸の大学の先生をやっておられる、キリマンジャロで知り合った市川さんという人と、共同して是非編集しようという事になってもいます。二人だけでは無く、アフリカ旅行中に知り合った多くの人々に協力して貰って、

出来るだけ正確な、有益な書にしようと思っ
ています。この市川さんという方は文学者
ですので、こういうことにも慣れてい
るので、よい本になると思いま
す。彼は現在ナイロビに住んでいます
が、やはり私と同じ三月頃に帰国の予
定なのです。

それやこれやで帰国後は色々
と忙しいそうです。楽しみ
みです。

以上がだいたいの大まかな私の腹積
もりです。色々考えることだけは、
微細に考えて計画も立ててみま
したが、所詮こんな所で考えた
ところで無駄なこと、日本に帰
ってみれば、どうなるか分からぬ
ではないかと、考える事は全て止
めました。

でも、これだけ暇に任せて色々
と、プランの検討を加えてある
ので、その場になってもヒョイ
ヒョイとプランが出てくるのだ
はと思っっています。それまで
心の片隅に仕舞っておくのです。
いくら思索しても実践しない
プランなど一文にもなりません
から。

□先人間よりは実践人間に、話
し上手よりは聞き上手に、なり
たきものと願っています。

倦まず弛まず、砂漠の涯のオアシ
ス目指して歩む様なつもりで、
一歩一歩人生を歩んで行きたい
と思っ
ています。

敬具

心にも 生活さえも 波風の

立たぬが吾の 目指す日々なり

十一月十二日(日) パリにて

廣行拝

十一月十六日 ロンドンにて 1

ご両親様、パリにて御金確かに受領
いたしました。又、ロンドンのJALに
ても保険証と二通のエアログラム
拝受、ありがとうございました。

既にご存知の通りキンシャサ
(ザイル)には行けません
でしたので、キンシャサ宛の便
りは受け取っていません。

既に早崎先生には御礼と御詫び
の手紙(そして今までの経緯につ
いても)をパリより父上宛と同時
に送っております。

又、カイロ宛の田島さんからの
便りと御金に対しては、御礼と
当時ある理由があつてしよげ
ていた彼女を、励ます為の便り
を受け取った時点(七月頃)で
送っております。どうやらそれ
も未着の様ですね。

私自身全て滞りなく、卒なくや
っているとは思いますが、少な
くとも、自分自身、後味の悪い
思いを残

す様なやり方は、義理を欠く、礼儀に外れた事はしたつもりは有りません。

全て郵便未着のせいにする事は出来ませんが、それが最大の原因になっている様です。

早崎先生宛の分も二通とも未着らしい事が、話の様子では窺われます。私にとっても早崎先生にとっても不幸としか言い様が有りません。

色々総合してみますと、今回の旅における通信は、かなりの率で、未着分がある様な気がいたします。

ザンビアの様にならうっかりすると八割から七割くらいしか着かないところも、有る様ですから。

田島さんにしても、私宛に何度か出して、その内三割か四割くらいが私に対して、未着になっているらしいのです。お陰で、私は便りを出してくれた事を知りませんから返事も出さず、逆に必要な通信もしてくれぬと、色々気を揉んだり、腹を立てたりしてたくらいです（今回の旅では早崎スタジオと私との関係がどうなるかわかりませんでしたので、田島さんに個人的に、日本と私の連絡事務を、お願いしてあったのです）。

そう言えば先回の私の宛名の連絡の字が汚かったせいと思われ、申し訳無かったのですが、ロンドン宛の

ローマ字の綴りが間違っていました。でも着きましたので良かったですが。正確な綴りをきちんと書いておきます。

MR. HIROYUKI HAYAKAWA

% JAPAN AIR LINES

8 HANOVER ST., LONDON W1

ENGLAND

十一月二十五日頃までですので、この便りが着いてからではちよつと遅ればせですね。

なお、送り先の宛先は、宛先をローマ字綴りであれば、差出人の住所氏名は日本語で良いのです。誰から来た手紙か気にするのは私だけです。

私の便りが、宛先を日本語にしているのは

TOKYO JAPAN だけローマ字にしておけば、日本に着いて後は、日本人の郵便屋さんか配達するのですから、日本語の方が間違いが少なからうと考えてのことです。

母上様が私の風邪を御心配ですが、確かにスーダンの砂埃で痛めてから、ずーと喉（気管？）の調子が悪く、ちよつとコンディション（体調）を崩すと、老人のように痰が喉に絡んで不愉快ですが、熱が出たりす

る様な事は有りません。今度の旅でつくづく私の身体は丈夫な事を知りました。丈夫というよりは限界を心得ているので、無理せず病気になる前に、休養をとって、コントロールする技術を会得したという事でしょうか。

持病の胃痛（胃痙攣）も指圧で直す方法を覚えまして。列車で移動中に知り合った少林寺拳法をたしなむむ日本人旅行者から伝授されたのです。キリマンジャ口で高校柔道時代に痛めた膝の関節炎が再発し、半月以上歩行に不自由したのも、限界を超えた事を無理を承知でしたからです。この場合、私一人ではなく山屋さんたちと団体行動を取っていた夕闇の下山の時点で、自分の体調を理由に、他の皆さんの足を引っ張りたくなかったからです。下山してしまえば後は私一人ですから、少々体に影響が出て、ゆっくり休養すれば良からうと考えた次第。

でも考えてみると、その時はそれが良いと思つて取った行動ですが、もし私が下山してから、仕事をしなければならぬ立場だったら、その時以上に他に迷惑をかける事になりますしね。

〈主要な矛盾というものは、時と場合によって変化する〉という、毛沢東さんの言葉通りです。

いずれにしろ、今後は妻の為、親の為、未来の子の為、そして自分の為に無理はしないことに致します。

父上も回復なすったとのこと、御目出度う御座います。御説の通り、夏の冷房、冬の暖房のし過ぎと言うのは、体の為に非常に良くありません。

人間の身体というのは良くしたもので、感覚的に夏の暑い間は暑さに敏感に成りますが、寒さに対しては逆に鈍感になります。

だから私の様に暑い所から急に寒い所に来て、始めのうちはそれほど寒さを感じずに、うっかり薄着をしていて風邪を引くという事があります。寒い時に暑さに対しても同じ事が言えます。

その様に感覚やホルモンなどの分泌が、場所、季節等に寄つてコントロールされておりますのに、短時間に暑寒を繰り返すことは、非常に良くないのです。極端な話、夏の水泳での心臓麻痺の様な事も起こります。父上も母上もそろそろお歳ですし、これから冬に向かつて暖房は部分的では無く、全体暖房した所に住むべきです。つまり居間は暖かいがトイレは冷える等という条件は、前記の様な意味でも最悪だという事です。

鎌ヶ谷なども父上方が使うところは温めておくべきです。冬の北欧が寒い事にかけては旭川並みで、東京など問題になりませんが、それ程重装備もせず冬の東京並みの衣装で、平気なのは都市全体（つまり屋内は全面的）充分に暖房が行き届いているからです。これが暖房無しだったら、何人凍死者が出るか分かりません。

冬にニューヨークで長期停電が発生、暖房がストップし、凍死者が沢山出たという話が、昔ありました。

だから、冬の北欧は全体としては、冬の東京より、冬のス페인よりはるかに暖かいと申せます。

夏のキリマンジャロ（赤道直下で夏冬は関係ありません）に登った時、下界にて、頂上はマイナス十五度になるから寒いので、充分に装備をしていく様にと注意されましたが、モスクワで、スエーデンでマイナス十七度から二十度の冬を体験している私は、その時の装備をそのまま持っていましたから、充分だと思っていました。ところがその寒さたるや実際には大変なものでした。頂上近くでの一夜は、睡眠薬をもらって飲んだにも関わらず、寒さで一睡も出来ませんでした。厚めの寝袋も何のその、ザックに足を突っ込んで暖かくはならず、夜通し震えていました。

何故こんなに寒いのか考えてみたら、北欧では戸外はキリマンジャロの頂上よりも寒いですが、屋内は二十度以上もあります。寒いのは戸外にいる短時間だけなのです。交通機関も駅もビルも広場まで床暖房されている程です。

ところがキリマンジャロは、戸外も戸内も薄いつタ板一枚隔てただけの、風除けにはなっていないも温度は同じなのです。どこにも暖かいところが無いのですから、寒い筈なのです。そして思いました。程度の差こそあれ東京の冬も似た様なもんなんじゃ無いかと。

東京の冬は北欧の冬よりも寒いというお話でした。

帰国の件、実は三月始めでも時間が足りなくて、もつと伸ばしたいくらいですが、欲を出しますと切りがありません。しかしこういう形での旅は二度と出来ないであろう事を考えると、是非やっておきたい為ですので、お許しください。

ほぼ確定としては三月三日の夕方五時頃のつもりであります。招待状の件、私個人の関係では、帰国挨拶を兼ねて殆どの人には、持って歩こうと考えていましたが、早めに出すべきでしたら、住所のわかる人は書いて置きますのでお願いします。

アフリカのナイロビからとタンザニアのダルエスラムから、夫々約五キログラムづつ、身の回りの不要になったものとお土産を送りました。船便ですので十二月末が一月始めに着くのではと思います。

鎌ヶ谷の住所で私（廣行）宛です。どんな形で連絡が行ってどうやって受け取るのか私はわかりませんが、連絡なり配達なり届きましたらよろしくお願ひします。とりあえず、私の部屋に放り込んでおいて頂ければ結構です。

お土産は世話になった方々へ差し上げる積りですが、分配方法も考えておりませんので、インドで買うつもりの方と合わせて、帰ってから考えます。

タンザニアからの分には、私の作品のスクラップが入っています。ヌードの作品などもありますので、日本の税関で問題にならないければ良いのですが。

双眼鏡も入っています。渋いグリーンで見た目は安っぽそうですがドイツのカールツァイス製で、五万円もします（日本では倍以上でしょう）。税金がかからねば良いが。

またアフリカからのこと故、着くかどうかかも四割くらいは心配です。やれやれ……世界の郵便事情の不確実さを痛切に感じております

ロンドンからも不要の身の回り品、船便で二十キログラムくらい送ります。これは別送品扱いにしますので、私が帰国してから自分で取りにゆく事になるでしょう。

そろそろユースホステルの消灯時間です。節子にも手紙を書くつもりでしたが、今日は駄目でした。

ロンドン滞在中の査証をとったり、調べ物をしたり、色々忙しいのであまり便りを、書く暇が取れないのが原因です。節子にもよろしくお伝えください。

いつも便りで節子のこと褒めてくださいますので、我が事の様嬉しく拝見しております。

ロンドンの冬は寒く、イギリス人の質実剛健精神の伝統が、ユースホステルも、安ホテルも何処も暖房など無く寒くてかたまりません。今、足先は完全に冷え切っております。マッサージでもしなくては眠れそうにありません。イギリス人は冬でも窓を開けて寝るようですが、これではとてもイギリス人にはなれそうもありません。

では、これにて さようなら

敬具

十一月十六日午後九時半 ロンドンのユースにて

廣行拜

十一月二十五日 ロンドンにて 2

都をば 早く抜け出ん 暖かき

南の国を 恋する心

都会は人間の心を粗雑にする

自然は人間の心を素朴にする

荒々しい心を抱いた人間同士が

意味もなく互いに憎み合い

見せかけの笑顔を投げかける

天候の悪さは、人間の心にまで

影を投げかけている

寒いという事は心までが、寒々しくなってしまう様です。暖かい南の国には暖かい心が育ち、冷たい北の国には冷たい心が育つ。

私の心も影響されて冷たく冷えてきた様です。近頃はとんと歌など浮かばなくなりました。早く旅立ちたいのですが、ロンドンに置いてあった荷物の整理や、アフリカ旅行での装備の反省などから、旅行用具を整えたりするのに、思いの外、時間が取られております。十二月始めには旅立つつもりですが、日本を出てからずーと履いていたブーツもついに寿命が来て、底

と上が分離、修理不能で新しく登山靴を買いました。靴に限らず殆どの物が、日本から持ち出した物は駄目になりました。

時間の流れを感じさせてくれます。同じく髪も大分薄くなりました。洗髪が楽だけど、やはり、何となく秋風の頭にしみる佻しさかな、です。

ロンドンでは留学中の精神病理学者、黒田さんという人にお世話になってます（泊まってはいませんが）パリでは山本様にお世話になった御礼とお暇を言ってきましたが、来年には帰られるとのこと、お子様たちが帰国を楽しみにしておられました。今後の連絡先は、節子にしておきました。伝えてくれると思います。一応インドでの連絡先は封筒裏に記しておきます。面白いもので、旅行中は結構便りが書けるのに、今の様に一箇所に落ち着いていると、便りを書く暇がなかなか有りません。心が落ちつか無い所為かもしれません。

多分一番大きな理由は、旅の孤独の中にいる様な、人恋しさを感じない所為でしょう。都会にしていると何故か何かしないとイライラしてきます。自然の中での様な、ボケツとした時間を持つ気になれないのです。

都会生活者は不自然人間だとつくづく思います。マサイ族の様な落ち着いた都会人はほぼ居ないと言ってよいでしょう。また便りします

十一月二十五日ロンドンにて

敬具
廣行拝

十一月二十八日 ロンドンにて 3

ご両親様、先日節子より便りありて、早崎先生に父上が御会いした事に関して報せてきました。そして私の旅行延期を早崎先生が知らなかった結果、ご両親も非常に怒っていらっしゃる様で、私も悲しくなつてしまふ。でも廣行さんが連絡してない等という事は信じられない、何かの間違いでは無いかと言つておりました。

確かに間違いの結果なのですが、ご両親様ばかりか節子まで悲しませてしまった事は、全く私の不徳の致すところで、大いに反省しております。

手紙だけではなく電話して、率直に私の気持ちを述べておけば良かったと、私の大嫌いな後悔をしています。しかし済んでしまった事はいた仕方なし。

自らの 蒔きし種をば 刈り取るが

いやが応にも 今の我なり

その通りで御座います。

私の気持ちは先便にて述べ尽くしているので今更言及はしますまい。ただ何の関係もない節子まで悲しませてしまったということが、可哀想でなりません。

私を信じている事は嬉しかったけど。節子よ！ごめんね。

今回の便りはその事でなく、家の事に関してです。

異国から勝手に希望を述べる虫の良さは気が引けますが、もしそうできるものでしたら、一、三リクエストしておきたい事があります。

① 一階のトイレは洋式に、地下のトイレは和式にしたい。

② 地階の車庫と技術室の両方に上下水道の設備をして置きたい。車庫に水がいる事は当然として、技術室に暗室を作るつもりなのです。

③ 応接間、北東の六畳間、中間の六畳間はしっかりした板敷(すなわち洋間)にしたい。南西端の八畳と六畳は畳敷きで、後の部屋は全部洋間にしたいという事です。

私の腹案では、応接間西隣を子供部屋に(何人子供が出来るかわかりませんが、二段ベッドを用意して子供で居る前は、気の置けない客人の寝室に充てるつも

り。そんな客人も居候めいたものも含めて、多そうなきがするし、重要な御客様は南西端の和室にお泊めします。南西端の二間を客間に、応接間はいわゆるリビングルーム（居間）に、北東端の六畳は寝室に（ベッドの洋間）、四畳半は食堂にしようと思えます。子供部屋と食堂はPタイル敷き、寝室は板張りに絨毯という事になりましょうか。別に外国旅行の結果、洋風被れしたのでは無く、日本に居た時からほとんどベッド生活をしていた事、そして現実に、食堂にしろ寝室にしろ、子供部屋にしろ、洋式の方が合理的かつ実際的であると思うからです。ただ土足で家にかかるのは、必ずしも合理的とはいいかねます、和室の良さも充分に知っています。ともかく私は日本人ですから。寝室における筆筭について。既成の筆筭ではなく作り付けの戸棚にしたい。注：次ページ図参照

ベッドルームはベッドが大きいので、なるべく床面積を広くしないと狭苦しく、安ホテルの様になつてしまふ。その為にも既成の家具を入れた無駄な空間占有はやめて、床から天井までフルに利用でき、しかも便利な作り付けの戸棚にしたい。ベッド生活に押入れは不要。作り付けの戸棚にする事で浮いた空間は、床としてフルに利用すべき。ベッドルームに洗面設備は不

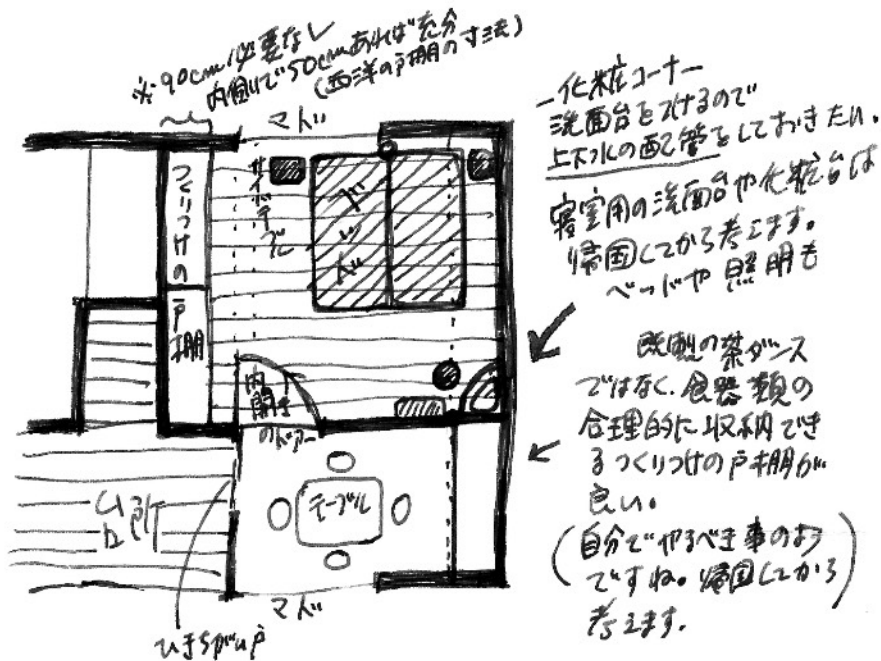
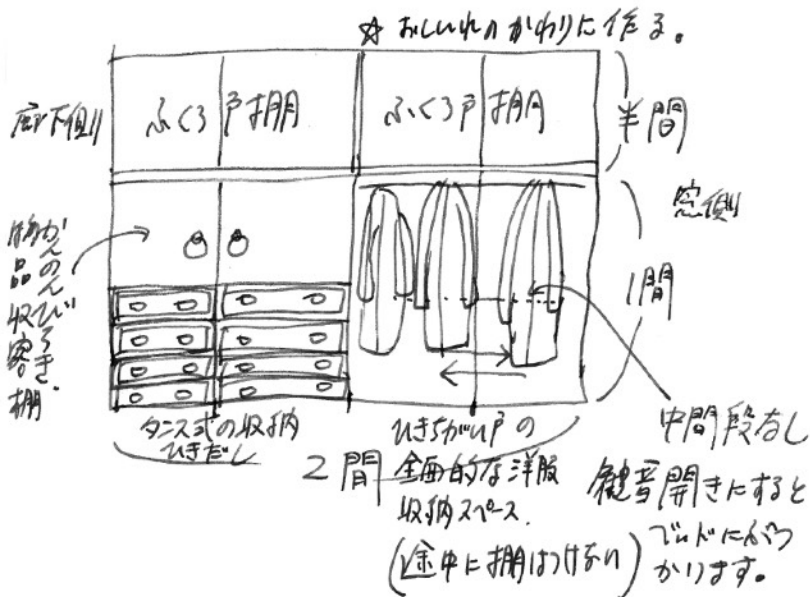
可欠です。フランスだとこれにビデが必ずつきまします。千住の二階部分を移築利用するという事で、制約があるでしょうから、私の希望は無視していただいて結構です。次項などは特に。実現は無理でしょうね。

④金銭的に許されるならボイラー式のセントラルヒーティング（温水パイプによる床下暖房）を設備したい。

正直な話ロンドンにいてつくづく思っているのは、北欧に比べてロンドンの居ごちの悪さです。何故なら北欧は何処に行っても全面的にセントラルヒーティングなのに、ロンドンはやほど近代的なところで無い限り、部分暖房で、古い暖房システムは機能してないところが少なくなく、今私の居る部屋は暖房が効かなくて寒くてかなわないのです。

日本に帰るにあたり憂鬱な事の一つは、日本家屋における冬の寒さです。贅沢かもしれませんが出来たらボイラーはまだでも、将来可能な様に床下暖房の為の設備と配管だけでもして置けないものでしょうか。家が出来上がったからでは床下の配管は難工事になつてしまします。

父上母上様に泊まりに来ていただく時の為にも、和室と便所と廊下だけでも床下暖房の設備をしておきた



いものです。

後の細かい事は節子の希望で全面的に構いません。父上の設計はそのまま非常に良いと思います。多分節子の希望はお勝手周りのことになると思いますが。

浴室は和風が何よりです。洋式バスはいまだに私の性に合いません。色々勝手なことばかり申し上げて済みません。これは私の希望に過ぎないのであって、現実には、施工上の、予算上の制約がある事と思いません。どの様な形になれ、父上の御心に深く感謝し節子と共に喜んでゐる事を申し添えて、ペンを置きます。

十一月二十八日 ロンドンにて
敬具
廣行拝

十二月二十七日メシエッドにて

ご両親様、十二月二十二日ロンドン発、十二月二十三日モスクワ（一泊）經由メシエッド（イラン）着。

正月はアフガニスタンのカプールで過ごし、インドのニューデリーへは一月十二日ごろ着、カトマンズ（ネパール）は二月中旬から下旬。バンコック（タイ）經由、香港經由で帰京は三月三日の予定、香港↓東京はほとんどの便が夜着くものばかり。なるべく午

後早めに着きたいものですが、便次第ということになりますか。

こちらの寒さはロンドン以上です。東京も寒いでしょう。御体御大切に。

私は相変わらず元気であります。時間の都合でベイルートは寄りませんでした。テヘランには便り無しで、ロンドン以降便りは貰っていません。

国をまたぐ移動が重なりお便りが間遠くなり申し訳ございません。
草々

十二月二十七日 メシエッド（イラン）にて

廣行拝

一九七三年一月八日ラワルピンデにて

テヘランよりアフガニスタン国内を通過、首府カプールにしばらく滞在後、カイバル峠を越えてパキスタンに來ました。首府イスラマバッドに程近いラワルピンデに草鞋を脱いでおります。

明朝インド国境近くのラホールと言う街に向かうつもりです。

十一日は週に一度の印パ国境開放日ですので、その日に通過、十二日にはニューデリーに到着の予定。

日程が大幅に遅れている事以外は、つつがなく旅行は進んでおります。

日増しに故郷が近付くと言う事は、毛唐旅行者の日毎異郷に踏み入る、興奮と心細さに比べ、私には落ち着きと安心を与えてくれます。あまり便りを出せませんが、状況を踏まえて、悪しからずご了承ください。どうぞ、ご心配はなさいませぬように。 お元気で！

一月八日 ラワルピンディにて
敬具
廣行拝

一月十四日 ニューデリー（インド）にて

母上様。ニューデリーにて一月五日付のエアログラム 拝受、有難う御座います。一月十一日パキスタンよりニューデリー入りました。

インドは予想通り面白いところです。今回は時間が無いので、最もインドらしい南部を周ることが出来ませんが、北部を見ただけでいつの日か、旅してみたいと思わせるような気にさせるところです。

もちろん観光地として整備され、楽しく快適で美しいとは必ずしも言えないでしょうが、人々の暮らしも含め、興味深いという意味では抜群です。

正月もつつがなく幸先良く過ぎたようでも何よりです。私の方は正月らしさなど微塵もなく、カレンダーは年が変わっても実感はありませんが、インドカレーの辛さが増しているのに、日本への距離遠からぬことを感じております。節子も正月を越して益々、早川家の一員としての実感を深めている様です。

私も節子も幸せ者です。良き親、良き師、良き友に恵まれて……

ロンドンより荷が二つ届いたとの事ですが、内容を詳しくお知らせください。というのは、日本入国の税関で、別送品として申告するかしないかの問題がありますので。アフリカより九月と十月に一つずつ計二個送っております。それはもう届いたのでしょうか。

ロンドンからは十一月に船便で大型のボストンバッグ（身の周り品入り）と、小型のアタッシュケース（カメラケース）計二個送りました。この二つは別送品として、私自身が帰国してから税関にパスポートを持って取りに行く予定なのですが、それが家まで既に届いたという事でしょうか。もしそうだとすれば、帰

国の際、税関に別送品の申告をしないで済むことになりませんが、アフリカからの二個だけで、ロンドンの分は連絡のみでまだ取りに入っていないのでしたら、私が入国時に申告して自分で取りに行くことになりま
す。海外旅行の面倒なところですが（そうすると別送品手荷物として免税になるのです）。その点正確に御連絡ください。よろしくお願いいたします。

郁代ちゃんの仲人を頼まれてゐるとの事、という事は彼女も近々結婚するという事ですね。御目出度う御座います。三月三日は結婚式ですか。結納なのでしようか。何れにせよ私の出迎えなどにはどうぞお気遣いなく。三月三日という日も日が良いので予定しただけで、飛行機の都合や旅程変更に合わせて未だ決定ではありません。ズボラで言うのではなくそれが海外旅行と言うものなのです。周囲の環境や状況によって変化します。まるで人生そのものです。それに臨機応変に対応するのが世渡りの術と言えましょう。

この帰国旅行も随分と当初の予定から変わってしまいました。もし変えまいと努力すれば、予定に近い線は出来ませんが、内容ははるかにお粗末なものになるでしょう。本末転倒になるのは避けたいと思います。

この先もインドのカルカッタ以降、どのようなコーヌをとるか決定していません（一応予定はしてありますが）。ネパールで決定できるつもりです。

二月十日ごろまでにカルカッタのJAL宛お便り下さい。 どうぞお元気で 敬具

一月十四日ニューデリー（インド）にて 廣行拝
カルカッタJALの住所

Mr. HIROYUKI HAYAKAWA

% JAPAN AIR LINES

35-A CHOWRINGHEE RD.,

CALCUTTA 16 INDIA

一月三十日 パटना（インド）にて

ご両親様、無事に旅を続けております。インド北部には仏教の遺跡数が多く、非常に興味深く時には感動的でさえあります。お釈迦様が悟りを開いたと言われる場所、ブツダガヤや、始めて御説教をなすつたと言われる、サルナートの菩提樹の下にある仏教寺院（内部に野司司香雪と言う仏教画家が描いた大壁画があります。1936年完成）お釈迦様が好んで御話をなさる時に座した菩提樹の大木は、このあたりにはたくさん茂っています。

今の季節の北インドは旅行に最適と言われるくらいで（我々貧乏旅行者にはちょっと寒過ぎますが）日陰よりも日向を求めたくないので、さして意味もありませんが、五十度近くもなろうと言う夏の陽射しの下では、この大木の木陰が、疲れた人々にとっては何よりものご馳走だった事でしょう。私も真夏のスーダンで木陰の有難さを体験、痛感してまいりましたのでよく分かります。

常緑の菩提樹は今も青々と葉をつけており、広い木陰を地面に落としています。

インドでの一大奇観として音に聞こえた聖地ベナレスの沐浴風景は、冬の事として思ったほどの人出ではありませんでしたので、寂しいと言えそうですが、何れにしても確かに見ものと言えましょう。

水浴びる人心の季節変化はあれど、死に人の季節選ぶ事もなく、続々と詰めかける死体は、ただひたすらに川原で灰となりゆきて、ガン河の岸边にあだし野の煙絶える事も無く、夕べには益々赤々と天を焦がし、川面に揺れる灯火に無情を感じるは、我一人に在らず遠く近く聞こえゆく読経の声にも、ふと自らの死のにほひを感じ取り、頬強張らせ立ち竦む外人観光客の群れそこかしこに集いたり。



インド観光地における露店風景、何処へ行ってこんな感じの土産物店等が

明日はネパールのカトマンズの地へと飛ぶつもりです。陸路を予定していましたが治安の問題と、時間がかかりすぎるので空路に変更しました。

ネパール観光が終わり次第、心置きなく帰国の途へと、ひたすらに急ぐのみとなりましょう。もう一月も過ぎ行けば、懐かしき皆様に御会い出来ると、心躍っております。この後の予定を下記致します。

二月十五日まで カトマンズ（ネパール）

二月二十日まで カルカッタ（インド）

三月三日頃まで 香港

帰国は三月五日午後のつもりで切符手配する予定ですが、香港まで行きませんと最終決定ができません。なるべく早く香港へ入り決定次第連絡いたします。一応、三月三日は除く、三月五日前後でと言う事で、ご了承下さいませ。 敬具

一月三十日 パटना（インド）にて 廣行拝

二月十六日カトマンズ（ネパール）にて

御両親様、無事旅行も、お陰様にて大詰めを迎えております。ポカラからアンナプルナ、ダウラギリ方面

への、ヒマラヤ山中高度五千メートル前後の峰々を巡るトレッキング（山歩き）は、旅程の都合で行程を短縮はしましたが、やはり素晴らしく、ネパール山岳民族の暖かい友情と人情に感動し、チャンと称するドブ口（地酒）に酔い、高歌放吟深夜に及び、翌朝遅発ちを繰り返し、キリマンジャロ登山の経験はここに深く生かされ、豆や関節炎、高山病に悩まされる事も無く、快適な山遊びを過ごすことができました。

往復二度目のカトマンズは以前よりも安く、かつメインバザール（主要商店街）に程近いG・C・L・O・D・G・Eなる安宿に泊まっています。

ここでも痛感しているのですが、やはり旅は下町の庶民の中に宿らねばならぬと。山の手の閑静なホテルに泊まっては、その国その土地を知った事にはなりません。東京でも下町の味が東京らしさなのですから。

さてカトマンズでは土産物の収集に走り回っております。さして安いとは思わねどもチベットや、ブータンからきた装身具など面白き物の多ければ、楽しい土産にはもってこいと思っております。

パキスタン、インド共にチーク材などで全面的に彫刻した箱細工に安くて良いものがあつたのですが、ここネパールはそれらより遥かに緻密で上等なものがあ

ります。カードボックス、宝石箱、手文庫、煙草入れなどですが、アリアン人種に比べ、モンゴル人種の勤勉さを箱の細工からも窺い知ることが出来る様です。

買おうかな、買うまいか、迷っております。何故なら箱が大きいので船便で送る必要があるからです。

それで無くともせっかく軽くしてきた荷物もまた重くなつてきております。今や我がリュックは買い出しの小母さんの様に、ガラクタ、貴重品、衣類、石ころ、など諸々の土産物で溢れかえっています。

一月十八日はネパール中お祭りで賑わう予定です。十八日まで滞在して十九日にカトマンズを出るつもりです。この二、三日中に突然ドルが切り下がり、一般旅行者は多いに焦つて狼狽えております。私は例によつてノンビリしておりますが、飛行機の切符が値上がりするなどと言われたのに、ちよっぴり腹立たしく思つたりはしているのです。大国の横暴と憎むべきニクソんに乾杯！

一両日中にはネパールを離れカルカッタ（インド）へ、そしてタイのバンコックに約五日、香港に五日滞在。三月五日（月）十五時（午後三時）東京羽田着のJAL704便にて帰京の切符を予約致しました。

お会いできるのを楽しみに

敬具

二月十六日 カトマンズにて

廣行拝

二月二十一日 カルカッタ（インド）にて

ご両親様、カルカッタに到着、手紙受けとりました。全部で六通ありました。アフリカと一緒にキリマンジャロに登つた山屋の土井さんからの便りもあり懐かしかったです。

しかしカルカッタは流石に熱いですよ！ 暑いと書くべきでしょうか、熱いというのは夏のアラビア半島、北アフリカのことで、乾いて屋外では目玉焼きが焼ける雰囲気の形容ですね。この辺の今の季節は日本の夏の気候と同じで、とても暑くて湿っぽく蚊がブンブンと飛び回っております。カトマンズではとても浴びる気にならなかつた冷水のシャワーが気持ちよく、毎晩浴びねば寝られぬといった感じですよ。この後のバンコック（タイ）は 三々五月が夏で最も気温が上がる時、そして香港とずーっと熱い地域の旅ですから、毎日シャワーを浴びて、日本に帰つた時は思つたよりも綺麗になつて帰れそうです。さて、帰国時の服装を考えねばならぬ時期にきております。まだはつきりし

たプランは無いのですが、香港で調達するつもりでお

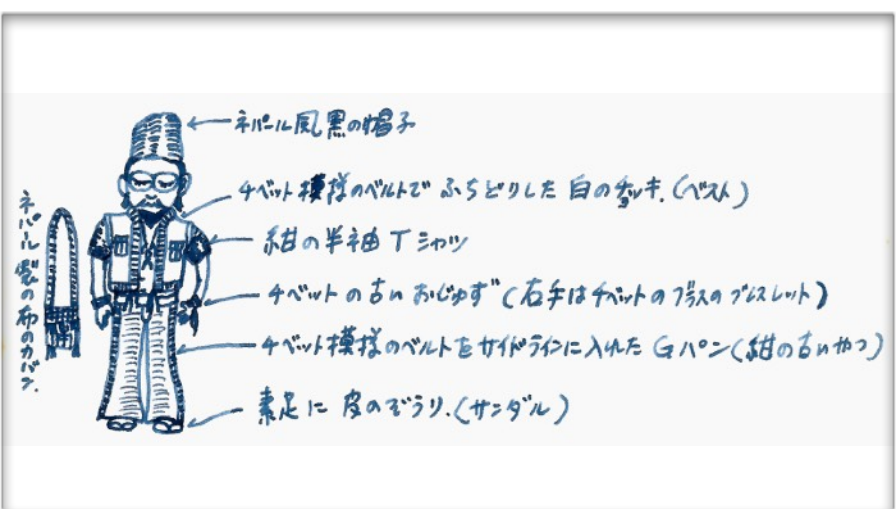


ります。横浜を出る時にはホワイトデニムのGパン上下でした。

旅行中はほとんどブルージーンズに紺色のTシャツもしくは木綿のY

シャツでした。現在のスタイルはちよつと奇抜らしいです（自分では当たり前と思っているのですが）、人はメキシコ人もしくは新車のヒッピースタイルであると評価します。インド人の古い師スタイルとして通用するといった男もいました。

首にかけているネックレスは、一見アフリカの酋長から頂いた風の牙が四本ついたサンゴと紫檀のビーズ製（自作）。長らく首から下げていたコンパスは、今は腰から下げています。何故かと言うとアラブ圏では通りすがりのおっさんまで、光り輝く胸の磁石に興味を示し、見せる見せるとしつつこく、見せると売れ売れとまた煩いので、目立たないところに移動させた次第。考えてみると、今のこのスタイルは、ネパールや



インドであるからこそ、あまり人目を引きませんし、当たり前のような気さえしますが、きつと羽田では人目をひくんでしょね。多分このスタイルでは帰らない筈です。安心を。明日の午後にはタイのバンコックに飛びます。長髪は切って行きますが、髭は剃るつもりは無いので、ヒッピー風外国人の入国拒否をしている日本と同じ位、お堅いタイ国移民局を無事通過できますかどうか、自信はありません。もし入れてくれなかったら入国してあげないだけです。

香港は出国航空券さえ持っていれば入れてくれる筈です。移民局の話で思い出しましたが、世界中で最も厳しいと悪評高い日本国入国管理局、及び税関においては、私ごとき長期貧乏旅行者の帰国に関しては、特別念入りに調べてくださるそうです（麻薬や大麻、ドラッグなど所持していかないかを中心に）。別室につれて行かれ、裸にして調べられるなどという話も聞きました。人権侵害ですね。そんなケースは事前情報などがあつた場合か、余程怪しまれるような行動をとつた場合なんでしょうね。私は大丈夫。各国の豊富な税関通過経験がありますから。

従って飛行機が時間通りに羽田に着いても、入国、通関手続きが済んで外に出られるのは、五時か六時ごろになりそうな気がします。出迎えは早くとも四時ごろで充分間に合うと思います。

敬具

二月二十一日 カルカッタの安食堂にて 廣行拝

次頁写真は三月五日東京羽田国際空港に到着した廣行。香港で仕立た三揃えのテーラードスーツに身を固め颯爽と。頭にネパール風の帽子を被っているのは貧乏旅行気分がまだ抜けきれていない所為だろう。サムソナイトのスーツケースを押しながら右肩に掛けたポロポロのフレームザックもその名残かな。

出迎えた節子が撮影

三月二日 香港 九竜の国際酒店にて

ご両親様、旅先より最後の便りを送ります。三日後の三月五日には懐かしき故郷の土を踏むかと思えば長かった我が旅の来し方思いつつ感無量、心境筆舌に尽し難く候。ともあれ全ての労苦は忘却の彼方へ押しやりて、弾む心もてタラップを降りること必定、今は最後の寄港地、香港のひと時を楽しむべく心掛けております。帰国のフライトは直行便が取れず台北国際空港（台湾）経由（トランジット）です。

では再会を楽しみに！

三月二日 香港九竜国際酒店にて 廣行拝



三月五日午後四時羽田国際空港到着
羽田空港では父親、節子を始めハヤサキスタジオの同僚が出迎えてくれた。

懸念した税関での取り調べも通常通りで、特別なことはなくスムーズに通過することができたのは幸運だった。香港で三揃えのオーダースーツを逃えて、着込んできたのが役立ったのかもしれない。

出迎えの皆様にご挨拶した後、家族で鎌ヶ谷の実家に向かい、帰国歓迎会に臨んだ。

節子と二人きりでゆっくり語らいの時間を持てたのはその夜も更けてからのことだった。

ウェブサイトにアップしてみても気がついた。父親が二十歳で新婚の新妻を残して徴兵先の朝鮮羅南に向かって旅立ったのが昭和二年十一月三十日、満期より半年早く帰休除隊として自宅に戻ったのが昭和四年六月七日、一年半後の事だった。廣行が旅立ったのが昭和四十六年十月十九日、帰国したのが昭和四十八年三月五日、一年五ヶ月後の事だった。若干月日はずれているが同じような季節に同じような期間、愛する人を日本に残して外地に行っていたという体験が四十四年後、図らずも約半世紀の月日を隔てて親子の間で再現されていたという事は、偶然とは思えず親子の縁の深きことあらためて痛感させられた。

サバンナに沈む夕陽に涙して

著者 早川廣行

制作・発行 早川廣行

2022年4月12日発行

発行所 ポレポレハウス

連絡 h-hayakawa@denga.jp